

刑事判例

▲採證法違背並理由不備ノ違法

五百圓トシテ松井候補ノタメ沼澤方面ノ選舉運動ヲスルコトニシ共ノ中二百圓ハ星信雄カ松井候補カラノ取不足金二百圓ノ埋合セニシテアリ尚千三百圓中カラ二百圓位ヲ浮セテ其ノ金ヲ選舉委員ノ運動報酬ニヤツタリ出來レハ自分ノ運動報酬トシテ取リ度イと思フテ居マシタアリ又同問答ノ末尾ニモ同趣旨ノ供述アリ其ノ他同被疑者訊問書全部ヲ通讀シテ二百圓ヲ取不足金ニ充當シ二百圓ヲ他ノ運動者達ノ報酬ニ充當シ自己ノ報酬トスルノ意思ナリシ事明カニシテ又被告ノ對スル起訴後ノ訊問調書ニヨリテモ同趣旨ナルコト明確ナリ仍テ千五百圓中完全ニ分割シ得ル第一ノ二百圓ハ星信雄ノ前思ナリシ事極メテ明確ナルモノナレハ星信雄ノ債權ニ充當セントスルノ意思ニシテ斷シテ被告ノ利益ヲ得ルノ意思ナリシモノニアラス此ノ二百圓ハ被告ノ如ク投票取調メノ費用ニアラス又被告ノ他ノ對スル選舉運動報酬ニアラズ然ルニ原判決ハ金錢ノ用途ニ對シ證據ト別個ノ判示ヲナシタルハ證據ニヨラスシテ誤認ナリト云ヒ

與フヘク殘金千五百圓ノ中判示沼澤方面ニ於ケル投票取調運動ノ實費ヲ支辨シタル殘餘アラハ被告ノ自身ノ運動報酬トシテ之ヲ被告ノ所得ト爲スヘキ意思ヲ有シ居リ該意思ノ下ニ右文書ニ對シ右千五百圓ノ供與ヲ要求シ同人ノ承諾ヲ得タリト云フアリテ即チ被告ハ於テハ右要求金額ノ中二百圓タケハ原判示ニ係ル右被告及他ノ選舉運動報酬及運動實費ニ充ツヘキ金額トハ別カニ之ヲ區分シ是等トハ全ク別個ノ用途ナル前示星信雄立替金ノ取分ニ充ツル爲其ノ支出ヲ要求シタルモノニシテ被告及他ノ他ノ選舉運動報酬及運動實費ニ充ツヘキ金額ト不爲シ其ノ供與ヲ要求シタルモノニ非スト云フニ歸ス然レハ則チ右調書記載ノ被疑者堀仙次ノ供述ハ前掲原判示ト同ト同一趣旨ナリト謂フ得サルヤ明カナリトス從テ原審カ該調書ニ該原判示ト同旨ナル右被疑者ノ供述記載アリトシ之ヲ唯一ノ資料トシテ該原判示事實ヲ認定シタルハ證據ハ極メテ薄弱シ延テ證據ハ外ハハカラス又右調書記載ノ右被疑者堀仙次ノ供述ニ依レハ被告ノ原判示安藤文雄ニ對シ供與ヲ要求シタル金千五百圓ノ中被告ノ利益信雄ノ前示立替金取分ニ充テタルハ意思ナリト二百圓ニ付テハ被告ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第九十六條第一項第四號ノ犯罪成立スヘキモノニ非サルコト明カニシテ之ヲ換言スレハ右調書記載ニ於ケル被疑者ノ供述記載ノミニ依リテハ右金千五百圓ノ金額ニ付犯罪成立ノ事實ヲ認ムルニ足ラサルニ拘ラス原

(三六)

刑事判例

▲採證法違背並理由不備ノ違法▲法律誤解ノ違法

犯意繼續ノ上第一、前同月七日及八日ニ互リ新潟市西堀通五番町ナル前記議員候補者ノ選舉事務所ニ於テ其ノ選舉事務長安藤文雄ニ對シ同議員候補者ノ爲同市沼澤方面ニテ約三千八百圓ヲ取調メヘキニ付該選舉運動ノ費用及被告ノ他ノ者五百圓ヲ供與セラレタキ旨申込メ以テ利益供與ノ要求ヲ爲シ第二、(一)前同月二十四日情ヲ知ラタル渡邊豊太郎ヲ介シ前同市沼澤山田昌平ニ對シ前同議員候補者ノ選舉委員タル昌平ニ對シ同市沼澤石崎信次方ニ於テ同上選舉委員タル信次ニ對シ夫々同人等カ前同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ金十圓宛テ供與シ(二)前同月四日前同市沼澤星信雄方ニ於テ之亦前記議員候補者ノ選舉委員タル竹内利造ニ對シ前同趣旨ヲ以テ金五圓ヲ供與シタルモノナリ以上ノ判示事實中被告ノ供與シタルモノノ額出テ了シタルモノナルコトハ被告ノ當公証ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認ムルヲ得ヘク判示第一ノ事實ハ(證據)犯意繼續ノ事實ハ短時間ニ同種犯行ヲ反覆セル事跡ニ徴シテ之ヲ認ムルニ足レリ仍テ判示全事實ハ其ノ證明十分ナリトス之ヲ法律ニ照スニ被告ノ判示第一ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第九十二條第一項第四號ニ判示第二ノ所爲ハ執行モ同條項第三號ニ該當スル處右ハ連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條ニ依リ一罪トシテ右衆議院議員選舉法第九十二條第一項所定刑中適當ト認ムル憲法第九十二條第一項刑罰範圍内ニ於テ被告ノ憲法第五

其ノ他ノ被告等ニ關スル本件公訴及附帶訴訟ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス【理由】(中略)辯護人平松市藏同伊藤陽介上告趣意書第十二點ハ原判決ハ提律錯誤ノ違法アリ原判決ハ被告ノ西村源次郎ノ行爲ニ對シ「被告ノ源次郎ノ判示所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第九十二條第一項第一號刑法第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑期中云々」ト判示シタルカ其ノ對據タル認定事實ハ「被告ノ有江伊作被告人大屋義隆被告ノ西村源次郎三名ハ昭和十年九月八日直方市西町ナル被告伊作方ニ於テ同候補者ヲシテ當選ヲ得セシムルニハ豫テ被告等カ直方支部會ノ選舉運動費用トシテ民政黨支部幹事長原英次ヨリ貰受ケ被告ノ義隆ニ於テ保管シ居リタル金一千圓ノ一部ヲ同市内ニ於ケル民政黨幹部ニ分割シ該幹部ヲシテ前記候補者ノ爲ニスル推薦狀ニ要スル費用及選舉情勢報告等ノ選舉運動費用ニ充テシムルヲ得策ナリトナシ其ノ配布先金額等ヲ協議決定シ翌九日ニ至リ(中略)被告源次郎ハ其ノ選舉事務長ニ選任セラレ云々」ト判示セリ右ニ依レハ西村被告カ有江及大屋兩被告ト共ニ判示金千圓ノ配布先金額等ヲ協議決定シタルハ昭和十年九月八日頃ニシテ當時西村被告ハ未ダ選舉事務長ニ選任セラレザリシモノナルヲ以テ其ノ協議決定ハ無資格者トシテノ行爲ナリトス而シテ西村被告ハ判示金額ノ分配實行ヲ爲ハ關與セザリシコト判示ノ如クナル以上原判決ノ同被告等ニ對スル犯行認定ハ右協議決定ニ參與シタル事實ヲ措イテ他ニ之アルヘキ事由ナシ果シテ然ラハ西村

(三七)

刑事判例

法律解説ノ違法▲電車軌道ニ接近セル木柵ニ止レル年少者ト運轉手ノ注意義務

(三八)

法令ノ違反ナルヲ以テ當院自ラ判決スヘキ場合ナリトス...

電車軌道ト六寸位接近セル箇所ニアル木柵ニ止レル年少者カ止リ居ルヲ無視シ...

側ノ左ヨリ三本目ノ處ニ噴ミ付キ電車ノ行過タルヲ待チ居タルニ云々ナル供述...

木柵ハ極メテ線路ニ接近シテ設ケラレ居ル上右軌道ハ三領カトシテ...

刑事判例

▲電車軌道ニ接近セル木柵ニ止レル年少者ト運轉手ノ注意義務▲被告事件ニ付檢事ノ陳述ヲ聽カシテ爲シタル裁判

(三九)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十一條ニ則リ主文ノ如ク決定ス...

地點ニ於テ約二十四米突前方ナル東京市蒲田區御園町二百三十二番地...

人ノ前額額部ニ全治四週間ヲ要スル挫傷ヲ負ハシメタルモノナリ...

事陳茂源殿ノ三名ナル處之カ判事三名ヲ以テ新ニ構成サレタル原裁判所ニ於テ...

刑事判例

被告事件ニ付検事ノ陳述ヲ聽カスシテ爲シタル裁判

一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル場合ト賭博罪ノ不成立

(四〇)

ハ同法第四百四十條ニ所謂事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスヘキ法律ノ違反アリタルモノト謂フヘシ(前示御院昭和四年(九)第一四七一號判例同旨)ト謂フニ在リ

十二年四月七日事實審理開始ノ決定ヲ爲シタル因テ審理ヲ遂ケテ判決スルコト左ノ如シ

右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ノ一日ニ換算シタル期間當該被告ノ勞務場ニ留置ス

右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ノ一日ニ換算シタル期間當該被告ノ勞務場ニ留置ス

刑事判例

一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル場合ト賭博罪ノ不成立

一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル場合ト賭博罪ノ不成立

(四一)

衆ノ自由ニ出入可能ノ場所ニ於テ公然ト博トセシカ金銭ノ授受アルハ勿論ナルヘク又秘密裡ニ勝負シタルキモ必セリ右ノ事實ニ徴スルモ被告等ニ賭博ナリトノ觀念ナカリシコトハ明カナルモノナリ法律カ賭博ヲ罰スル所以ノモノハ之ニ依リテ正業ヲ違忌シ以テ財産ヲ濫費セシムルコトヲ防止スルニ在リ之ノ目的ニ反セサル以上ハ嚴ニ處罰セサルヘカラザルモノニ非サルヲ以テ本件ニ關シテハ賭博ノ狀況ヲ參酌セテ無罪ノ判決ヲ爲サルヘキニ不有罪トセラレタル誤リアルモノト信スニ假リニ被告等ノ行爲カ賭博罪ヲ構成スルモノトスルモ原判決ハ刑ノ量定甚タシク不當ナリト思科スヘキ顯著ナル事由アルモノナリ凡ソ刑罰ハ公平ニシテ被告ノ心服スルコトヲモテナラザルヘカラス之ヲ本件ニ付見ルニ被告等ハ同善一ハ略式命令ニ於テ罰金三十圓ニ處セラレ正式裁判ノ結果罰金二十圓トナリ原審ニ於テモ同様ノ言渡アリタルモノナリ右被告兩名ト一審以來同一立場ニアリタル杉村政秋、本間隆太郎、北川虎雄、河野甚吉、山縣義信ハ原審ニ於テ科料ニ處セラレタルモノナルニ右兩名ヲ區別セラレタル理由ハ原審ニ於テ理由ノ發見ニ苦シムモノナリ寧ろ輕シト雖決シテ重カラサルモノナリ被告老月清治同河戶源ハ一審ニ於テ罰金二十圓ニ處セラレ原審ニ於テモ同様ナリシモ右兩名被告同立場ニアリタル水島岩與ハ原審ニ於テ科料トナリタルモノニシテ之亦兩者間ニ區別セラルヘキ理由ナキモノナリ被告等次郎、同三郎、同橋次郎モ前記水島岩與

刑事判例

一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル場合ト賭博罪ノ不成立

遊戯ノ盛ナル時ニ於テハ此ノ營業者等ハ客ニ對シバツト等ヲ客ニ提供シタルヲテ...

收賄罪ノ認定ト重大事實ノ認定

昭和三十二年(一)第三〇二九號 本籍並住居香川縣綾歌郡端岡村大字...

刑事判例

收賄罪ノ認定ト重大事實ノ認定

元村會議員無職 中村與一 昭和三十二年(一)第三〇二九號...

昭和三十二年(一)第三〇二九號 本籍並住居香川縣綾歌郡端岡村大字...

刑事判例

町會議員選舉ニ際シテ爲シタル些少ノ酒食費應ト犯罪ノ無證明

收受シタル合計七十圓賭博ト然ラサル部分トヲ分別シ難ク且之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項ニ則リ被告人ヨリ其ノ一部ノ償額ヲ追徴シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ノ負擔トスヘキモノトス仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條第四百五十五條第三百五十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

町會議員選舉ニ際シテ爲シタル些少ノ酒食費應ト犯罪ノ無證明

昭和十一年(レ)第三五〇二號 本籍並住居佐賀縣小城郡小城町大字 栗原九百四十七番地 佐賀縣中等學校々友會被服贈與專任理事

右町會議員選舉則違反被告事件ニ付昭和十一年九月十七日佐賀地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタルリ因テ檢事德江治之助ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ 【主文】 被告ハ無罪

(四四)

員候補者ナリシトコロ同月十九日前記住所ニ於テ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人ナリ野田伸一、西令吉、香田米吉、橋本新太郎及富永重七ニ對シ選舉運動及投票ノ報酬トシテ各二十錢相當ノ酒食ノ費應ヲ爲シタルモノナリト認定シ被告人ヲ選舉法ニ所謂選舉運動ニ關聯シタル然レトモ同罪ハ自己ノ當選ヲ得又ハ投票ヲ得ルノ目的ヲ以テ運動員又ハ選舉人ニ應應スルニ因リテ成立スルモノニシテ一般ノ慣習トシテ社交上食事時ニ訪問客ニ對シ食事ヲ供シタルモノトモ同罪ヲ構成スヘキモノニアラス被告人ハ原告公判官等カ打連レテ自分ヲ訪ネ來リ今日部落ノ協議會ニ於テ費下ヲ滿場一致ニテ今日選舉ニ立候補シテ費ヲ事ニ決シタル故是非立候補シテ費ハ度々ト申シタル故自分ハ選舉ニハ經驗モナク又議員ニ出ル考ヘモ無カリシ故之ヲ固辭シタルニ則リ過ニ至リ自分モ判示ノ者等ノ勸告ト部落ノ開演ヲ圖ル爲漸ク之ヲ承諾シタルモノナルカ其ノ間ニ妻ハ判示ノ人々ハ食事前ナルカ其ノ平素ノ慣習(自分方ニテハ食事時來客アレハ食事ヲ出ス慣習アリ)ニ依リ有合セノ物ニテ食事ヲ製シタルモノニシテ該食事ハ勿論自分ノ立候補承諾前ノコトニシテ選舉ニ關スルモノニアラスト陳述スルノミナラス第一審第二回公判調書中證人江島マツ陳述ノ部ニ「問同日被告人外五名ノ者ニ酒食ヲ出シタルコトハ相違ナイカ、答、相違アリマセヌ...」問、如何ナルコトカラ出シタルカ、答、話ノ模様ヲ聞キマスト同日青年俱樂部

部テ會合アリ其ノ儘直ニ私共ニ來ラレタ様子アリマシタカラ私ハ夕食ノ有無ヲ訊ネタ處未タ食ヘテ居ラストノコトアリマシタカラテアリマシ...」問、斯ル酒食ヲ出シタルカ即吉ノ命ニ依ルモノカ、答、否左様テハアリマセヌ私ノ氣付ケテ出シタルテアリマシ、問、被告伸一外五名ノ者カ即吉トハ豫テ懸念ノ間柄カ、答、富永重七、西令吉、野田伸一トハ懸念ノ間柄アリ富永重七ヤ西令吉等ニハ選任ニ私宅ニ來テ際食事ヲ出シタルコトカアリマス(記録六七二丁裏)同公判調書中證人坂本令次郎陳述ノ部ニ「問、證人カ即吉宅ニ出入スル際食事ノ應應ヲ受ケタコトカアルカ、答、度々アリマス日曜等ニ行ツタ時ニハ晝カラ夜迄遊シテ居リマシタノテ良ク御馳走ヲ受ケテ居リマス(記録六七九丁裏)同公判調書中證人馬場米一陳述ノ部ニ「問、江島卯吉方ニ行ツタ際食事等ノ御馳走ニナツタコトカアルカ、答、昨年正月ニ小學校ノ拜賀式ニ行ツタ歸途野田伸一、西令吉、香田米吉、橋本新太郎、富永重七、濱野伊三郎ト共ニ行ツタ際酒ヲ酌等ノ御馳走ニナツタコトカアルカ(記録六七七丁)ト各記載アルト何處ノ家庭ニテモ其ノ食事時來客ヨリハ食事ヲ製シテ待遇スルハ我國古來ヨリ行ハレ居ル善良ノ風俗ニシテ特ニヘキモノニアラスト一面被告人ノ立候補ハ被告人ノ發意ニアラスシテ區民ノ協議會ニ於テ被告人ニ立候補シテ費ヲ出ス決議シ被告人カ固辭スルニ拘ラス區民ノ代表者カ區及町ノ開演ヲ圖ル爲ナリト被告人ニ立候補ヲ懸願シ漸ク被告人ヲ決意セシメタル事實ヨリ推ストキハ被告人カ

判示食事ヲ製シタルハ判示ノ者等ノ勤心ヲ得テ當選ヲ得ルノ意思ニ出テタルモノニアラスシテ被告人ノ妻カ慣習ニ依リ判示食事ヲ製シタルモノニ過キサルコトヲ認ムルニ十分ナリトス從テ被告人ノ行為カ選舉法ニ所謂選舉運動ヲ構成スルモノニアラサルナリ然レトモ原告公判官等ノ爲シタルモノナリト認定シ被告人ヲ同罪ニ關連處斷シタルハ重大ナル事實ノ誤認アリト疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリモノニシテ破毀ヲ免レルモノナリト信スト云フニ在リ仍テ記録ヲ査スルニ原判決ニ所謂論ノ如ク重大ナル事實ノ誤認アリコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリコトヲ認ムルハ論旨ハ理由アリ依ツテ論斷ノ論旨ニ對シテハ其ノ說明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

對シ被告人ハ上告ヲ爲シ昭和十二年四月十六日本院ニ於テ刑事訴訟法第四百四十三條ニ依リ決定ヲ爲シタル上同法第四百四十四條ニ從ヒ審理ヲ遂ケタルトコロ上告ノ理由アルコト右決定ニ説示スルカ如クナルヲ以テ同法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原告決ヲ破毀ス 被告人ハ無罪

【理由】 本件公訴事實ノ要旨ハ被告人ハ昭和十一年四月二十五日執行ノ佐賀縣小城郡小城町町會議員選舉ニ際シ議員候補者ナリシトコロ同月十九日同町大字栗原九百四十七番地ナル自宅ニ於テ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人ナリ野田伸一、西令吉、香田米吉、橋本新太郎、富永重七ニ對シ選舉運動及投票報酬トシテ各二十錢相當ノ酒食ノ費應ヲ爲シタルト云フニ在リ

【判決理由】 仍テ案スルニ被告人カ原告町會議員選舉ニ際シ議員候補者ナリシコト野田伸一外四名カ孰レモ選舉人ナリシコト及被告人カ前記日時場所ニ於テ右野田伸一外四名ニ些少ノ酒食ヲ提供シタルコトハ被告人ノ當審公判官ニ於ケル其ノ旨ノ供述其ノ他記録ニ徴シ明ニ證明セラルトコロナルモ右酒食ノ提供カ前記ハ如ク被告人カ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テスル投票運動ノ各報酬ニ出テタルトノ點ハ之ヲ認ムヘキ證據ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條後段ニ則リ被告人ニ對シ無罪ヲ言渡スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

大審院第四刑事部、裁判長野野吉 被告 池田 重義 列事 日下 巖 列事 池田 重二 列事 十川寬之助 昭和十一年(レ)第三五〇二號 本籍並住居新潟縣佐渡郡新穂村大字 上新穂六百七十七番地ノ三 荒物雜貨商 渡邊 子 朗 (大正四年十二月十六日生) 右贓物故買被告事件ニ付昭和十一年六月十八日新潟地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタルリ因テ檢事佐々波與佐次郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 被告ハ無罪

【理由】 辯護人海野青吉、高橋己之助上告趣意書第二點理由アルコト本院カ昭和十一年十一月二十七日言渡シタル事實開始決定ニ説示スルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ更ニ被告事件ニ付審理スルニ本件公訴事實ハ被告人ハ新潟縣佐渡郡新穂村大字上新穂ニ於テ荒物雜貨商ヲ營ムモノナルトコロ昭和十一年六月初旬ヨリ同十一年一月月上旬迄ノ間意圖續續シテ數回ニ亘リ前記居宅ニ於テ第一審相被告佐藤伊作ヨリ同人カ其ノ雇ハレ先ナル同村保證責任新種信用購買販賣利用組合ヨリ取得シ來レルモノナルコトヲ情ヲ知リナカラ當時一般賣價一樽十四圓餘ノ黑砂糖四十樽ヲ一樽十圓餘宛ニテ一袋二十七圓餘ノ中双糖三袋ヲ一袋二十圓餘宛ニテ一袋九圓五錢宛ニテ一木八十五錢ノ清酒勇駒其ノ他一升壺九本ヲ一木七十錢宛ニテ一箱三圓餘ノ饅頭素麵十箱ヲ一箱二圓位宛ニテ一箱一圓餘ノ半紙三箱ヲ一箱七圓三錢宛ニテ一箱一圓餘ノ石油九十罐ヲ一罐一圓九十錢宛ニテ一木一圓ノ罐耐一升壺十六本ヲ一木八十錢宛ニテ亞鉛板十枚ヲ九圓五十錢ニテ夫々買受ケ以テ贓物ノ故買ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リ

【判決理由】 仍テ記録ヲ査スルニ右公訴事實中外形事實ハ之ヲ認ム得ルモ知情ノ點ハ之ヲ認ムヘキ證據ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條後段ニ則リ被告人ニ對シ無罪ヲ言渡スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

科刑ハ重キニ失スルモノト謂フヘシ本件ニ關スル司法警察官意見書ニヨルモ第七犯罪ノ情狀トシテ被疑者子朗...」等ハ犯罪事實ヲ半ハ否認シ居ルモ伊作ノ供述並ニ四圍ノ狀況ヨリ其ノ事實明ナルモノト思料サルモ被疑者等ハ孰レモ買受價格ニ於テ相當出金シ居ルモノト思料サルルヲ以テ之等ノ點ヲ御參酌ノ上今回ニ限リ適當ノ御處分相成度及意見候也トアル程ニテ被告ノ本件行為ニ對シ同情的意見ヲ附シ居ル位ナレハ御院ニ於カレテモ事情御斟酌ノ上原判決ヲ破毀セラレ度ト云フニ在リ

【判決理由】 仍テ記録ヲ査スルニ原告町會議員選舉ニ際シ議員候補者ナリシコト野田伸一外四名カ孰レモ選舉人ナリシコト及被告人カ前記日時場所ニ於テ右野田伸一外四名ニ些少ノ酒食ヲ提供シタルコトハ被告人ノ當審公判官ニ於ケル其ノ旨ノ供述其ノ他記録ニ徴シ明ニ證明セラルトコロナルモ右酒食ノ提供カ前記ハ如ク被告人カ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テスル投票運動ノ各報酬ニ出テタルトノ點ハ之ヲ認ムヘキ證據ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條後段ニ則リ被告人ニ對シ無罪ヲ言渡スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

【判決理由】 仍テ案スルニ被告人カ原告町會議員選舉ニ際シ議員候補者ナリシコト野田伸一外四名カ孰レモ選舉人ナリシコト及被告人カ前記日時場所ニ於テ右野田伸一外四名ニ些少ノ酒食ヲ提供シタルコトハ被告人ノ當審公判官ニ於ケル其ノ旨ノ供述其ノ他記録ニ徴シ明ニ證明セラルトコロナルモ右酒食ノ提供カ前記ハ如ク被告人カ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テスル投票運動ノ各報酬ニ出テタルトノ點ハ之ヲ認ムヘキ證據ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條後段ニ則リ被告人ニ對シ無罪ヲ言渡スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

刑事判例

町會議員選舉ニ際シテ爲シタル些少ノ酒食費應ト犯罪ノ無證明

(四五)

對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス仍テ
主文ノ如ク判決ス
檢事村上常太郎

昭和十二年七月二日
大審院第四刑事部、裁判長野野野三郎
判事 沼 義雄 判事 駒田 重義
判事 吉田富太郎 判事 十川宜之助

●所謂三百取縮法時ニ關スル效力

法律事務取扱取縮ニ關スル法律ハ昭和十
一年四月一日ヨリ施行セラレタルモノナ
ルカ故ニ同法第二條所定ノ權利讓受行為
カ同法施行前ニ完了シタル場合ニ於テハ
舊令同條所定ノ方法ニ依リ權利ノ實行カ
同法施行後ニ行ハレタリトスルモ同法違
反トシテ處罰スルヲ得ス
昭和十二年(レ)第八三九號
判 決

本籍熊本縣下益城郡東砥川大字遠
野三千五百五十三番地
住居熊本縣下益城郡砥川大字土喰
百三十六番地
料理屋業 藤 本 哲
(明治三十三年一月十五日生)

右法律事務取扱取縮ニ關スル法律違反
被告事件ニ付昭和十二年四月九日熊本地
方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ
對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決ス
ルコト左ノ如シ
【主文】 原判決ヲ破毀ス
被告人ハ無罪

【理由】 辯護人吉田安上書趣意書一、上
告人ハ昭和九年十二月廿九日居村ナル下
益城郡砥川町ニ於テ小寺源藏ヨリ同人カ

島田榮ニ對シテ有スル六十五圓ノ貸金ヲ
三十五圓ニテ讓渡ヲ受ケ昭和十年三月申
御縣裁判所ニ之カ請求訴訟ヲ提起シテ
勝訴ノ判決ヲ受ケタル後昭和十一年五月
中該判決ニ依リ島田ヨリ有體物產ノ差
押ヲ爲シ以テ該貸金ヲ取立タル外ニ上
告人ハ昭和十一年二月申木住居ヨリ其ノ
岩本末彦ニ對シテ有スル百五十圓ノ債權ヲ七十
圓ニテ讓渡ケ同年七月上旬頃迄ノ間ニ前
掲同様ノ訴訟手續ニ依リ該債權ノ實行ヲ
ナシシ、次テ義ニ高住彦太郎ヨリ眞田忠
藏ニ對シテ有スル百四十圓ノ債權ヲ讓渡ヲ受
ケ昭和十一年五月二十日頃前同様ノ方法
ニテ該債權ノ實行ヲ爲シ昭和十一年
二月中野田トキヨヨリ其ノ後藤光男ニ對
スル百三十五圓ノ債權ヲ及野田辰喜ヨリ
後藤光男ニ對シテ有スル三十圓ノ債權ヲ各讓
渡ケ同年十月十九日マテノ間ニ前同様ノ
方法ニテ之カ取立ヲ爲シ五、上告人ハ昭
和十年八月申田原松太郎ヨリ地都田利右
衛門ニ對シテ有スル百十圓ノ貸金債權ヲ讓渡ケ
昭和十一年六月上旬頃迄ノ間ニ前同様ノ
方法ニテ之カ取立ヲ爲シシテ其ノ權利ノ實
行ヲ爲シタルモノナリ以上何レモ原
審裁判ノ判示スル處ニシテ疑ヲ容レザル
事實ナリ由是觀之御縣裁判所及昭和十二年
五月二十七日判示相成タル如ク本件モ亦
(一)權利讓受ノ行為ト(二)權利ノ實行
トノ二行爲ニ區別シテ觀察スルヲ得ヘク
即チ其ノ何レモ上告人カ前債權者ヨリ適
法ナル權利ノ讓渡ヲ受ケ又ハ判決ヲ受ケ
タルハ法律事務取扱取縮ニ關スル法律
タル新法ノ實施セラレタル昭和十一年四
月一日以前ノ行為ナルコト一見明瞭ナリ
トス故ニ新法實施後タル昭和十一年四月

一日以降ニ夫レノ之レカ執行又ハ取立
ヲ爲シタリトスルモ上告人ハ既ニ明ナル
カ如ク新法實施以前ニ完全ナル債權者ト
ナリ居ルヲ以テ假令新法實施後ニ執行又
ハ取立行為ヲ爲シタリトスルモノハ單
ニ權利ノ實行行為ニ外ナラサルヲ以テ何
等新法タル法律事務取扱取縮ニ關スル
法律ニ抵觸スルモノニアラサルヤ明ナリ
トス法律不遑及ノ原則亦久不廢ノ裁則ナ
リ御縣裁判所カ讓受ケタリ行爲ト權利ノ實行
行爲ト區別セラレ而カモ此ノ二個カ合シ
テ一ノ罪トナル時ハ其ノ一部カ新法施行
前ニカカレ時ハ該行為全體ヲ無罪ナリト
判示セラレタルハ誠ニ適當ナリト信ス從
テ本件上告人ノ行為ヲ以テ有罪ナリトシ
テ罰金五十圓ノ言渡ヲ爲シタル原審判決
ハ法律ノ解釋並事實認定ノ誤リヲ遺
法アリト信ス謂フニ在リ

【判決理由】 按ズルニ他人ノ權利ヲ讓受
ケ、訴訟其ノ他ノ手段ニ依リ其ノ權利ノ實
行ヲ爲スコト業トスルハ、昭和八年
五月一日法律第五十四號法律事務取扱取
縮ニ關スル法律違反罪トシテ處罰セラ
ルヘシト雖同法ハ昭和十一年四月一日ヨ
リ施行セラレタルモノナルカ故ニ同法
第二條所定ノ權利讓受行為カ同法施行前
ニ完了シタル場合ニ於テハ、舊令同條所定
ノ方法ニ依リ權利ノ實行カ同法施行後ニ
行ハレタリトスルモ同法違反罪トシテ處
罰シ得サルモノナルコトハ既ニ本院判例
(昭和十二年(レ)第二〇號同年五月二
十六日言渡)ノ示ストコトナリ原判決ノ
認定シタル事實ハ被告人ハ第一、昭和九
年七月二十四日高住彦太郎ヨリ同人カ眞

利供與ト違法ナル追徵
昭和十二年(レ)第二七號
判 決

本籍住居沖繩縣中頭郡美里村字知
花千六百六十五番地
元美里村長 平 田 剛 一
(當五十六年)

右案議院議員選舉法違反被告事件ニ付昭
和十一年十一月二十八日長崎控訴院ニ於
テ言渡シタル判決ニ對シ各被告人ハ上告
ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ
【主文】 被告人平田剛一、島袋義良、多
高良憲、神村吉助ノ上告ハ孰レモ之
ヲ棄却ス
原判決中被告人金城清松ニ關スル部分
ヲ破毀ス

被告人金城清松ヲ禁錮三月ニ處ス訴訟
費用ハ全部被告人金城清松ト第一審相
被告人仲地紀見ト連帶負擔トス
被告人仲地紀見ト連帶負擔トス

【理由】 (中略) 被告人金城清松辯護人
樋口恒藏上書趣意書第一點原判決ハ其ノ
主文ニ於テ「被告人金城清松ヨリ金三百
二十八圓ノ追徵ス」ト言渡シ其理由ニ於
テ「押收ニ係ル現金二十二圓(原審領置
番號第一六號)ハ被告人金城清松カ神村
吉助ヨリ交付ヲ受ケタル判示金七百五十
圓ヨリ判示金清償金、宮城源信、上地福
清、金城銀助等四名ニ合計金四百圓ヲ供
與シタル殘額三百五十圓ノ一部ナルニ依

り案議院議員選舉法第百十四條ニ關リ
テ沒收スルト共ニ右三百五十圓ヨリ右二
十二圓ヲ控除シタル殘額金三百二十八圓
ニ付テハ被告人金城清松ニ於テ全部費消
シ現存セシ沒收スルコト能ハサルニ依リ
同法條ニ則リ之ヲ同被告人ヨリ追徵スヘ
キモノトス」ト示シタリ然レトモ同法
第百十四條ハ「前三條ノ場合ニ於テ沒收
受シ又ハ交付ヲ受ケタル利益ハ之ヲ沒收
ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハ
サルトキハ其ノ價格ヲ追徵ス」ト規定シ
アリテ同法第百十二條第百十三條ニ第
百十三條ニ規定セル金銭收受罪又ハ金銭
交付ヲ受ケタル罪ヲ犯シタル者カ其ノ收
受シ又ハ交付ヲ受ケタル利益ハ之ヲ沒收
シ又ハ追徵セラルル規定ニシテ同法
條ニ依リ沒收又ハ追徵ヲ爲スニハ其ノ前
掲トシテ被告人ニ金銭收受罪又ハ金銭交
付ヲ受ケタル罪アルコトヲ要スルモノト
ス然ルニ原判決ノ認定セル事實ニ依レハ
「第一、被告人神村吉助、金城清松ノ兩
名ハ原審相被告人仲地紀見ト前記候補者
金城紀光ニ當選ヲ得シタル目的ヲ以テ同
年二月八日被告人清松方ニ於テ沖繩縣國
頭郡ノ開業醫師及有力者ニ報酬ヲ供與シ
テ同候補ノ爲メ投票取方依頼センコト
ヲ謀議シ被告人吉助ハ其資金トシテ豫テ
前記候補者金城紀光ヨリ預リ居タル選舉
費用ノ内ヨリ金七百五十圓ヲ取出シテ即
時之ヲ被告人清松及原審相被告人紀見ノ
兩名ニ交付シ被告人清松ハ紀見ト共ニ之
ヲ携ヘ同日郡市ヲ出發シテ國頭郡ニ到
リ(イ)(ロ)(ハ)ノ犯行ヲ爲シタリ」
ト認定シアリテ之ニ依リハ被告人清松カ
原審相被告人紀見ト共ニ被告人吉助ヨリ

判示金七百五十圓ヲ受取リタルハ被告人
吉助、清松原審相被告人紀見三名ノ共謀
犯罪ヲ遂行スヘキ爲メノ内部關係ニシテ
被告人等ノ行為ハ金銭供與罪ヲ構成スル
ニ止マリ別ニ金銭收受罪又ハ金銭ノ交付
ヲ受ケタル罪ヲ構成スヘキモノニアラス
原判決ニ於テ被告等ノ金銭供與罪ノミヲ
認定事實ニ對シ被被告人等ニ對シ第一ノ
罪ノ存在ヲ前提トスル同法第百十四條ハ
之ヲ適用スルニ由ナキモノナルニ此點ヲ
看過シ被告人清松ニ對シ同法條ヲ適用シ
沒收及追徵ヲ言渡シタル原判決ハ擬律錯
謬ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサル
モノト信スト云

第二點原判決ハ其主文ニ於テ「被告人金
城清松ヨリ金三百二十八圓ノ追徵ス」ト
言渡シタリ然レ共事實案ノ場合ニ於テ判
言員ハ之ヲ沒收シ又ハ追徵スヘキモノニ
アラサルコトハ前點ニ述ヘタルカ如シ假
リニ右金員ハ之ヲ沒收又ハ追徵スヘキモ
ノトスルモ(甲) 原判決認定ノ第一ノ罪
頭事實ニ依リハ判示金七百五十圓ハ被告
人清松一人ニ於テ被告人吉助ヨリ交付
受ケタルモノニアラス被告人清松ト
原審相被告人仲地紀見ノ兩名ニ於テ交付
ヲ受ケタルモノナルヲ以テ之カ追徵ヲ命
スルニハ其殘額金三百二十八圓ヲ被告人
清松ト紀見ノ兩名ニ二分シ其一分ノミヲ
追徵スヘキモノナルニ其全部ヲ被告人清
松ヨリ追徵シタルハ不法ナリトス(乙)
選舉法第百十四條ニ依リ追徵ヲ命スルニ
ハ金銭收受又ハ交付ヲ受ケタル因リテ

對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス仍テ
主文ノ如ク判決ス
檢事村上常太郎

昭和十二年七月二日
大審院第四刑事部、裁判長野野野三郎
判事 沼 義雄 判事 駒田 重義
判事 吉田富太郎 判事 十川宜之助

●所謂三百取縮法時ニ關スル效力

法律事務取扱取縮ニ關スル法律ハ昭和十
一年四月一日ヨリ施行セラレタルモノナ
ルカ故ニ同法第二條所定ノ權利讓受行為
カ同法施行前ニ完了シタル場合ニ於テハ
舊令同條所定ノ方法ニ依リ權利ノ實行カ
同法施行後ニ行ハレタリトスルモ同法違
反トシテ處罰スルヲ得ス
昭和十二年(レ)第八三九號
判 決

本籍熊本縣下益城郡東砥川大字遠
野三千五百五十三番地
住居熊本縣下益城郡砥川大字土喰
百三十六番地
料理屋業 藤 本 哲
(明治三十三年一月十五日生)

右法律事務取扱取縮ニ關スル法律違反
被告事件ニ付昭和十二年四月九日熊本地
方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ
對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決ス
ルコト左ノ如シ
【主文】 原判決ヲ破毀ス
被告人ハ無罪

【理由】 辯護人吉田安上書趣意書一、上
告人ハ昭和九年十二月廿九日居村ナル下
益城郡砥川町ニ於テ小寺源藏ヨリ同人カ

ヲ受ケタリトノ事實ヲ認ムヘキモノ存在セサルコトトナルニ不拘前叙ノ如ク認定シ被告入獄三ノ罪ニ問擬シタル原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アリト疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ破毀スヘキモノト信ス可トシ

供述ヲ爲シタルハ同カ警察ニ檢舉セラレ堪ニ可カラサル擧問ヲ受ケタル結果警察ニ於テ自供セシマラザルニ於テ供述セルモノナリト辯明シ居レリ而シテ警察ニ於テ果シテ擧問ヲ受ケタリヤ否ヤヲ檢スルニ取調ノ衝ニ當リタル巡査比嘉加賀右ノ上官タル警察署長タル謝花賢基カ證人トシテ訊問ヲ受ケタルニ拘ラス反對ノ證言ヲ爲セル外證人六人檢證人新坂靜治ハ右比嘉カ警察署内ニ於テ擧行ヲ爲シ居ルヲ目撃シタルコトヲ證言セルノミナラス被告入平田吉作ハ右取調官タル比嘉巡査ハ他ノ事件ニ於テ其ノ取調カ苛酷ナル爲留置場内ニ於テ縊死セル被疑者アリトノタメ昭和十一年七月二十日ニ懲戒免官ノ處分ヲ受ケタルモノニシテ所謂附屬ノ惡徳警官タルコトハ公知ノ事實ナリ如斯不祥事ヲ醸成セル警察ノ取調ニ端ヲ發シタル事件ナルヲ以テ慎重ニ事實ノ真相ヲ究明スルコトハ司法權ノ威信ノ爲ニ最

大必要ナリト思料スル次第ナリ又被告入平田吉作ハ當時他ノ候補者花城永渡又ハ金城候補ヲ應援セル事實又盛島候補トハ其ノ關係圓滿ナク欠居リタル事實見ルモ盛島候補トクモ罪ヲ犯シテ援助スリ管モナク且又被告人野原ハ前年末ヨリ一四モ面會シ居ラサル事實又原判決示ノ日時場所ニ於テ兩人ハ面會シ居ラサル事實ハ證人平田吉作及證人大嶺全康ノ證言ニ依リテ明白ナル處ナリトス又原判決ニ於テハ證人人数ウツノ豫審ニ於ケル證言ヲ採用シテ同證人カ被告入野原ヨリ預リタル金ヲ以テ犯罪ニ依ル金ナリト爲シ洩收並追徴ヲ言渡サレタレトモ證人人数

ノ證言ニ依ルモ被告入野原ノ供述ニ依ルモ犯罪ニヨリテ取得シタル金ナリトノ供述ナク却テ記録第三百六十丁所在ノ證明書ニ依ルモ當時野原ハ金二十圓島尻郡深水村役場ヨリ取得シ所持シ居リタル事實並右金ノ用途等モ日本勸業銀行特別當座預金通帳(余數ウツ)名義並野原龜三(名義)ニ依リテ明白ニシテ右ノ金カ犯罪ニ依ル供與金ナリト斷スルノ餘地ナキモノナリ即チ右ノ如キ明白ナル事實ヲ蔽フヘキ證人人数ウツノ豫審ニ於ケル斷片ナル供述ヲ以テ被告入兩者間ニ於ケル犯罪事實ヲ開接的ニ證明ナシ得ルモノトシテ採用セルモノノ如シト雖動カスヘカラサル二ツノ物の證據即チ(一)證明書(二)預金通帳ノ前ニハ却テ日常ノ實驗則ニ反スル結果ヲ招來シタルモノニシテ重大ナル事實誤認アリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノトス故ニ原判決ハ刑訴法第四百十四條ニ該當スルモノニシテ破毀ヲ免ラサルモノト信ス可トシ(中略)ト謂フニ在リ

【決定理由】 仍テ記録ヲ調査スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムルヲ相當トスルヲ以テ兩論ノ上告論旨ニ對スル說明ヲ省キ刑訴法第四百十四條第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十二年六月九日 大審院第五刑部、裁判長列事藤田 嘉七 列事 神原 甚造 列事 日下部義夫 列事 宮内總太郎 列事 久禮田益喜

趣意書ノ理由アルコトハ事實審開始決定ニ於テ説明シタルカ如クナラバ以テ更ニ本案事實ニ付審理ヲ遂タルニ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ沖繩縣ヨリ盛島明長カ立候補シ同年一月中共ノ届出ヲ爲シタルトコト被告入野原龜三ハ其ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス右盛島候補者ニ投票ヲ得シタル目的ヲ以テ同年二月七日頃ヨリ同月二十日頃迄ノ間野原被告人居字富盛ノ選舉人知念清吉、野原鐵助、伊舍良松助、伊舍良虎助、野原藤藏ヲ戸別ニ訪問シ且野原被告人居字富盛ノ選舉人眞境名郎助、伊舍良元助、野原盛茂、知念龜、野原傳助、眞境名龜助、具志堅古良、具志、堅右進、野原虎吉及同村宇世城ノ選舉人古波津清隆、沖繩縣島尻郡大里村ノ選舉人仲理實貞ニ個々ニ面會シテ夫々同候補者ノ爲メ投票方ヲ依頼シ以テ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ(證據略) 法律ニ照スニ被告入野原龜三ノ判示所爲中間々面接及戸別訪問ノ點ハ衆議院議員選舉法第二百二十九條第九十八條ニ無資格選舉運動ノ點ハ同法第二百二十九條第九十六條第一項ニ各該當シ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情重キ戸別訪問及個々面接罪所定ノ刑ニ從ヒ禁錮ヲ選擇シ其ノ法定刑範圍内ニ於テ被告入野原龜三ヲ禁錮一月ニ處スヘク訴訟費用ノ負擔ニ付テハ刑訴法第二百三十七條第一項ニ從ヒ主文第五項記載ノ如ク被告入野原龜三ヲ負擔セシムヘキモノトス本件公訴事實昭和十一年二月二十日施行

右縣會議員選舉規則違反被告事件ニ付昭和十一年十一月十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告入ハ上告ヲ爲シタル因テ本件ハ檢事有定堅三ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 被告入忠弘男辯護人海老澤廣江上告趣意書第三點原審判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料セルル顯著ナル事由アリ凡ソ刑ノ量定ノ所定期間ノ範圍内ニ於テ裁判官ノ自由ナル處斷ニ一任セラルル所ナルモ同一様ナル事犯ニ對シ社會通念上甲者ノ事犯ニ對スル刑ノ量定ト乙者ノ事犯ニ對スル刑ノ量定ニ餘リニモ懸隔アルハ裁判ニ對スル一般世人ノ信賴ヲ妨ケ法ノ公平ヲ維持スル所以ニ非ス又以テ刑ノ量定正當ナリト言ヒ難カル可シ本件被告入等カ口ヲ揃ヘテ情状セルハ本件被告事件ノ後ニ來レル幾多ノ選舉法違反事件ニ付第一審裁判所ノ採レル刑ノ量定ハ輕キコト雲泥ノ差アリ之ニ付本件原審判決モ亦刑ノ量定不當ナリト思料ス

【決定理由】 仍テ記録ヲ調査スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムルヲ相當トスルヲ以テ兩論ノ上告論旨ニ對スル說明ヲ省キ刑訴法第四百十四條第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十二年六月九日 大審院第五刑部、裁判長列事藤田 嘉七 列事 神原 甚造 列事 日下部義夫 列事 宮内總太郎 列事 久禮田益喜

刑事判例

縣會議員選舉違反衆議院議員選舉法第三百三十七條第一項不準用ノ情狀

(五二)

岡ト共謀共犯ヲ以テ之ヲ論シ之ヲ律シタリト雖被告人大野昇平ニ對スル豫審判事ノ被疑者訊問調査中ノ本件ニ照應スル部...

反スルノミナラス社會ノ通念ニ戻ルモノト謂フヘシ或新聞社ノ或日ノ社説ニ曰ク「國家カ刑罰ニ依リテ犯罪者ニ對スル精神...

キヲ望ム可カラスト雖上告人ハ初犯罪者ニシテ情ノ拘スヘキモノアリ故ニ只一度法ノ許ス最小限度ニ於テ極メテ寛大ニ處罰...

刑事判例

縣會議員選舉違反衆議院議員選舉法第三百三十七條第一項不準用ノ情狀

(五三)

ノ盡力ニヨリ今ハ民政黨ノ地盤トナリタルモノニシテ之ニ對シテ其ノ要求セル運動...

在ルヲ以テ此ノ選舉權被選舉權ヲ停止セラルルコトハ地方ニ於テ公職ヲ全部辭...

被告入 被告入忠弘ヲ罰金四百圓ニ處ス但決勾留日數中二十日ヲ其ノ一日ヲ...

刑事判例

縣會議員選舉違反衆議院議員選舉法第三十七條第一項不準用ノ情狀

得ル目的ノ下ニ右七郎次ニ對シ、前同月十七日頃扇書居宅ニ於テ下方運動者等ニ供與スヘキ運動報酬並ニ投票買収費等トシテ金二千圓ヲ交付シ、前同月二十日居町佐藤シシ方ニ於テ前同趣旨ノ下ニ金七百圓ヲ知ラサル右シシノ手ヲ經テ交付シ、被告忠弘ハ前同月十六日原審相被告人藤塚順治、竹内徳治ノ兩人ヨリ申請原部白根郷庄瀬村外八ヶ村ノ選舉人等ノ投票買収費等トシテ金約二千三百圓交付シ、被告忠弘ハ其ノ處ニ窮シ其ノ翌十七日頃前同郡五泉町小學校ニ開催セラレタル右候補者ノ演說會場ニ於テ右事情ヲ被告人芳男ニ告ケタル上之ヲ誘ヒ前同郡村松町ヲ被告人藤七ノ選舉事務所ニ到リテ處置ヲ請リタルニ被告人芳男ハ之ニ應ジ茲ニ兩名協議ノ上右願治等ノ要求ニ對シ金八百圓ヲ供與スルコトト定メ被告人芳男ヨリ情原審相被告人大野昇平ニ告ケ同人ノ手ヲ經テ同月十九日前同郡瀬田町ナル前同選舉ノ議員候補者小澤某ノ選舉事務所ニ於テ金五百圓同月二十三日同所ニ於テ金三百圓ヲ右願治ニ交付シ以テ同人及右徳治ノ兩名ニ對シ合計金八百圓ヲ供與シタルモノニシテ(證據略)之ヲ法律ニ照スニ被告忠弘七ノ所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第五十二條第一項第五號ニ該當スル處違犯ナルヲ以テ刑法第八條第五十五條ニ從ヒ一罪トシテ右衆議院議員選舉法第五十二條第一項所定ノ刑中適當ト認ムル禁錮ノ刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ右被告人ヲ禁錮二月ニ處シ被告人忠弘及芳男ノ所爲ハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第五十二條第一項第一號

刑法第八條第六十條ニ該當スルヲ以テ各被告人ニ對シ右衆議院議員選舉法第五十二條第一項所定刑中適當ト認ムル罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額ノ範圍内ニ於テ被告人忠弘ヲ罰金四百圓ニ被告人芳男ヲ同二百五十圓ニ處シ被告人藤七及忠弘ニ對シテハ刑法第八條第二十一條ニ依リ夫々其ノ未決勾留日數中二十日ヲ主文ノ如ク右各本刑ニ算入シ被告人忠弘及芳男ニ對シテハ夫々刑法第八條第十八條第一項第四項ニ則リ右罰金完納不能ノ場合ニ於ケル勞務場留置ノ期間ヲ定メテ之ヲ言渡シ被告人芳男ニ對シテハ衆議院議員選舉法第三十七條第一項ヲ準用セザルヲ相當トスル情狀アリト認ムルニ付府縣制第四十條衆議院議員選舉法第三十七條第三項ニ則リ右不準用ノ旨ヲ宣告スヘク尙訴訟費用中主文掲記ノ分ハ刑罰訴訟法第二百三十七條第一項第二項第三十八條ニ從ヒ處置スヘキモノトス

右被告人原田原利ニ對スル恐喝被告人渡邊ニ對スル橫領被告人近藤福太郎ニ對スル贈賄被告人岡分好一ニ對スル收賄被告事件ニ付昭和十一年十二月七日東京刑事地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ各被告人並被告人原田原利原審辯護人金子東一被告人渡邊原審辯護人稻本鏡之助、金子東一ハ上告ヲ爲シタルリ因テ裁判スルコト左ノ如シ

十六條ニ則リ棄却ノ判決ヲ爲スヘキモノト認メ主文ノ如ク裁判ス

刑事判例

縣會議員選舉違反衆議院議員選舉法第三十七條第一項不準用ノ情狀

縣會議員選舉違反衆議院議員選舉法第三十七條第一項不準用ノ情狀

縣會議員選舉違反衆議院議員選舉法第三十七條第一項不準用ノ情狀

シタル件ニ關シ右治助ノ代理人大川次郎ヨリ治助ノ爲同市電氣局ニ對シ治療費慰謝料等ノ請求ヲ爲シ且度キ旨ノ依頼ヲ受ケ轉送シタル結果同局ヨリ示談金トシテ金九百圓ヲ交付ヲ受タルコトナルヤ鈴木鐵造ヲシテ右ノ金員ヲ受領セシメタル上同年十二月十七日同區新坂本町ナリシカ同日同所ニ於テ右保管金中二百圓ヲ擅ニ鈴木鐵造ニ分與シテ之ヲ橫領シタルモノナリ(證據略)法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百五十二條第一項ニ該當スルヲ以テ同條所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處シ尙同法第二十五條ニ依リ三年間其ノ刑ヲ執行ヲ猶豫スルヲ相當トス

右被告人原田原利ニ對スル恐喝被告人渡邊ニ對スル橫領被告人近藤福太郎ニ對スル贈賄被告人岡分好一ニ對スル收賄被告事件ニ付昭和十一年五月二十五日東京地方法院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ檢事佐々木渡與佐太郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 被告人付實、審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人竹内金太郎上告趣意書第一點原判決ハ被告人田邊金作カ本件放火ノ爲ス原由トシテ被告人ハ叔父龜作一家ノ窮狀ヲ思ヒ痛々憂慮シ居リタル折柄ニ微兵検査ノ爲ニ歸シテ村田虎治郎ノ哀話ヲ聞キ益々傷心ノ度ヲ加ヘタル而已ナラス其ノ後ニ至リ龜作カ豫審ニテハ有罪ノ決定ヲ受タルモ犯罪事實否認シ居ル旨ヲ聞キ此際同校ヨリ更ニ出火アラハ龜作ハ無罪ト爲ルヘク從テ一家ノ窮乏モ救ハルヘク且且恰モ學期試驗中ニテ早起ノ生徒モアリ自然犯人モ何人タルカ不明ニ終ラント思惟シ木工室ニ忍入リ鉤屑木切ニテ放火セシモノト認定シ之カ證據トシテ(一)被告人控訴審公判廷ノ供述(二)同豫審第一回訊問調書(三)同第二回訊問調書(四)同第三回訊問調書(五)證人田邊庄作ノ豫審訊問調書(六)證人橋本文壽ノ豫審訊問調書(七)證人小野義吉ノ豫審一回乃至三回訊問調書(八)證人山本秀雄ノ豫審訊問調書(九)證人武田清二ノ豫審訊問調書(十)證人田中謙四郎ノ豫審訊問調書(十一)原審第二回公判調書證人阿部寬治ノ供述(十二)被告人ノ自記證第一號ノ文言ヲ列舉シタル案スルニ以上列舉ノ證據中(一)控訴審公判供述(五)田邊庄作(六)橋本文壽ノ三證據ハ本件犯罪事實ノ認定ニハ全然直接ノ關係ナキヲ以テ深ク論スルニ足ラズ唯ニ之アルカ故ヲ以テ被告人ヲ

放火犯人ナリト認ムルヲ得サルハ自明ノ理ナリ(七)小野義吉ノ證言ハ西端ノ窓一間ハ金網ナシトアリ以テ被告人カ此處ヨリ侵入シ得タルカ如キモ此ハ後段詳論スル處ニ照シ決シテ被告人カ侵入セシモノニ非サル事分明スヘキ故此處ニテハ其ノ說明ヲ省略ス又出火當日手工工爲シタル生徒モアリタルモ此レハ一見鉤屑木切テ判明スヘキ觀アルモ此點モ後ノ說明ニ得ルカ手工製ノ形狀又ハ亞鉛板ノ文字ノ供述ノ如キ本件被告人ノ犯行認定ニハ妨主憎ケレハ製袋造憎イノ類ニ外ナラス殆ント論スルニ足ラサルナリ(八)山本秀雄ノ證言中室內ハ大體奇麗ニ掃除セラレアリ片一方ニ鉤屑カ積マレアリシ様思フトアリ思フニテハ事實ノ肯定ニ非ス以テ犯罪ノ證明ト爲スヘカラサルハ申ス迄モナク從來幾多貴院判例ノ示サル所ナリ(九)武田清二ノ證言ハ當日幾分ノ鉤屑アリシカ如クナルモ本片ノ有無ハ不明ナリ故ニ之ヲ以テ豫審ニ於ケル被告人自白ノ如ク鉤屑ノ上ニ本片ヲ載テ火ノ一時ニ燃上ルヲ防タノ手段トナシタルト云證據ト爲スニ足ラス鉤屑ノ有無ニ就テハ後段詳論スル所御照シテ(十)田中謙四郎ノ證言モ亦鉤屑カ片ハアツタト思フト云ニ過キス(十一)阿部寬治ノ第一審公判供述(十二)證第一號證ニ就テハ後段詳論スヘキヲ以テ重複ヲ避ケテ之ヲ省ク以上ノ如クナルヲ以テ畢竟本件認定ノ中極重要證據ハ(一)(二)(三)記載ノ被告人ノ豫審供述ナリトス之ヨリ此豫審供述ノ眞偽ニ就キ左ノ所見ヲ陳ヘントス所論廣汎ニ涉リ證據細細ニ入り論旨文

館一般ノ上告趣意書ノ恒例ニ比シ聊カ異様ノ感アル事ハ固ヨリ之レヲ知ルモ本件同一高田師範學校ニ昭和十三年三月十七日(叙父龜作事件)同年七月十一日本件同年十二月十八日(生徒木部卯一事)ノ三回相續テ火災アリ繼作ト金作トハ共ニ長ク警察ニテ拷問セラレ繼作ハ強制訊問迄肯定セシモ豫審一回以下公判ニテ全然之ヲ否認シ本件金作ハ豫審中ハ之ヲ肯定セシモ公判前事務所ニテ本辯護人初テ接見シ未タ事實ニ付些ノ言語ヲ交エサル旨頭ヨリ自分ハ決シテ放火セシ事ナシト申出タル事ハ控訴審ニテ取寄セタル接見録ノ記載ニ照シ明々白々ナリ同校生徒木部ハ當時受檢中ニシテ一審公判證人受持教諭中居重四郎ノ證言ニ照シテモ學業コソ稍劣等ナレモ狂人ニ非ス然ルニ新潟地方裁判所高田支部ハ先キニハ第一回訊問作有罪ト判決シ去リ(龜作カ泣々控訴スルヲ得ザリ理由ハ二審田邊としノ證言ニテ明カナリ)今又第二回金作ノ公判中ニ突如第三回ノ本件事件發生ス而モ三回共學期試驗中ナリ而シテ本件事件ハ當初何故カ當局ニテ實證シシニ照シタルモ外間ニ暴露シ遂ニ二十四日警察取調ニ十八日檢事局送リ二十九日ヨリ一月三日迄ハ休暇一月四、五兩日ニテ精神決定濟六日精神病者トシテ不起訴トナリ急遽高田師範院ニ入院後ハ何故カ當局ノ嚴命ナリトテ極端ニ箝口令テ數キ外間ト接觸ヲ絶テタル事實ハ間違ナカラシ切ニ聞ク所ニ依レハ當時本人ハ些モ狂人ニ非ス病院ニテモ其取扱ニ困リタリト云斯ノ如キ不可思議ノ沿革アル事件ニシテ金作カ果シテ本件ノ眞犯人ナリヤ否ヤ頗ル疑ナキ

(五五)

刑事判例

▲放火ノ認定ト重大事實ノ誤認

恰モ任意ニ申立シ如ク記述セラレ其ノ文體ヨリスレハ任意ノ自白一見疑ハレ...

父ハ放火セシ者ニ非サルヘク又家モ貧ニシテ氣ノ毒千萬ト思フタルハ切トシテ...

疑ナル位ナリ然ラハ放火迄シテ救フノ念ヲ生スヘキ譯ナキハ勿論ナリ放火ハ大罪...

素構ナリ置テ置テ事アル事此三點丈ハ事實ニシテ他ハ被告カ放火ノ辻褄ヲ合ス...

刑事判例

▲放火ノ認定ト重大事實ノ誤認

頃北寮廊下ヲ往來セシ者アルニ非スヤノ點ナリ然レトモ以上列舉セシ十二人中九分九厘迄ハ皆四時後ニシテ之ヲ平均スレ...

室北側西ノ窓ヨリ入りタル事也十月三日阿部寛治ノ豫審第一回ノ證言ニ依ルニ七月十日夜ハ六時半頃トハ...

書ニ依ルニ窓ノ高サハ五尺八寸ナレハ戸モ亦五尺八寸ナリ其ノ半分ヨリ稍下ト...

ノ如キハ前九日ニハ掃除當番ナリシモ手工室ノ東南隅ニ掃寄セタ事ナシ川合ハ東...

刑事判例

▲放火ノ認定ト重大事實ノ誤認

スルハ不當ナリ... 第七號ハ實父ニ出サントシテ豫審判事ニ...

學校全部ノ窓ニアルナラ其ノ窓ニモアル... 昭和十一年(九)第一八〇九號

言濟ノ阿部寛治又モ無罪ニ責上テ恰モ... 昭和十一年(九)第一八〇九號

本籍並住居新潟縣東蒲原郡安塚村大字... 昭和十一年(九)第一八〇九號

刑事判例

▲放火ノ認定ト重大事實ノ誤認

不起訴處分トシ願病院ニ收容シ置ク外... 昭和十一年(九)第一八〇九號

四日ニテ決山由來放火ハ他ノ事件ト違ヒ... 昭和十一年(九)第一八〇九號

ト風呂番ナル金作ノ失態ニ非サヤト非常... 昭和十一年(九)第一八〇九號

昭和十一年(九)第一八〇九號... 昭和十一年(九)第一八〇九號

刑事判例

▲放火ノ罪定ト重大事實ノ誤認▲虚無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル違法

(六四)

昭和三十二年七月二十二日
大審院第四刑事部、裁判長野野原三郎
刑事部 裁判長 野野原三郎
刑事部 裁判長 野野原三郎
刑事部 裁判長 野野原三郎

昭和三十二年(九)第五六七號
判決
本籍並住居廣島縣高田郡北村三千七百六十三番地
農業 宗政 爲五郎

右私文書偽造行使被告事件ニ付昭和十二年三月二日廣島地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ當院ハ檢事池田克ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス
【理由】 辯護人花本福太郎上告趣意書第一點原判決ノ認定セル第二事實ハ被告人ハ渡邊次郎一ノ氏名ヲ冒用シ同人名下ニ有合印ヲ押捺シテ證第十四號訴訟記録添付ノ委任狀ヲ偽造シ之ヲ森山喜六ニ交付行使シタリト云フアリテ之カ證據說明ニ依レハ被告人ハ次郎一ノ承諾ヲ受ケ居リタリト辯護シ偽造ノ事實ヲ否認セルコト明ナリ而シテ右點ヲ證明スヘキ唯一ノ資料ハ被告人渡邊次郎一ノ原審公証ニ於ケル「自分ハ證第十四號訴訟記録ニ添付シタル自分名義ノ委任狀ハ全ク覺悟ナク自

【決定理由】 仍テ按スルニ原判決ノ判示事實ハ被告人ハ犯意ヲ繼續シテ渡邊次郎一名義ノ委任狀一通及同人名義ノ訴訟委任狀一通ヲ各偽造行使シタリト云フニ在リテ其ノ委任狀ハ渡邊次郎一ノ承諾ヲ受ケ居ルモノ即チ偽造ノモノナルコト唯一ノ證據トシテ證人渡邊次郎一ノ原審公証ニ於ケル自分名義ノ委任狀ハ全ク覺悟ナク自述ヲ表示シタリ然レトモ原審公判調書ヲ査閱スルニ同證人カ斯ル供述ヲ爲シタル

【決定理由】 仍テ按スルニ原判決ノ判示事實ハ被告人ハ犯意ヲ繼續シテ渡邊次郎一名義ノ委任狀一通及同人名義ノ訴訟委任狀一通ヲ各偽造行使シタリト云フニ在リテ其ノ委任狀ハ渡邊次郎一ノ承諾ヲ受ケ居ルモノ即チ偽造ノモノナルコト唯一ノ證據トシテ證人渡邊次郎一ノ原審公証ニ於ケル自分名義ノ委任狀ハ全ク覺悟ナク自述ヲ表示シタリ然レトモ原審公判調書ヲ査閱スルニ同證人カ斯ル供述ヲ爲シタル

分名下ノ印ハ自分ノモノニアラス且高松ヲ被告トシテ訴訟ヲ起スコトニ付承諾ヲ與ヘタルコトハ勿論被告ヨリ其ノ相談ヲ受ケタルコトナキ旨ノ供述ナル處原審第二回公判調書中同證人ノ供述部分ヲ見ルニ原判決ニ摘録セル前掲記ノ供述記載ハ全ク存スルコトナク且證第三號第八號第九號第十號第十一號ニ就テハ之ヲ示シテ同證人ヲ訊問シタル事實アルモ唯リ證第十四號訴訟記録添付ノ委任狀ニ至リテハ之ヲ同證人ニ展示シタル事述ナシ從テ同記録添付ノ委任狀ニ關スル供述記錄亦存スルコトナシ換言スレバ「證第十四號記録ニ添付シタル自分名義ノ委任狀ハ全ク覺悟ナク自分名下ノ印ハ自分ノモノニアラス」トノ供述ハ調書中ノ何レノ部分ニモ其ノ記載アルコトナシ結果シテ然レハ原判決ハ認定事實ヲ證示セザル刑事訴訟法第三百六十條「違反スル不法アルカ又ハ虚無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル探證上ノ不法アルモノニシテ何レニ該當スルモ破毀スヘキモノト信スト云フニ在リ」

昭和三十二年(九)第五六七號
判決
本籍並住居廣島縣高田郡北村三千七百六十三番地
農業 宗政 爲五郎

昭和三十二年(九)第五六七號
判決
本籍並住居廣島縣高田郡北村三千七百六十三番地
農業 宗政 爲五郎

刑事判例

▲虚無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル違法▲地方名士ト共ニル鮮魚商店員ノ賭博ト其ノ犯情

(六五)

昭和三十二年七月二十六日
大審院第二刑事部、裁判長山内 櫻一
刑事部 裁判長 山内 櫻一
刑事部 裁判長 山内 櫻一
刑事部 裁判長 山内 櫻一

昭和三十二年(九)第八四二號
判決
本籍並住居廣島縣高田郡北村三千七百六十三番地
住居同市法島町四十二番地
魚商店員 櫻田 順

昭和三十二年(九)第八四二號
判決
本籍並住居廣島縣高田郡北村三千七百六十三番地
住居同市法島町四十二番地
魚商店員 櫻田 順

昭和三十二年(九)第八四二號
判決
本籍並住居廣島縣高田郡北村三千七百六十三番地
住居同市法島町四十二番地
魚商店員 櫻田 順

刑事判例

所謂「地方名士」ト共ニセル鮮魚商店員ノ賭博ト其ノ犯情

(六六)

因リ原判決ヲ破毀シ事實審理ヲ開始セラレ...

昭和十二年七月五日 大審院第二刑事部...

本籍金澤市味噌町裏丁二十一番地 住居同市法島町四十二番地...

【理由】 被告人上告趣意書ノ理由アルコト...

詐欺罪ノ認定ト重大ナル事

詐欺罪ノ認定ト重大ナル事

(六七)

開六回ニ亙リ金澤市野町五丁目山田ト...

昭和十二年七月二十九日 大審院第二刑事部...

本籍福岡市東区百番地 住居京都市東区三軒家町四十七番地...

【理由】 被告人上告趣意書ノ要旨中事實...

合映畫赤澤映畫其ノ他ヨリ九州臺灣滿鮮...

【主文】 被告人上告趣意書ノ要旨中事實...

昭和十二年七月二十九日 大審院第二刑事部...

本籍福岡市東区百番地 住居京都市東区三軒家町四十七番地...

【理由】 被告人上告趣意書ノ要旨中事實...

刑事判例

詐欺罪ノ認定ト重大ナル事

(六七)

ニ何故自分カ有罪ト爲リタルカヲ考究ス...

テ自分ノ陳述シタルコトハ採用セラレ...

合社社員カ右契約締結ノ爲來訪シ...

配給網ヲ獲得シ之ヲ津田一九太等...

刑事判例

▲詐欺罪ノ認定ト重大ナル事實ノ誤認

ト始メテ記録ニ記載セラレ更ニ昭和八年四月八日附第一審ニ於テ被告ノ上申書ニ於テ主張シ以テ被告カ常ニ陳述シ来リタルル所ニ屬シ尙證人岡部吾一ノ第一審ニ於ケル供述中間然ラハ別府ノ松屋テ堀川ニ配給權ノ事ヲ依頼シタ當時ノ事ヲ話シテ見ヨ答私達ハ希望トシテハ松竹及日活ノ兩會社ヲ頼ンタテアリマスカ其時堀川ハ今中途テヤツテモ松竹ハ他ノ者カ配給シテ居リ日活ハ直營シテ居ルカラ駄目タト申サレマシタソシテ他ノ小會社ヲヤツタ方カ有利タラウソシテ置テ出来タラ日活ヤ松竹ノ方モヤロウトノ事アリマシタ結局私達ハ日活、松竹ハ取レヌノテ小會社ノ方ヲ頼ンテ置イタテアリマス間、然ラハ何會社ノ事ヲ頼ンタノカ答、私ノ希望トシテハ差當リ河合キネ、東亞、青屋、右太衛門等ノプロダクションモノヲ取ツテ莫レト頼ンタテアリマス間、堀川ハ右申出テ引受ケタノカ答、左様テアリマス出来ル丈ケリマセウト引受ケテ呉レマシタ同證人ニ對スル原審ニ於ケル證人訊問書中間堀川カ津田等ニ映画配給契約カ出来ル様ニナツテ居ルト話シタノハ日活ノ話カ答、日活トモ松竹トモ決マツテ居ナカッタノテ初メ昭和五年十二月申ニ別府温泉テ堀川ト津田、白田、外繁私等カ集テ話シタ際ニ津田カ希望トシテハ日活カ松竹ノ配給權ヲ取ツテ貰ヒタイト申シタ堀川ハ大會社ハ澤山契約シテ居ルカラ直チニ契約ヲ取ル譯ニハ行カスカラ小サイ右太衛門邊リカ集メテハ怎ウカトノ話カアツタノテ各供述及特ニ第一審ニ本辯護人ヨリ提出シタル證據第五號ヲ參照セラレタシ同證

ハ昭和六年十月二十八日津田一九太カ金五千圓ヲ出金シタル後被告告發ニ發達シタル書狀ニシテ「前略」日下映画契約ノ爲御地ニ御滞在ノ由着々契約モ出来居リ候トノ事岡部氏ヨリ承リ一同喜ヒ居リ申候一日モ早タ契約締結ノ程新ル次第ニ御座候其内日活會社ノ方ハ未定トノ事何分實力アル同會社ノ事トテ契約ノ御困難モ有之事ト萬々推察仕居候モ將來ハ兎モ角一時ハ有力ナル會社ヲ向フニ趣シ經營スル事ト相成リ從テ配給上ニモ料金ノ取立及料金ノ取極等ニモ多少トモ困難ヲ生シ前ノ經營者ニ漁夫ノ利ヲ得サス事トモ相成リハセスカト存候何卒御良考ノ程伏シテ御願申上候」(以下略)文中日活ト契約未了ナルコトヲ憂慮シ「將來ハ兎モ角一時ハ有力ナル會社ヲ(日活ノ意)向フニ趣シ經營スルコト」ノ經營上不利ナルコトヲ懸念シタルハ即チ上記「トラス」ニ基テ現ニ獲得シタル小會社ノ配給權ニヨル配給上ノ困難ヲ憂慮シタルモノナルコト文章ニ照シテ餘リニモ明瞭ニシテ被告ト契約カ上述ノ如キ趣旨ナルコトヲ證スルニ餘リアリト云フ「トラス」ニ「東京ニ於ケル皆川芳造ノ立スルヤ直チニ東京ニ於ケル皆川芳造ノ「トキー」モ亦右「トラス」ノ事業トスヘク同人ニ對シ近々上京ノ上「トキー」ノ視察ヲ爲スヘク申込ミタリ本辯護人提出ノ證據第六號御參照アリタシ同證人津田等トノ證後間モナキ昭和六年一月十八日皆川芳造ヨリ被告告發ノ書信ニシテ文中「(前略)御後援者五名ト御同伴上京撮影所ノ御視察ノ意味ニ拜察致候

(六八)

刑事判例

▲詐欺罪ノ認定ト重大ナル事實ノ誤認

以上本件ノ契約カ各映画會社ヲ網羅シタル所謂「トラス」ニ在リシコトヲ瞭ニシタリ而モ此點ヲ明確ナラシムルコトカ結局本件ニ付罪ノ有無ヲ斷スル基本ヲ爲スヘキモノナルコトヲ數回特ニ御留意ヲ乞フモノナリ、配給權獲得ノ責任者ハ被告ニシテ被告ノ責任ニ於テ各映画會社ノ配給權ヲ獲得シテ津田一九太等ト共同ニテ經營スル契約タリシモノナリ即チ岡部吾一ニ對スル司法警察官ノ聽取書中(前略)ソウスルニハ契約金ノ二十萬圓位ハ要ル事ト思ハレ滿鮮文ゲトシテ割當レハ五萬圓ハ要ルカ今日迄懸念ニシテ居ル間柄テアルカラ金二萬圓出セハ後ノ三萬圓ハ俺カ出シテ滿鮮ノ配給權ヲ分ケテ遺ルト云フノ旨ヲ申合人ニ報告シタトコト夫レテハ皆テ御願仕様ト云フ譯テ堀川ノ室ニ至リ一人テ五千圓宛出スカラ是非權利ヲ取ツテ呉レ様ニ頼ミマシタスルト同人ハ自カ分カ權利ヲ取ツタラ遺ルト承知シテ呉レマシタ(後略)同證人ニ對スル第一審ニ於ケル證人訊問書中間證人等カ二萬圓キリ出来ヌト云フタノカ答、左様テアリマス堀川ハ利益ヲ自分テ五分取リ私カ五分取リ云フ事ニ決メタノテ即チ共同事業トスル趣旨ノ陳述(但シ右利益分配ノ割合ハ事實ニ反ス)及告訴人津田一九太ノ告訴補充調書中間部ハ歸テ來テ堀川先生カ言ハレルニハ臺灣九州滿鮮ノ日活、松竹ノ配給權ヲ自カ取ルソレニハ金二十萬圓要ルト云フ事テアルソシテ之ヲ割當テ爾ト滿鮮文ゲテ約金五萬圓ニ當ルカ實ハ同日マテ懸念ニシテ居ルカラ金二萬圓出シテ貰ヘハヨイ後ノ金三萬圓ハ自カ見テヤル

ソシテ滿鮮ノ配給權ハ遺ルト云フ事テアルト申シマシタ其處テ堀川氏ノ座敷ニ皆テ御願ヤラ御札ヤラテ參リマシテ尙是非四人テ遺リタイカラ分ケテ貰ヒ度イ各自金五千圓宛出シマスカラト申シマシタ處カ堀川氏ハ自カ分カ取レタラ分ケテ遺ルト云フ返事テアリマシタ(以下略)ノ各供述並ニ被告カ横田日活社長ニ配給權分與ノ交渉ヲ爲シタルハ津田等ノ代理人トシテ非ニシテ被告自身ニ與ヘタルハト折衝シタルモノナルコト同人ノ證言全般ニ亘リ之ヲ知ルヘク之等ノ證據ニヨリ該ナルカ如ク被告ニ於テ先ツ映画會社ノ配給權ヲ獲得シテ津田等ニ分ケテ遺ルト云フ事テ原判決カ此點ニ付被告ハ單ナルノニシテ原判決カ此點ニ付被告ハ單ナルナルカ如ク判示シタルハ事實ノ誤認モ甚シキモノト云フヘシ而シテ此點ハ次ニ述フヘキ保證金ノ出資時期如何ト重大ナル關係アルヲ以テ次項ト併セ判斷セラレ

(六九)

刑事判例

▲詐欺罪ノ認定ト重大ナル事實ノ誤認

御渡シ被下ナト云ル事カ云々事カ能ク其ノ邊モ考ヘネハナラズ備ニテ其ノ爲先生ニ迄不快ノ思ハオサセスル事ハ何トシテモ我等三名ハ忍ビサスル事ニテ「云々」ノ文言ニ照シ津田一九太カ「契約カ取レタラ支拂フ」旨ノ供述ノ如何ニ出願目ナルカヲ知ルヘキナリ以上ヲ以テ原判決ノ重要ナル誤認ヲ指摘シタリ而シテ被告ハ著々トシテ其ノ完成ヲ期シ河合ニ二萬圓赤澤ニ千五百圓山口ニ三千圓アシヤニ五千圓祖國ニ二千圓其ノ他二萬數千圓ノ保證金ヲ納入シテ各配給權ヲ獲得シ毎月料金を納付シ來リタルモ津田等カ約束ノ二萬圓ヲ提供セサルカ爲メ遂ニ中絶ノ止ムナキニ至リ被告ノ損害ハ莫大ナル額ニ達セリ茲ニ於テ上來記述シ來リタル趣旨ヲ要約セハ本件契約ハ各會社ヲ網羅シタル所謂「トラス」ノ案ニ在リ而シテ被告ニ於テ之等配給權ヲ獲得ノ上滿鮮ニ於ケル配給業ヲ津田等ト共同ニテ經營スル豫定ナリシヲ以テ之ニ必要ナルヘキ保證金二萬圓ハ歸納次第送付アルヘキ約旨ナリシナリ被告ハ之ニ基キ着々配給權ヲ獲得シテ其ノ約旨ヲ履行シツツア「シ」モ津田等カ其ノ資金タルヘキ二萬圓ヲ送付セサルカ爲メ之カ完成ヲ見スシテ中絶ノ止ムナキニ至リタルモノナリ原判決カ偽同手段トシテ判示シタル各所爲ハ問題ヲ「日活」ニ極限スルカ故ニコソ欺同手段ニシテ上記ノ如ク之ヲ「トラス」ト爲シ而シテ被告カ之等ノ約旨ヲ着々實行シツツアル經過ヲ見ルトキハ毫モ之ヲ怪シムニ足ラサルコトヲ知ルヘシ假ニ判示各所爲カ欺同手段ナリトセヨ(三)記述ノ如ク其ノ

刑事判例

詐欺罪ノ認定ト重大ナル事實ノ誤認

(七〇)

保證金ニ充當スヘキ二萬圓ハ歸併次送付スヘキ約旨ナリ...

昭和三十二年(九)第一〇九號

本籍福岡市東区...

被告ハ無罪

昭和三十二年(九)第一〇九號

本籍福岡市東区...

被告ハ無罪

昭和三十二年(九)第一〇九號

本籍福岡市東区...

被告ハ無罪

昭和三十二年(九)第一〇九號

本籍福岡市東区...

刑事判例

町會議員選舉違反ニ於ケル擬律錯誤ト其ノ量刑

(七一)

適用ヲ云フスルハ當ラズト雖原審ハ原告第一ノ被告カ自己ニ投票ヲ得...

七條衆議院議員選舉法第九十八條第二項...

處斷ニ罰金刑ヲ選擇シ被告ハ對シ主文ノ刑ヲ量定ス...

本籍福岡市志家第六地割字...

品代金ノ請求及其受領保管其他營業全般ノ業務ニ從事シ其ノ代表者タル赤澤又吉ヨリ委任セラレテ印刷物等ノ代金ヲ請求又ハ受領スルニ當リ右赤澤ノ記名アル用紙ニ同人ヨリ託セラレ居ル赤澤ノ印章ヲ捺捺シテ同人名義ノ請求書及受領證ヲ作成シ居リタルヨリ右一節ニ其ノ情ヲ明シ同人ノ加擔ヲ求メテ其ノ承諾ヲ得茲ニ兩名共謀ノ上昭和五年五月十日頃ヨリ昭和十年九月五日頃迄ニ至ル間二百一四回ニ亙リ前記社稜印刷所又ハ盛電本社ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ右赤澤又吉ノ記名アル請求用紙ニ盛電ニ對シ全然納入シタルコトナキ品名代金等ヲ記入シ更ニ擅ニ右赤澤又吉ノ記名アル受領用紙ニ前記同様ノ品名代金等ヲ記入シタル上其ノ都度右赤澤又吉ノ下ニ同人ノ印章ヲ捺捺シテ以テ赤澤又吉作成名義ノ代金請求書及之ニ相應スル受領證各二百一通ヲ順次偽造シ其ノ頃被告入又ハ久保田ニ於テ社稜印刷所力盛電ニ對シ眞實納入シタル品代金ヲ請求スルニ際シ盛電本社ニ於テ當該係員ニ對シ先づ右偽造請求書ヲ眞正ナルモノトシテ順次提出行使シ因テ同係員ヨリシテ盛電ニ於テ眞實該書面記載ノ如キ物品ヲ購入シタルモノト誤信セシメ其ノ代金トシテ支拂ヲ受タルニ當リ其ノ都度引換ニ前記偽造受領證ヲ眞正ナルモノトシテ提出行使シ以テ右偽造請求書及受領證記載ノ金額ト同額ノ金員ヲ被告入又ハ久保田ニ交付セシヲ以テ二百餘回ニ亙リ眞實納入セサルモノノ分合計金一萬六千九百八十七圓五十錢ヲ騙取シト認定シ被告入等ヲ文書偽造行使詐欺罪ニ同擬處斷シタリ然レトモ文書偽造罪ハ他

人ノ名義ヲ僞リテ文書ヲ作成スルニ因リテ成立スルモノニシテ換言スレバ文書ヲ作成スル權限ナキ者カ他人ノ作成名義ヲ冒用シ文書ヲ作成スルニ於テハ即チ文書偽造罪ヲ構成スルモノトス故ニ或者カ文書ヲ作成シタル場合ニ其ノ所爲カ同罪ヲ構成スルヤ否ヤハ其ノ文書ノ作成名義トシテ他人ノ名義ヲ冒用シタルヤ否ヤノ形式ニ依テ決セラルヘキモノニシテ其ノ内容ノ眞偽ハ特別ノ處罰規定アル場合ノ外同罰ノ成否ニ關シ何等ノ消長ナキモノトス左レハ他人ノ代表者又ハ代理人カ其ノ代表名義若ハ代理名義ヲ用ヒ又ハ直接ニ本人ノ商號ヲ使用シテ文書ヲ作成スル權限有ル者カ偶々其ノ地位ヲ濫用シテ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ擅ニ其ノ代表若ハ代理名義又ハ直接ニ本人ノ名義ヲ濫用シタルトキト雖モ同罪ヲ構成スルハキモノトスハ凡ソ御院判例(大正十一年(九)第三四六號、同年十月二十日刑事部聯合判決)ノ示所ナリトス然ルニ右原則決定ノ事實ニ依レハ判例示文書ヲ作成シタル原審相被告入久保田一郎ハ社稜印刷所ノ營業主任トシテ營業全般ノ業務ニ從事シ其ノ代表者タル赤澤又吉ヨリ委任セラレテ印刷物等ノ代金ヲ請求又ハ受領スルニ當リ右赤澤ノ記名アル用紙ニ同人ヨリ託セラレ居ル赤澤ノ印章ヲ捺捺シテ同人名義ノ請求書及受領證ヲ作成シ居リタルモノナリト云フニ在リテ右久保田ハ社稜印刷所代表者赤澤又吉ヨリ同人名義ヲ以テ請求書及受領證を作成ノ權限ヲ附與セラレ居ル者換言スレバ赤澤名義ノ請求書及受領證を作成ノ權限ヲ有スルモノ

ナリ從テ久保田カ判例示請求書及受領證ヲ作成シタルトスルモ非ハ他人ノ作成名義ヲ僞リタリト爲ス能ハサルヲ以テ文書偽造罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ故ニ被告入ノ本件行爲ハ詐欺罪ヲ構成スルハ格別文書偽造行使罪ヲ構成スヘキモノニアラサルニ不拘此點ヲ誤解シ被告入ヲ同罪ニ問擬シタル原判決ハ提律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト謂フニアリ

【判決理由】 仍テ案スルニ文書偽造罪ハ他人ノ名義ヲ僞リテ文書ヲ作成スルニ因リテ成立スルモノナルカ故ニ他人ノ代表者又ハ代理人カ其ノ代表名義若ハ代理名義ヲ濫用シテ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ擅ニ其ノ代表若ハ代理名義又ハ直接ニ本人ノ名義ヲ濫用シタル事案ニ於テハ、被告入ハ社稜印刷所ノ營業主任トシテ營業全般ノ業務ニ從事シ其ノ代表者タル赤澤又吉ヨリ委任セラレテ印刷物ノ代金ヲ請求又ハ受領スルニ當リ同人ヨリ託セラレ居ル印章ヲ使用シテ同人名義ノ請求書及受領證ヲ作成シ居リタルヨリ右一節ニ其ノ情ヲ明カシ同人ノ加擔ヲ求メ共ノ承諾ヲ得茲ニ兩名共謀ノ上二百一四回ニ亙リ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ赤澤又吉名義ノ請求書用紙ニ盛電電燈株式會

スルトコロ判例私文書偽造私文書行使及詐欺ノ各所爲ハ連續犯ニ係リ且私文書偽造ト偽造私文書行使ト詐欺トノ間ニハ順次ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十五條第五十四條第一項第十條ヲ適用シ結局最モ重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定範圍内ニ於テ被告入ヲ懲役一年ニ處スヘク押收物件中支出票添附ノ各偽造ニ係ル代金請求書及代金受領證(原判決添付第二第三表)各支出票欄記載ノ支出票添付ノ請求書及受領證)ハ判例私文書行使罪ヲ組成シタルモノニシテ何人ノ所有ヲモ許ササルモノナルヲ以テ同法第十九條ニ依リ沒收スヘク訴訟費用中豫審ニ於テ谷藤柳太郎ニ第一審ニ於テ川村八郎ニ原審ニ於テ久保田一郎ニ各支給シタルモノハ刑罰訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告入ニ負擔セシムヘキモノトス尙被告入カ第一審相被告入久保田一郎ト共謀ノ上昭和五年五月中ヨリ昭和十年九月中迄ノ間二百一四回ニ亙リ社稜印刷所代表者赤澤又吉ノ氏名及印章ヲ冒用シテ同人名義ノ代金請求書及代金受領證各二百一通ヲ偽造シ其ノ頃之ヲ行使シタルトノ公訴事實ハ罪トナラサルモノナルコト前叙ノ如シト雖右ハ原判決第一事實ノ詐欺罪ト牽連犯ノ關係ニ係ルヲ以テ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス

【理由】 被告人石川善盛辯護人島田武夫上告趣意書第十二點原判決ハ理由不備ノ違法アリ原判決ハ判例(二)ニ於テ「原告相被告入玉那覇實信及仲眞眞壽ト共謀ノ上」ト冒頭シ原告相被告入比嘉爲一ニ供與金並ニ交付金トシテ一括シ金九十圓ヲ供與シタル事實ヲ判例示(三)ニ於テ「原告相被告入花形永波ト共謀ノ上」ト冒頭シ(イ)與那覇實信相「交付金二十圓ヲ交付金二十圓ヲ交付(ロ)大城永昌

ニ交付金二百五十圓ヲ交付(ハ)伊仲時ニ供與金五圓ヲ供與(ニ)上原永盛ニ交付金九十圓ヲ交付セシメタル事實ヲ判例示(四)ニ於テ「原告相被告入花城永波永彰、同石川善盛ト共謀ノ上」ト冒頭シ(五)ニ於テ「原告相被告入花城永波、同石川善盛、內閣黨、王那覇實信、新城靜治、喜納豊昌ニ對シ昭和十一年十二月二十八日被告入花城永波ニ對シ昭和十二年五月二十二日長崎控訴院ニ於テ夫々言渡シタル判決ニ對シ各被告入ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 被告人花城永波、同石川善盛ニ對シテハ原判決ヲ破毀ス
被告人花城永波ヲ禁錮三月ニ各處ス
川善盛ヲ禁錮三月ニ各處ス
其ノ餘ノ被告入ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

昭和十二年九月二十八日
大審院第三刑事部、裁判長判事三宅正太郎
判事 草野一郎、判事 津田

無資格運動者ト共謀セル候補者ノ選舉違反ト其ノ擬律

本籍東京市小石川區水道端二丁目六十四番地
住居那覇市吉町三丁目百三十三番地
建築設計業 花城永彰
(當三十六年)
外七名
右衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付被告入花形永彰、大城永昌、石川善盛、內閣黨、王那覇實信、新城靜治、喜納豊昌ニ對シ昭和十一年十二月二十八日被告入花城永波ニ對シ昭和十二年五月二十二日長崎控訴院ニ於テ夫々言渡シタル判決ニ對シ各被告入ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【理由】 被告人石川善盛辯護人島田武夫上告趣意書第十二點原判決ハ理由不備ノ違法アリ原判決ハ判例(二)ニ於テ「原告相被告入玉那覇實信及仲眞眞壽ト共謀ノ上」ト冒頭シ原告相被告入比嘉爲一ニ供與金並ニ交付金トシテ一括シ金九十圓ヲ供與シタル事實ヲ判例示(三)ニ於テ「原告相被告入花形永波ト共謀ノ上」ト冒頭シ(イ)與那覇實信相「交付金二十圓ヲ交付金二十圓ヲ交付(ロ)大城永昌

ニ交付金二百五十圓ヲ交付(ハ)伊仲時ニ供與金五圓ヲ供與(ニ)上原永盛ニ交付金九十圓ヲ交付セシメタル事實ヲ判例示(四)ニ於テ「原告相被告入花城永波永彰、同石川善盛ト共謀ノ上」ト冒頭シ(五)ニ於テ「原告相被告入花城永波、同石川善盛、內閣黨、王那覇實信、新城靜治、喜納豊昌ニ對シ昭和十一年十二月二十八日被告入花城永波ニ對シ昭和十二年五月二十二日長崎控訴院ニ於テ夫々言渡シタル判決ニ對シ各被告入ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 被告人花城永波、同石川善盛ニ對シテハ原判決ヲ破毀ス
被告人花城永波ヲ禁錮三月ニ各處ス
川善盛ヲ禁錮三月ニ各處ス
其ノ餘ノ被告入ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

昭和十二年九月二十八日
大審院第三刑事部、裁判長判事三宅正太郎
判事 草野一郎、判事 津田

刑事判例

無資格運動者ト共謀セル候補者ノ選舉違反ト其ノ擬律

(七四)

十條ニ無資格運動者ト共謀セル候補者ノ選舉違反ト其ノ擬律

述シタル事實ヲ認定シ擬律ノ部ニ於テ

ムル目的ヲ以テ選舉運動者タル比嘉通禮

ハ衆議院議員選舉法第九十六條第一項第一號

判決理由不備並重大ナル事

實ノ誤認

昭和十二年(九)第四二二號

刑事判例

判決理由不備並重大ナル事實ノ誤認

總キ決定スルコト左ノ如シ

設シ居ルモノナリ即チ熊谷金藏カ警察ニ

ニシテ全ク事實ニ即セサル供述ナリ加之

引揚ケタル時間ハ覺ヘマセンカタ方五

(七五)

刑事判例

判決理由不備並重大ナル事實ノ誤認

ト認定セル原審ハ認識不足ノ甚キモノナリ以下説明セシ第一審ニ於テ説明ヲ求メ...

ハウト決心シテテアリマス其ノ後保釋ヲ許サレタカ其ノ晩妻ヤ高木利夫、黒田久蔵カ私ノ落付イテ廣演旅館ニ來テ...

刑事判例

判決理由不備並重大ナル事實ノ誤認

告人熊谷金藏ノ供述トシテ自分ハ之レ迄警察検事局強制処分ニ依ル豫審判事ノ取調及ヒ豫審ニ於テ判事進言ノ事實ハ相違ナシト...

ノ鉛筆書ハ母親ノ隠居家ヲ移築スルコトニ關スル豫算ノ手控ナリ旨ノ記載アルニ拘ラス當公廷ニ於テ同被告人日記帳ノ記入ハ安佐郡神職會主催ニ依リ精神作興及ヒ選舉肅正ニ付巡回講演ヲ爲シタル際ノ講演料ノ收入自動車賃宿泊料等ノ支出ニ關スル豫算ナリト供述シ其ノ辯解アリ...

ノ辯解トシテ第一審第一回公判調査ニ記載セラルル所ノ同日記載表紙ヨリ數ヘテ四枚目ノ鉛筆書ニシテ第二審公判調査ニ記載セラルル所ノ同日記載表紙ヨリ數ヘテ十五枚目裏ノ鉛筆書ナリ而シテ前記ノ如ク兩者鉛筆書ノ數字及ヒ記載方法全然異リ居ルコト明ニシテ之ニ對スル辯解ノ異ルモ亦必然ノ結果ナリ然ルニ原判決カ(一)被告人金藏ハ同日記載ニ於ケル鉛筆書ニ付第一審ト原審トニ於テ辯解ヲ一ニ爲スカ故ニ同人ノ辯解ハ到底指信スルニ足ラズト斷シタルハ同人ニ對スル供述記載ヲ誤解シタルモノニシテ同人ハ第一審ト原審トニ於テ辯解ヲ一ニ爲シタル事實ナシ原判決ハ此ノ點ニ於テ供述ノ趣旨ヲ變更シテ罪證ニ供シタル違法アリ(二)原判決ハ右證據ノ後段ニ於テ「被告人金藏ノ警察検事局強制處分ノ取調ヘ及豫審ニ於ケル一貫シテ自白シ居ル事實ヲ參照シ原審並ニ當審ニ於ケル同被告人ノ前記辯解ハ到底指信スルニ足ラサル事實」ト示ス然レトモ原審カ被告人全藏ノ辯解ヲ指信セスト云フハ原審ノ意見ニシテ證據ニ非ス原判決ハ此ノ點ニ於テ原審ノ意見ヲ罪證ニ供シタル違法アリルモノナリ以上ノ諸點ニ於テ原判決ハ判示第一(一)ニ付其ノ證據ヲ缺如スルニ歸シ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フ

制處分ニ係ル豫審判事ノ取調ヘ及ヒ豫審ニ於ケル判示趣旨ノ事實ハ相違ナシト自白シタルコトハ相違ナキ旨ノ記載ニ及「此ノ記載ニ照シ第一審並ニ原審ニ於ケル被告人金藏ノ犯罪事實否認ノ供述記ヲ指信セサル旨」説示ニ照レトモ右判示第一(一)ノ事實ヲ證明スルモノニ非ス蓋シ被告人金藏ノ右第一審第一回公判調査中ノ供述記載ハ警察等ニ於テ判示趣旨ノ事實ハ相違ナシト自白シタルコトハ相違ナシト云フニ在リテ自白行為自體ヲ認メタルニ止リ自白ノ内容タル事實ヲ認メタル供述記載ニ非サルコト記録ニ徴シテ明カナル所ナリ故ニ右供述ハ判示第一(一)ノ事實ヲ證明スルモノニ非ス次ニ原判決ハ右證據ノ後段ニ於テ被告人ノ旨ヲ説示スルモノ共ノ理由トスル所ハ(一)前點所論ノ如ク原審カ證據第一號日記載ニ對シ被告人金藏ノ辯解ヲ被告人等ノ不利利益ニ誤解シタルコト(二)被告人金藏カ警察検事局強制處分及豫審ニ於テ一貫シテ自白シ居ル旨ヲ示セト云フニ在リ然レトモ其ノ(一)ニ付テハ前點ニ前審ノ誤解ナルコトヲ盡シタリ其ノ(二)ニ云フ所ハ強制處分ノ取調及豫審ニ於ケル被告人金藏ノ自白ヲ證據ニ引用シタルモノ感ナキニ非スト雖原判決ハ強制處分調査並ニ豫審判事調査中同人ノ供述ヲ證據ニ引用セルニ非スシテ此レ等供述ト警察並ニ檢事局ニ於ケル同人ノ供述トヲ通シ一貫セル供述ヲ指稱セルモノニシテ其ノ一部分タル強制處分調査又ハ豫審判事調査中ノ供述ノ如キ個々ノ供述ハ原審ノ願ル所ニ非ス換言スレハ強制處分調査又ハ豫審判事

問調査ニ同一ノ供述記載アリトスルモ警察並檢事局取書ニ同趣旨ノ供述記載ナキ時ハ原審ハ之ヲ顧ミサリシナルヘシ故ニ原判決ニ於テ強制處分及豫審ニ於ケル被告人金藏ノ自白ハ夫自體判示第一(一)ノ事實ヲ證明スル證據カ有スルモノニ非スシテ此等ノ自白ハ警察及檢事局ノ取調ト相俟ツテノミ始メテ第一、二審ニ於ケル被告人金藏ノ辯解ヲ指信セサル證據トナリタルニ過ニス然リ而シテ原審カ第一、二審ニ於ケル被告人ノ供述ヲ指信セサルコトハ直ニ判示第一(一)ノ事實ヲ肯定スル理由トナラス原審ハ如何ナル證據ヲ把握シテ判示第一(一)ノ事實ヲ認定シタルヤ之ヲ窺知スルニ由ナシ原審ハ何等積極的ニ犯罪事實ニ付テ證據ヲ示スコトナク却テ消極的ニ被告人ノ供述ヲ指信セスト云フノミ被告人ノ供述ヲ指信セサルコトハ毫モ犯罪事實ニ付テ證據ヲ示スコトトナラズ原判決ハ此ノ點ニ於テ判示事實ニ對シ證據ヲ示サルモノト云フヘテ理由不備ノ違法アルヲ免レサルモノト信スト謂フニ在リ

【決定理由】仍テ原判決カ判示第一(一)並第三事實ニ對スル證據トシテ示スルコトニテ檢事局ニ其ノ要旨ハ右ノ事實ハ第一審第一回公判調査中被告人熊谷金藏ノ供述トシテ證據第一號日記載ハ判示事實ニ付警察官ヨリ追窮ヲ受ケタル材料ト爲リタルモノナルカ同

相當トス從テ原判示第二(一)並第四事實ニ關シ事實ヲ審理ヲ爲スヘキモノトス而シテ原判決判示第一(一)ハ其ノ(二)ト連續犯ノ關係アリ同第二(一)ハ其ノ(二)ト包括一罪ヲ成スモノナルカ故ニ結局原判示事實全部ニ對スル事實審理ヲ免レズ

行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ被告人重太郎、同金藏ト共謀ノ上同年一月三十日廣島市大手町立憲政友會廣島縣支部ニ於テ津田寛司外十七名ニ對シ候補者名川侃市ノ爲投票並選舉運動方ヲ依頼シ之カ報酬トシテ折詰當並酒ヲ提供シテ獎勵ヲ爲シ更ニ犯罪ヲ繼續シテ執行レモ廣島市内ニ於テ前記候補者ノ爲同年二月二十六日被告人金藏ニ對シ選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ飲食物ヲ提供シテ獎勵ヲ爲シ同年三月十日木谷賢一ニ對シ候補者ノ選舉委員トラムコトヲ慫慂シ即時其ノ承諾ヲ得同年二月五日被告人金藏同至ニ對シ選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ飲食物ヲ提供シテ獎勵ヲ爲シ同年三月三日市應町三段峽自動車株式會社事務所ニ於テ被告人至ニ對シ同人カ候補者ノ爲選舉運動方ヲ爲スコトノ報酬トシテ金二十圓ヲ供與シ以テ夫々選舉運動ヲ爲シタルトノ公訴事實ニ付テハ被告人保一ハ無罪

【理由】各被告人辯護人名川侃市、名川保男、中込虎雄上告趣意書第二點被告人重太郎辯護人堀江專一郎上告趣意書第四點被告人重太郎、保一辯護人名川侃市、名川侃市、名川保男、中込虎雄上告趣意書第六點被告人保一辯護人堀江專一郎上告趣意書第三點被告人重太郎、保一辯護人島田武夫上告趣意書第七點理由アルコトハ事實審理開始決定ニ於テ說明シタルカ如クナルヲ以テ更ニ本案事實ニ付審

亡致シ其ノ忌中田中ノ雇人カ右手紙ヲ持參シタルモノ手紙ニハ名川侃市ノ爲ニ心配シテ呉レト云フ意味ケテ書キアリタリト旨ノ記載並右引用ニ係ル被告人片岡柳吉ニ對スル豫審第一回訊問調査抄本中同人ノ供述トシテ自分ハ本年ノ總選舉ニ名川先生カ立候補サレタル故田中重太郎ヨリ懇請セラレテ選舉委員トナリタリ其ノ話ハ昭和十年十一月、二月頃田中重太郎ヨリ一月二十五、六日頃田中重太郎ノ者カ田中サンノ息子ノ保一サンノ筆蹟ノ手紙ヲ持參シシレハハ會議會場解散ニナリタル故名川先生ノ爲ニ選舉運動ヲシテ貰ヒ度イ何レ事務長ヨリ正式ノ話ハアル答ナリトノ文章カ認メアリタルカ其ノ手紙ハ何時迄モ持ち居レハ惡イと思ヒタル故其ノ當時燒イテ仕舞ヒタル旨ノ記載ヲ綜合考慮シテ之ヲ認定ス仍テ判示事實ハ總テ其ノ證明アリタルモノトシテ法律ニ照スニ右被告人保一ノ行為ハ衆議院議員選舉法第二百九條第九十五條ノ二該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ被告人保一ヲ罰金二十圓ニ處シ同被告人ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ同被告人ヲ五日間勞務場ニ留置スヘク尙情狀ニ因リ衆議院議員選舉法第三百七條第三項ニ則リ同被告人ニ對シ同條第一項ノ規定ヲ適用セサル旨ノ宣告ヲ爲スヘキモノトシ尙本件公訴事實中被告人田中保一ニ對スル主文第五項掲記ノ事實並被告人田中重太郎、同熊谷金藏、同谷口至ハ執レモ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉法ニ際シ選舉人ニシテ廣島縣

昭和十二年六月二十三日
大審院第五刑事部、裁判長理事磯田 嘉七
理事 神原 甚造 理事 日下部義夫
判事 宮内藤太郎 判事 久禮田益喜

判 決
本籍並住居廣島縣安佐郡安村大字長樂寺二番地ノ二
(慶應三年一月三日生)
外三名

右衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付昭和十二年二月十二日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告人ハ上告ヲ爲シ本院ハ昭和十二年六月二十三日事實審理開始ノ決定ヲ爲シテ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】原判決ヲ破毀ス
被告人保一ヲ罰金二十圓ニ處ス
右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人保一ヲ五日間勞務場ニ留置ス
同被告人ニ對シ衆議院議員選舉法第三百七條第一項ノ規定ヲ適用セズ
被告人保一カ昭和十一年二月二十日施行

刑 事 判 例
▲判決理由不備並重大ナル事實ノ誤認

刑 事 判 例

(七九)

刑事判例

刑決理由不備並重大ナル事實ノ誤認無資格運動者ト共謀セル選舉委員ノ選舉違反

(八〇)

第一區ヨリ政友會公認トシテ立候補シタル名川市市ノ非法定選舉運動者ナル被告
人重太郎ハ昭和七年七月政友會ノ地盤
擁護ノ目的ヲ以テ結成セラレタル立憲政
友會安佐郡同志會ノ會長ナルカ同會ハ結
成以來何等目的ノ遂行ヲ爲シテ來ラリシ
モノナルニ拘ラス昭和十一年二月二
十日衆議院議員總選舉カ施行セラレル
コトトナルヤ同會幹部ノ一部ニ缺員ヲ生
シ居レバ奇貨トシ此際該議員候補補充
選任名義ノ下ニ役員會ヲ開催シテ前記候
補者ノ爲投票並選舉運動方ノ依頼ヲ爲シ
以テ其ノ當選ヲ得シメムコトヲ企圖シ同
月二十六日養子ナル被告保一ヲシテ被
告人金藏ニ其ノ旨ヲ通シシメ茲ニ右三名
共謀ノ上同月三十日廣島市大手町立憲政
友會廣島縣支部ニ同會役員津田寛司外
七名ヲ集會セシメ被告重太郎ニ於テ出
席者一同ニ對シ「今因ノ總選舉ニ際シテ
ハ會員一同協力一致シテ臨マネハナラヌ
名川先生ハ立候補者中最モ權威アル大
人物ニシテ會テハ鐵道政務次官タリシコト
アリ鐵道建設等ニ付テモ縣民ハ多大ノ恩
惠ヲ蒙リ居レバ以テ斯ノ如キ大人物ハ
是非當選セシメサルヘカラス」旨ヲ述
ヘ以テ暗ニ名川候補者ノ爲投票並選舉運
動方ヲ依頼シ之カ報酬トシテ同日同所ニ
於テ折詰當道酒(一人前約八十錢餘相
當)ヲ提供シテ獎勵ヲ爲シ被告重太郎
ハ被告保一ト共謀ノ上前記候補者ニ當
選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年一月二十四
五日頃自己ノ傭人ヲ介シ同縣安佐郡安村
片岡柳吉ニ對シ書面ニ依リ前記候補者ノ
爲選舉運動ヲ爲サレ度キ旨依頼シ被告重
太郎ハ同年一月三十日前記立憲政友會

廣島支部ニ於テ前記候補者ノ爲推薦狀ノ發
造其ノ他ノ方法ニ依リ選舉運動方ヲ依頼
シ其ノ費用及運動報酬トシテ金五十圓ヲ
供與シ被告保一前記如ク被告重太郎
太郎ヨリ金五十圓ヲ供與テ受ケ更ニ主文
第五項掲記ノ如ク被告保一ヨリ二圓ニ
耳リ飲食物ノ獎勵ヲ受ケ被告重太郎ハ主文
第五項掲記ノ如ク被告保一ヨリ二圓ニ
食物ノ獎勵並金二十圓ヲ供與テ受ケケル
モノナリト事實ニ付テハ孰レモ犯罪ハ
證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五
條第三百六十二條ニ則リ各被告保一ニ對シ
其ノ關係部分ニ付無罪ノ言渡ヲ爲スヘキ
モノトス
仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四
十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事安藤三郎
昭和十二年十月二日
大法院第五刑事部、裁判長村岡義典、嘉七
判事 神原 共造、判事 日下部義夫
判事 宮内藤太郎、判事 久禮田益喜
●無資格運動者ト共謀セル選
舉違反
衆議院議員選舉ニ際シ選舉委員カ無資格
運動者ト共謀シ議員候補者ニ當選ヲ得シ
ムル目的ヲ以テ金錢ヲ選舉運動者ニ供與
シタルトキハ選舉委員モ亦無資格選舉運
動者トシテハモトシテ罪ヲ免ルル
ヲ得ス
昭和十二年(九)第九四九號
判決
本籍並住居廣島市保土ヶ谷區星川町
千三十二番地
會社員 安藤政信
(當三十九年)
外三十一名
右各被告保一ニ對スル市會議員選舉規則違
反被告保一安藤政信ニ對スル業務上橫領被
告事件ニ付昭和十二年三月十日東京控訴
院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告保一
並被告保一中助松原審判廳人渡邊治澤、須
々木平次、小林梅茂ハ上告ヲ爲シタリ因
テ判決スルコト左ノ如シ
【主文】 原判決中被告保一井上長吉、同菊
池義雄ニ關スル部分ヲ破毀ス
被告保一井上長吉ヲ懲役四月同菊池義雄
ヲ罰金五十圓ニ各處ス
被告保一義雄ニ於テ右罰金ヲ完納スルコ
ト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算
シタル期間同被告保一ヲ勞務場ニ留置ス
被告保一長吉ニ對シ本裁判確定ノ日ヨリ
三年間右刑ヲ執行ヲ猶豫ス
被告保一義雄ヨリ金十圓ヲ追徴ス
訴訟費用中原審判廳人松井賢壽ニ支給シ
タル分ハ被告保一井上長吉、同菊池義雄
及相被告保一三枝敬三郎、小泉由太郎、
柳下清兵衛、平野源藏、浦野憲次ノ同
證人飯田助夫ニ支給シタル分ハ被告保一
井上長吉及相被告保一小泉由太郎、中助
松、安藤政信、馬場左ノ各連帶負擔ト
シ其ノ餘ハ被告保一井上長吉ノ負擔トシ
棄却ス
【理由】 (中略) 被告保一中助松原審判廳人渡
邊治澤上告趣意書被告保一飯田兵太郎、同
三村作次郎、同三枝敬三郎、同井上長吉
ニ付原判決ハ法律ヲ解釋誤リタル不法
アリ原判決ハ其ノ理由事實摘示ノ部ニ於
テ第十二被告保一飯田兵太郎ハ(一)前掲

刑事判例

無資格運動者ト共謀セル選舉委員ノ選舉違反

(八一)

人井上長吉ト共謀シテ各々會員ノ授受ヲ
爲シタル事實ヲ夫々認定シ其ノ擬律ノ部
ニ於テ(記錄六〇八五頁)「...被告保一
白井龜吉、同小菅榮次郎、同飯田兵太郎
同小崎源藏、同浪川忠三郎、同鶴澤吉治
郎ノ各無資格選舉運動ノ點同三枝敬三郎
ノ判示第二十三(一)乃至(六)ノ無
資格選舉運動ノ點ハ舊選舉法ニ從ハ同
條第九十六條第九十九條ニ該當シ新選
舉法ニ從ハ同法第九十六條第九十九條
ニ該當スルコト...被告保一白井龜吉
同小菅榮次郎、同飯田兵太郎、同小崎源
藏、同浪川忠三郎、同鶴澤吉治郎ノ各金
錢供與ノ所爲ト無資格選舉運動ノ所爲被
告人三枝敬三郎ノ判示第二十三(一)
乃至(六)ノ金錢供與ノ所爲ト無資格選
舉運動ノ所爲ト夫々一個ノ行爲ニシテ
數個ノ罪名ニ觸ルルモノナルコトヲ以テ
刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ
孰レモ重キ金錢供與ノ罪トシテハ其ノ
比照上舊選舉法ノ刑輕キヲ以テ同法條所
定ノ刑ニ從フヘク云々」ト法定ノ選舉運
動者ニ非サル上告人飯田兵太郎並上告人
三枝敬三郎ニ各々無資格選舉運動ノ適用
法條ヲ示シタレトモ選舉委員タリシ上告
人三村作次郎並上告人井上長吉ノ各無資
格選舉運動ニヨル衆議院議員選舉法第
九十六條第一項第九十九條ノ適用ヲ忘
レタリ蓋シ選舉委員ハ特定候補者ノ爲選
法ナル選舉運動ヲ爲シ得ヘキハ言フ俟タ
ズト雖無資格選舉運動者ノ無資格選舉運
動ニ加功スルハ選舉委員トシテ爲スヘキ
選舉運動ノ範圍ニ屬セスト認ムヘキヲ以
テ無資格選舉運動者ト共謀セル選舉委員
規定ノ適用ヲ受ケ前記第九十六條第一項

第二百二十九條ノ罪責ニ任スヘキモノトス
(參照衆議院選舉法第九十九條)即チ上告
人三村作次郎並上告人井上長吉ニ衆議院
議員選舉法第九十九條ノ外同法第九十六
條第一項刑法第五十四條適用スヘキニ
之ヲ看過シタルハ法律ヲ適用誤リタル
不法アルモノトスト云フニ在リ
【判決理由】 按スルニ原告被告保一飯田
兵太郎ノ所有ニ付無資格選舉運動ニ關ス
ル衆議院議員選舉法第九十六條第九十九
九條等ヲ適用シタルハ同被告保一ニ對シ
九條判示第十二條(三)ノ(イ)乃至
(ハ)所掲ノ金錢供與ノ所爲カ一面無資
格選舉運動ノ法條ニ觸ルルカ爲ニシテ被
告人三村作次郎ト共同ニテ他ヨリ金錢
供與ヲ受ケタル事實ニ對シテ之ヲ適用シ
ルモノニアラス蓋シ選舉委員ノ選舉運動
ノ他ノ會員ノ供與ヲ受ケタル行爲ヲ目シテ
選舉運動行爲ナリト謂フヲ得サレハナリ
然ラハ原判決カ被告保一三村作次郎ニ對シ
論旨所掲ノ如ク非法定選舉運動者ナル被
告人飯田兵太郎ト共同ニテ安藤政信ヨリ
金五十圓ヲ供與テ受ケケル事實ヲ認定
シ之ニ對シ現行衆議院議員選舉法第九十
二條第一項第四號及改正前ノ同選舉法第
百二十二條第四號ヲ適用シタルノミニテ併
セテ無資格選舉運動ニ關スル法條ヲ以テ
問擬セザリシハ固ヨリ當然ナリ被告保一三
村作次郎ニ關シテハ論旨理由ナシ次ニ被
告人井上長吉ニ關スル部分ノ論旨ヲ按ス
ルニ衆議院議員選舉ニ際シ選舉委員カ無
資格運動者ト共謀シ議員候補者ニ當選ヲ
得シムル目的ヲ以テ金錢ヲ選舉運動者ニ
供與シタルトキハ選舉委員モ亦無資格選
舉運動者トシテハモトシテ罪ヲ免ルル
ヲ得ス
昭和十二年(九)第九四九號
判決
本籍並住居廣島市保土ヶ谷區星川町
千三十二番地
會社員 安藤政信
(當三十九年)
外三十一名
右各被告保一ニ對スル市會議員選舉規則違
反被告保一安藤政信ニ對スル業務上橫領被
告事件ニ付昭和十二年三月十日東京控訴
院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告保一
並被告保一中助松原審判廳人渡邊治澤、須
々木平次、小林梅茂ハ上告ヲ爲シタリ因
テ判決スルコト左ノ如シ
【主文】 原判決中被告保一井上長吉、同菊
池義雄ニ關スル部分ヲ破毀ス
被告保一井上長吉ヲ懲役四月同菊池義雄
ヲ罰金五十圓ニ各處ス
被告保一義雄ニ於テ右罰金ヲ完納スルコ
ト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算
シタル期間同被告保一ヲ勞務場ニ留置ス
被告保一長吉ニ對シ本裁判確定ノ日ヨリ
三年間右刑ヲ執行ヲ猶豫ス
被告保一義雄ヨリ金十圓ヲ追徴ス
訴訟費用中原審判廳人松井賢壽ニ支給シ
タル分ハ被告保一井上長吉、同菊池義雄
及相被告保一三枝敬三郎、小泉由太郎、
柳下清兵衛、平野源藏、浦野憲次ノ同
證人飯田助夫ニ支給シタル分ハ被告保一
井上長吉及相被告保一小泉由太郎、中助
松、安藤政信、馬場左ノ各連帶負擔ト
シ其ノ餘ハ被告保一井上長吉ノ負擔トシ
棄却ス
【理由】 (中略) 被告保一中助松原審判廳人渡
邊治澤上告趣意書被告保一飯田兵太郎、同
三村作次郎、同三枝敬三郎、同井上長吉
ニ付原判決ハ法律ヲ解釋誤リタル不法
アリ原判決ハ其ノ理由事實摘示ノ部ニ於
テ第十二被告保一飯田兵太郎ハ(一)前掲

本籍山口縣吉敷郡宮野村大字宮野上 第三千五百八十五番地 住居大阪市湊區吾妻町三丁目一ノ五 岩本榮方

右各被告人ニ對スル公私文書偽造行使使詐欺被告人河村幸一ニ對スル公正證書原本不實記載行使使詐欺被告事件ニ付昭和十二年六月二十九日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人市川正雄並被告人河村幸一原審辯護人山根次佐一ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【理由】 各被告人辯護人小野喜作上告趣意書第二點原審ハ重大ナル事實誤認ノ判決ナルカ然ラザレハ原審ハ證據ナクシテ判斷ヲ爲シタル取捨アルモノナリ被告人市川正雄ノ事實摘示ノ部ニ於テモ亦被告人河村幸一ノ事實摘示ノ部ニ於テモ各被告人ハ德本直直ト共謀ノ上行使シ得ヘキ借用證書ニ各德本直直ト印章ヲ押捺シ亦印章ヲ押捺シタルモノナリト判示スレバモ斯ノ如キハ決シテ德本直直ト共謀シタルモノニ非ス換言スレバ德本直直ト借用證書ニ各被告人ハ德本直直ト共謀シタルモノナリト判示スルコト及右基ニカ材長シテ當該印章ノ證明ヲ爲シタリ形式ノ表示ハ是等借用證書ヲ作成行使スル以前ニ於テ基ニ實子ナル德本直直ト只一人ノ成就作成ニ係リタルモノニシテ各被告人等ハ決シテ是等作成ニ加功協力シタルモノニ非ス從テ右基ニ氏名冒用等

ニ何等犯罪ノ認識ナカリシモノナリ又之ヲ認識セザリシナリト判斷スルコトカ普通ノ觀念ナリト信ス抑被告人河村幸一ノ昭明九年八月末頃原審被告人德本直直ヨリ同高山勇ヲ介シ他ヨリ金員借用方ノ依頼ヲ受ケタルモ金策意ノ如クナラザルニヨリ云々ト判示セルヨリ見ルモ亦被告人市川正雄ハ昭和十年七月中旬頃原審被告人高山勇ヲ介シテ同德本直直ヨリ金策ノ依頼ヲ受ケタルコト云々ト判示セルヨリ見ルモ本件犯罪事實ノ動機ハ悉ク德本直直ヨリ胎胎シ米タリシモノナリ而シテ右直直カ借金ノ周旋ヲ是等兩人ニ依頼スルニ當リテ彼直直ハ我カ父直直ハ我カ父基ニ承諾ヲ得テ借用證書ニハ父ノ名ヲ列スヘキ用途アリ且所要ノ借用主ノ印鑑ハ父カ材長トシテ證明シ居ルモノアリ故ニ何分金借リノ斡旋周旋ヲ頼ムト云フ云々ト判示セルヨリ見ルモ亦被告人等ハ借入金ノ周旋依頼ヲ爲セシハ被告ノ觀念トシテ直直ト首肯シ得ヘキ事實ナリト信ス然レニ原審ハ此ノ觀念ヲ無視シテ被告人等兩名ハ其ノ第一歩ノ犯罪當初ヨリ既ニ直直ト共謀アルモノナリト判示セルノ不合法ニシテ偏見檢測ノ判斷ナリト信ス假リニ是等兩人ニ始メヨリ德本直直ト共謀相通スルモノアリトスル原審ハ此ノ點ニ就テ何等ノ立證ヲ爲シ居ラザルモノナリ即チ原審ハ其ノ證據說明ノ部ニ於テ「被告人幸一ノ當公証ニ於ケル同被告人ハ判示印鑑證明書ノ偽造ニハ關係ナク」云々と又「被告人正雄ノ當公証ニ於ケル同被告人ハ判示各文書ノ偽造ニ關係シタルコトナク其ノ偽造ナルコトハ少

シモ知ラザリシ旨解釋スル外」云々と判示セルヨリ見レハ兩被告人共ニ前記ノ犯罪行為ニハ何等加功セザルモノナルコトヲ窺知シ得ラルヘシ或ハ原審カ援用セル正直勇ノ各供述ヲ以テ此ノ事實ヲ立證スルニ足ルモノアリト爲ス者アルモ右供述ヲ以テシテ尚且是等犯罪事實ヲ證明スヘキ材料ナラザルモノアリ假リニ其ノ材料タルヘキモノアリト雖斯ノ如キハ其ノ證明不十分ニシテ本件ノ此ノ行為ヲ判斷スルニハ甚不足ノ感アルモノナリト云フニ在リ

【判決理由】 仍テ原判決ヲ查閱スルニ原審ハ證據ニ依リテハ所論共謀事實ヲ認定スルニ足ラス從テ原判決ハ理由不備ハ違法アリテ破毀ヲ免レシ論旨理由由リ

不實記載ノ部分ヲ觀ルニ前段說示セルカ如ク原判決ハ唯(ニ)ノ(ロ)ニ於テハ「因テ登記官吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ不實ノ抵當權設定登記ヲ爲サシメ云々」ト說示シ(三)ノ(イ)ニ於テハ「因テ登記官吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ不實ノ記載ヲナシメ云々」トアリ又其ノ(ロ)ニ於テモ同様ノ記載アルニ過キ而シテ之ヲ原判決ノ全文ニ互リテ查閱スルニ(二)ノ(イ)ニ於テ「自己所有ノ田地七筆ヲ正直ノ爲提供シ」トアルノ外其ノ(ロ)ニ於テハ「擔保不動産」ト謂ヒ又「前記不動産ノ一部」ト謂ヒ(三)ノ(イ)ニ於テハ「前掲以外ノ田地ヲ其ノ擔保ニ供スル旨」又其ノ(ロ)ニ於テハ「抵當不動産前記提供田地全部」ト謂ヘルノミニ過キシテ抵當物件ノ確ナル表示ヲ遺脱セルヲ見ルナリ而シテ前記ノ判文ハ右ノ記載ヲ請タルモノナルヘシト雖之ヲ以テシテハ未タ如何ナル物件ニ對シ如何ナル不實ノ抵當權ヲ設定登記セシメタルヤヲ推知スルコト不可能ナルハ洵ニ言フ俟タサルコトナリ凡ソ特定ノ所爲ヲ以テ犯罪ニ擬シ之ヲ處断スルニ當リテ其ノ行為ノ内容ヲ明確ニスヘキハ論ヲ俟タサルトコロニシテ少クモ判文上犯罪目セラルヘキ所爲カ如何ナルモノナリヤヲ推知シ得ルニ足ルヘキ記載ナカルヘカヲ原判決ハ本件ニ於テ被告人幸一ニ公正證書ノ原本ニ不實記載ノ犯罪アリト爲スニ當リ或ハ登記簿ノ原本ニ不實ノ抵當權設定登記ヲ爲サシメ」ト云ヒ或ハ原「登記簿ノ原本ニ不實ノ記載ヲナシメ」ト謂フニ止マリ如何ナル物件ニ對シ如何ナル抵當權ヲ設定シタルヤ判示スル

コトナク漫然之ヲ公正證書不實記載罪ニ問擬シタルハ理由不備ノ違法アリト謂ハサルヘカラス加之不動産土地タル建物タルト問ハス取引上並法律上ニ於テ各筆毎ニ一個ノ物トシテ取扱ヘレ一個獨立ノ法益ヲ爲スヲ以テ登記法上ニ於テハ各筆毎ニ登記簿ヲ分チ各之ヲ獨立セシムルハ論ナキトコトトス故ニ一筆ノ土地ヲ抵當ニ供セシ旨ノ不實ノ記載罪ノ記載ハ當然一個ノ犯罪行為トシ刑罰法第五十七條第一項ノ適用ヲ受タルニ値スヘキハ勿論ナリ之ヲ以テ各筆毎ニ各犯罪ノ成立ヲ見ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ數筆ノ不動産ニ對シ不實ノ抵當權設定登記ヲ爲サシメタルトキハ該數個ノ犯罪ヲ成立シ刑罰法第五十五條ノ適用ヲ受ケ始メテ之ノ公正證書不實記載罪トシテ取扱ヘレタ爾右不實抵當權設定登記行為ニ於テ抵當權ノ目的物件ヲ表示スヘキハ其ノ間ニ於テ刑罰法第五十五條ノ適用スヘキヤ否ヤハ決スヘキ重要事實ナルヲ窺知スルニ足レリ原判決カ此ノ點ヲ明示スルコトナク從テ各記載行為相互ノ關係ヲ忘却シ刑罰法第五十五條ノ適用ヲ揭ケザリシハ擬律ノ錯誤タル不法アルヲ免レシト云フニ在リ

【判決理由】 原判決ハ所論ノ如ク被告人等幸一カ德本善雄所有ノ不動産ニ付山口區裁判所登記官吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ不實ノ抵當權設定登記ヲ爲サシメ即時之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シタル事實ヲ判示シタルモ該判示ノミニヨリテハ如何ナル不動産ニ付抵當權設定登記ヲ爲サレタルモノナルヤ分明ナラス從テ此ノ點

企テ同十二年二月七日ヨリ同年三月四日迄ノ間合計四十四ニ互リ右忠一ノ承諾ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒ前記憲治郎ニ對シ右忠一ノ名ヲ以テ倉村株等合計千二百十株ノ短期清算ノ取引ノ委託ヲ爲シ同人方ニ到達セシメ其ノ都度同人方店員ヲシテ忠一ヨリノ委託ナリト誤信セシメ之カ取引ヲ實行セシメ因テ其ノ間之ニ對スル約千五百圓ノ證據金ノ差入レヲ免レシト認定シタルモ右前段認定ニ依レハ證據金ハ一株式清算取引ノ委託ヲ爲シ之カ證據金トシテ五分利公債證書五百圓券一枚現金千圓ヲ差入レタルヲ差入レタルト云フニ在リ以テ右千五百圓ノ中濱田忠一ノ委託シタル株式清算取引ノ證據金ニ充當シタルモノアルヘキ假令該證據金ニ餘裕アリトスルモ右濱田ノ株式清算取引ノ證據金ヲ檢除シタル殘餘ニ過キサルモノナルヘカ千五百圓全部餘裕ナルヘキ管ナキコト明ナリトス然レニ其ノ後段認定ニ於テ被告人ハ右濱田忠一ノ前記證據金ノ餘裕ヲ利用シテ短期清算取引ノ委託ヲ爲シ金千五百圓ノ證據金ノ差入レヲ免レタルモノナリト認定シタルハ前後矛盾ノ甚キモノナリトス故ニ被告人カ濱田忠一ノ差入レタル證據金ノ餘裕ヲ利用シテ千五百圓ノ證據金ノ差入レヲ免レタルモノナリト認定スルニハ如何ナル方法ニ依リ證據金千五百圓ノ差入レヲ免レタルモノナリト理由ヲ示ササルヘカカラサルモノナリトス然レニ原判決ハ何等此ノ理由ヲ明ニセテ理由前段ニ於テ濱田忠一カ自己ノ株式清算取引ノ證據金トシテ千五百圓ノ公債證書及現金千圓ヲ差入レタルト認定シ其ノ後段ニ於テ被告人ハ前記證據金ノ餘裕

刑 事 判 例 證 據 理 由 違 法 前 後 理 由 顯 虧 違 法

刑事判例

前後理由由顯明ノ違法▲大ノ噴合阻止ノ爲ノ發砲ト緊急避難

ヲ利用シテ短期清算取引ノ委託ヲ爲シ約千五百圓ノ證據金ノ差入ヲ免レ財産上不法ノ利益ヲ得タルヲ認定シタルハ事實理由不備ノ違法アルカ又ハ理由顯明ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レザルモノト信スト云フニ在リ

【判決理由】仍テ原判決ヲ在閱スルニ判示第一ノ(一)ノ事實前段ニ於テ被告人ハ濱田忠一ノ委託ニ依リ大阪株式取引所一般取引員武田憲治郎ニ對シ株式短期清算取引ノ取次ヲ爲シ居リタルカ右濱田忠一ニ於テ差入レ居リタル約千五百圓ノ證據金ニ餘裕アルコトヲ知リ被告人ニ於テ之ヲ利用シ短期清算取引ヲ爲サントコトヲ企テ右武田憲治郎ニ對シ濱田忠一ノ依頼ナルカ如ク裝ヒ倉庫等ノ短期清算取引ヲ委託シ武田憲治郎ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ取引ヲ實行セシメテ説明セリ是ニ依リテ觀レハ被告人ハ濱田忠一ノ證據金ヲ利用シ武田憲治郎ヲシテ取引ヲ實行セシメ取引ノ結果同人ヨリ財産上ノ利益ヲ得ント企テタルモノト解セラル然ルニ其ノ後段ニ於テ因テ同人ヨリ約千五百圓ノ證據金ノ差入レヲ免レテ財産上不法ノ利益ヲ得タルト爲シ恰モ右取引ノ結果證據金ノ差入レヲ免レタルカ如ク説明シ右前後段ノ説明ニ矛盾スルトコトヨアルノミナラス其ノ前段ニ於テ濱田忠一ノ差入レタル證據金ニ餘裕アルヲ利用シテ取引ヲ爲シタルカ如ク説明シナカラ後段ニ於テ證據金全額ヲ免レタルカ如ク判示シ之亦前後段後矛盾セルカ如ク結局理由不備タルヲ免レザルヲ以テ原判決ハ之ヲ破毀スヘキモノトス右説明ノ如クナルヲ以テ本件ハ原判決ヲ破毀スヘキモノナルヲ

以テ爾餘ノ上告論旨ニ對スル説明ヲ爲サス以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百四十八條ノ二ニ依リ原裁判所ニ差戻スヲ相當ト認メ主文ノ如ク判決ス

昭和十二年十一月一日
大審院第二刑事部 裁判長 尾佐竹
判事 尾佐竹
判事 大西道太郎
判事 佐伯 昭二

●大ノ噴合阻止ノ爲ノ發砲ト
緊急避難
高價ナル獵犬ノ所有者が價格低キ犬ト噴合ヲ爲シ其儘放置スルニ於テハ獵犬が絶命スヘキ且ツ所持ハ鐵砲ヲ以テ擊ツハ外途ナクシテ其ハ犬ヲ擊ツテ負傷セシメタルトキハ刑法第三十七條緊急避難ニ該當スルモノニシテ鐵砲火藥取締法違反トテ罰スヘキニ非ス

刑事判例

前後理由由顯明ノ違法▲大ノ噴合阻止ノ爲ノ發砲ト緊急避難

ヲ利用シテ短期清算取引ノ委託ヲ爲シ約千五百圓ノ證據金ノ差入レヲ免レ財産上不法ノ利益ヲ得タルヲ認定シタルハ事實理由不備ノ違法アルカ又ハ理由顯明ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レザルモノト信スト云フニ在リ

【判決理由】仍テ原判決ヲ在閱スルニ判示第一ノ(一)ノ事實前段ニ於テ被告人ハ濱田忠一ノ委託ニ依リ大阪株式取引所一般取引員武田憲治郎ニ對シ株式短期清算取引ノ取次ヲ爲シ居リタルカ右濱田忠一ニ於テ差入レ居リタル約千五百圓ノ證據金ニ餘裕アルコトヲ知リ被告人ニ於テ之ヲ利用シ短期清算取引ヲ爲サントコトヲ企テ右武田憲治郎ニ對シ濱田忠一ノ依頼ナルカ如ク裝ヒ倉庫等ノ短期清算取引ヲ委託シ武田憲治郎ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ取引ヲ實行セシメテ説明セリ是ニ依リテ觀レハ被告人ハ濱田忠一ノ證據金ヲ利用シ武田憲治郎ヲシテ取引ヲ實行セシメ取引ノ結果同人ヨリ財産上ノ利益ヲ得ント企テタルモノト解セラル然ルニ其ノ後段ニ於テ因テ同人ヨリ約千五百圓ノ證據金ノ差入レヲ免レテ財産上不法ノ利益ヲ得タルト爲シ恰モ右取引ノ結果證據金ノ差入レヲ免レタルカ如ク説明シ右前後段ノ説明ニ矛盾スルトコトヨアルノミナラス其ノ前段ニ於テ濱田忠一ノ差入レタル證據金ニ餘裕アルヲ利用シテ取引ヲ爲シタルカ如ク説明シナカラ後段ニ於テ證據金全額ヲ免レタルカ如ク判示シ之亦前後段後矛盾セルカ如ク結局理由不備タルヲ免レザルヲ以テ原判決ハ之ヲ破毀スヘキモノトス右説明ノ如クナルヲ以テ本件ハ原判決ヲ破毀スヘキモノナルヲ

以テ爾餘ノ上告論旨ニ對スル説明ヲ爲サス以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百四十八條ノ二ニ依リ原裁判所ニ差戻スヲ相當ト認メ主文ノ如ク判決ス

昭和十二年十一月一日
大審院第二刑事部 裁判長 尾佐竹
判事 尾佐竹
判事 大西道太郎
判事 佐伯 昭二

●大ノ噴合阻止ノ爲ノ發砲ト
緊急避難
高價ナル獵犬ノ所有者が價格低キ犬ト噴合ヲ爲シ其儘放置スルニ於テハ獵犬が絶命スヘキ且ツ所持ハ鐵砲ヲ以テ擊ツハ外途ナクシテ其ハ犬ヲ擊ツテ負傷セシメタルトキハ刑法第三十七條緊急避難ニ該當スルモノニシテ鐵砲火藥取締法違反トテ罰スヘキニ非ス

刑事判例

前後理由由顯明ノ違法▲大ノ噴合阻止ノ爲ノ發砲ト緊急避難

ヲ利用シテ短期清算取引ノ委託ヲ爲シ約千五百圓ノ證據金ノ差入レヲ免レ財産上不法ノ利益ヲ得タルヲ認定シタルハ事實理由不備ノ違法アルカ又ハ理由顯明ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レザルモノト信スト云フニ在リ

【判決理由】仍テ原判決ヲ在閱スルニ判示第一ノ(一)ノ事實前段ニ於テ被告人ハ濱田忠一ノ委託ニ依リ大阪株式取引所一般取引員武田憲治郎ニ對シ株式短期清算取引ノ取次ヲ爲シ居リタルカ右濱田忠一ニ於テ差入レ居リタル約千五百圓ノ證據金ニ餘裕アルコトヲ知リ被告人ニ於テ之ヲ利用シ短期清算取引ヲ爲サントコトヲ企テ右武田憲治郎ニ對シ濱田忠一ノ依頼ナルカ如ク裝ヒ倉庫等ノ短期清算取引ヲ委託シ武田憲治郎ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ取引ヲ實行セシメテ説明セリ是ニ依リテ觀レハ被告人ハ濱田忠一ノ證據金ヲ利用シ武田憲治郎ヲシテ取引ヲ實行セシメ取引ノ結果同人ヨリ財産上ノ利益ヲ得ント企テタルモノト解セラル然ルニ其ノ後段ニ於テ因テ同人ヨリ約千五百圓ノ證據金ノ差入レヲ免レテ財産上不法ノ利益ヲ得タルト爲シ恰モ右取引ノ結果證據金ノ差入レヲ免レタルカ如ク説明シ右前後段ノ説明ニ矛盾スルトコトヨアルノミナラス其ノ前段ニ於テ濱田忠一ノ差入レタル證據金ニ餘裕アルヲ利用シテ取引ヲ爲シタルカ如ク説明シナカラ後段ニ於テ證據金全額ヲ免レタルカ如ク判示シ之亦前後段後矛盾セルカ如ク結局理由不備タルヲ免レザルヲ以テ原判決ハ之ヲ破毀スヘキモノトス右説明ノ如クナルヲ以テ本件ハ原判決ヲ破毀スヘキモノナルヲ

以テ爾餘ノ上告論旨ニ對スル説明ヲ爲サス以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百四十八條ノ二ニ依リ原裁判所ニ差戻スヲ相當ト認メ主文ノ如ク判決ス

昭和十二年十一月一日
大審院第二刑事部 裁判長 尾佐竹
判事 尾佐竹
判事 大西道太郎
判事 佐伯 昭二

●大ノ噴合阻止ノ爲ノ發砲ト
緊急避難
高價ナル獵犬ノ所有者が價格低キ犬ト噴合ヲ爲シ其儘放置スルニ於テハ獵犬が絶命スヘキ且ツ所持ハ鐵砲ヲ以テ擊ツハ外途ナクシテ其ハ犬ヲ擊ツテ負傷セシメタルトキハ刑法第三十七條緊急避難ニ該當スルモノニシテ鐵砲火藥取締法違反トテ罰スヘキニ非ス

三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス
昭和十二年七月十日
大審院第五刑事部 裁判長 尾佐竹
判事 日下部義夫
判事 宮内聰太郎
判事 久野田益壽

【理由】 本件上告ノ理由アルコトハ本院ニ於テ曩ニ言渡シタル前示決定理由ニ說明スルカ如クナラニテ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ審判スヘキモノトス按スルニ本件公訴事實ノ要旨ハ被告人ハ昭和十一年十一月二十日午後一時三十分頃高崎市大字飯塚八百五番地清水一郎方前高崎草津線鐵道ニ於テ瑣細ノ事ニ立腹シ同人所有ノ畜犬ニ對シ狩獵用火藥並鐵砲ヲ裝填セル所携ノ獵銃ヲ發射シ之ニ該鐵砲ヲ命中セシメ其ノ腰部上方ヨリ腰骨ニ至リ約十釐四方ニ缺損創を負ハシメ以テ損壞シ且所携警察官著ノ許可ヲ受ケ居

刑事判例

前後理由由顯明ノ違法▲大ノ噴合阻止ノ爲ノ發砲ト緊急避難

ヲ利用シテ短期清算取引ノ委託ヲ爲シ約千五百圓ノ證據金ノ差入レヲ免レ財産上不法ノ利益ヲ得タルヲ認定シタルハ事實理由不備ノ違法アルカ又ハ理由顯明ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レザルモノト信スト云フニ在リ

【判決理由】仍テ原判決ヲ在閱スルニ判示第一ノ(一)ノ事實前段ニ於テ被告人ハ濱田忠一ノ委託ニ依リ大阪株式取引所一般取引員武田憲治郎ニ對シ株式短期清算取引ノ取次ヲ爲シ居リタルカ右濱田忠一ニ於テ差入レ居リタル約千五百圓ノ證據金ニ餘裕アルコトヲ知リ被告人ニ於テ之ヲ利用シ短期清算取引ヲ爲サントコトヲ企テ右武田憲治郎ニ對シ濱田忠一ノ依頼ナルカ如ク裝ヒ倉庫等ノ短期清算取引ヲ委託シ武田憲治郎ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ取引ヲ實行セシメテ説明セリ是ニ依リテ觀レハ被告人ハ濱田忠一ノ證據金ヲ利用シ武田憲治郎ヲシテ取引ヲ實行セシメ取引ノ結果同人ヨリ財産上ノ利益ヲ得ント企テタルモノト解セラル然ルニ其ノ後段ニ於テ因テ同人ヨリ約千五百圓ノ證據金ノ差入レヲ免レテ財産上不法ノ利益ヲ得タルト爲シ恰モ右取引ノ結果證據金ノ差入レヲ免レタルカ如ク説明シ右前後段ノ説明ニ矛盾スルトコトヨアルノミナラス其ノ前段ニ於テ濱田忠一ノ差入レタル證據金ニ餘裕アルヲ利用シテ取引ヲ爲シタルカ如ク説明シナカラ後段ニ於テ證據金全額ヲ免レタルカ如ク判示シ之亦前後段後矛盾セルカ如ク結局理由不備タルヲ免レザルヲ以テ原判決ハ之ヲ破毀スヘキモノトス右説明ノ如クナルヲ以テ本件ハ原判決ヲ破毀スヘキモノナルヲ

以テ爾餘ノ上告論旨ニ對スル説明ヲ爲サス以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百四十八條ノ二ニ依リ原裁判所ニ差戻スヲ相當ト認メ主文ノ如ク判決ス

昭和十二年十一月一日
大審院第二刑事部 裁判長 尾佐竹
判事 尾佐竹
判事 大西道太郎
判事 佐伯 昭二

●大ノ噴合阻止ノ爲ノ發砲ト
緊急避難
高價ナル獵犬ノ所有者が價格低キ犬ト噴合ヲ爲シ其儘放置スルニ於テハ獵犬が絶命スヘキ且ツ所持ハ鐵砲ヲ以テ擊ツハ外途ナクシテ其ハ犬ヲ擊ツテ負傷セシメタルトキハ刑法第三十七條緊急避難ニ該當スルモノニシテ鐵砲火藥取締法違反トテ罰スヘキニ非ス

刑事判例

犬ノ噛合阻止ノ爲ノ發砲ト緊急避難▲市長ノ收賄罪ト重大事實ノ誤認並犯情

大審院第五刑事部、裁判長伊藤、高七、列事、神原、共造、列事、日下部、義夫、列事、宮内、藤太郎、列事、久田、田益、義

●市長ノ收賄罪ハ重大事實ノ誤認並犯情

昭和十二年(九)第九二七號 本籍静岡市南安倍町三番地 住居東京市淀橋區上落合二丁目五百五十三番地 無職 菅 貞仁

受クヘキコトヲ強要シ危難ヲ忍容スヘシト爲スカ如キハ不能ヲ強ムルモノト云フヘキヲ以テ他ニ特別ナル事由ハ在セザル限リ被告人ハ叙上ノ許可ヲ受ケシテ前示狩獵用火藥類ヲ狩獵以外ノ用途ニ充テタル行爲モ亦自己ノ財産ニ對スル現在ハ危難ヲ避ケル爲ニ出テタルニ出テタル行爲ニ外ナラザルモノト云フヘシ而モ右番犬及獵犬ノ當時ニ於ケル價格ハ前叙ハ如クナルヲ以テ清水一郎所有ノ番犬ヲ損傷シタルカ爲同人ノ蒙ル損害トシテハ右價格以上ニ出テタルモノト云フヘシ之ニ反シ若シ被告人ニシテ其ノ所有ニ係ル獵犬カ番犬ノ爲メ咬付カレタル儘放置セラレ之ニ對シ何等ノ措置ヲ執ラザリシトセハ被告人ノ蒙ルハカリシ損害ハ其ノ獵犬ノ價格ニ相當スルモノト認ムルハ妥當トスヘク尙刑法第二百六十一條銃砲火藥類取締法施行規則第二十五條第四十五條等ノ規定スルトコロヲ參照シ被告人ノ前示行爲ニ因リテ生シタル害ハ其ノ避ケントシタル害ノ程度ヲ超エザルモノト認ム以上説明スルトコロニ依レハ被告人ノ叙上行爲ハ正刑法第三十七條第一項所定ノ緊急避難ニ該當シ其ノ行爲ノ違法性ヲ阻却スルモノト云フヘキヲ以テ犯罪ヲ構成セス從テ被告人ヲ處罰スルヲ得ザルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス 被告有安三郎 昭和十二年十一月六日

判決カ引用セル各證據ノ内被告人菅貞仁カ之レヲ收受セリト證據ハ本人供述ノ外ハ第一審相被告菅佐美熊吉ノ供述ノミニシテ其ノ他ノ關係人相被告菅世克己、同坂本武ノ供述ハ凡テ間接ノ證據タルニ不過若シ菅佐美熊吉ノ供述カ虛言ナリシナラハ是等關係人ノ供述ハ根本ヨリ覆サレドモ菅貞仁ノ犯罪事實ヲ認定セル唯一ノ證據タル字佐美熊吉ノ供述ハ夫レ自身後段ニ詳述スルカ如ク實ニ前後矛盾撞着ヲ極メ其屬スル合資會社勝呂組ノ帳簿其ノ他ノ確實ナル文獻ニヨリテ其ノ供述ノ根據全ク不實ナルコトヲ反證セラルルミナラス第一審相被告坂本武ノ供述其ノ他ノ證據ニヨリテ其ノ供述ノ到底信實ニシテカラス幾多ノ事實ヲ立證シ得ヘキニ不拘原裁判所カ是等ノ所ナク反證並ニ事情ニ對シ願慮檢討スル所ナク單純ニ字佐美熊吉ノ供述ノミヲ採用シテ被告ニ對スル犯罪事實ヲ認定シタルハ本辯護人ノ頗ル遺憾トスル處ナリ故ニ原判決カ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル各般ノ事由ヲ列舉シ適當ナル御判斷ヲ乞フハント欲ス(下略)(一)被告菅貞仁カ昭和八年十二月申字佐美熊吉ノ手引金二千圓ヲ收受セル點ハ被告ノ認ムル所ニ係リ爭ナシト雖被告ハ後日返却スル意圖ヲ以テ一時之ヲ預リ置キタルニ過キスト主張シ超エテ昭和九年三月二十日頃一色高富ノ爲ニ宅地ヲ購入シタル機會ヲ利用シ二千五百圓ノ借入方ヲ字佐美ニ申入五百圓ヲ受取り六十日後ニ於テ二千五百圓ノ約束手形ヲ交付シ同年十月二十八日此土地ノ一部ヲ静岡土地建物株式會社ニ坪八圓五十錢合計一萬一千九百圓ニテ賣却シ差引計算ニヨリ之レカ返却ノ初志ヲ遂ケタル事實ヲ主張シ第一審ノ相被告菅佐美ハ之レヲ否認シ二千五百圓ハ二千圓ノ贈賄トハ別口ニシテ二千圓ハ返却セラレタルモノニ非スト云フ此ノ兩者ノ矛盾ハ要スルニ水掛論ニシテ何レニ對シテモ之レヲ確約スヘキ的確ナル資料ニシテ雖本問題ヲ總ル諸般ノ事情並ニ供述ノ信實性ヲ仔細ニ檢討スル時字佐美ノ言ノ依然トシテ信實ニシテ之レニ反シテ被告菅貞仁ノ供述ニシテ素レサルト數多ノ證據資料ノ信實ニキモアルトニヨリ原判決ノ認定ニハ此ノ點ニ於テモ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト思料スルヲ以テ在ニ其ノ諸點ヲ列記シ以テ本辯護人ノ主張ノ存スル處ヲ明確ニセント欲ス(下略)ト云ヒ被告人菅貞仁上告趣意書全四ノ事件ニ就キマシテハ多大ノ御手数ヲ煩シ誠ニ申譯ナイ次第アリマス第一審第二審共ニ期待ニ反シテ判決ヲ受ケマシテ實ニ殘念ニ思フ次第アリマス此ノ上ハ是非共大審院ノ事實審理ヲ御願ヒ致シ度イト念願致シ居ル次第アリマス就キマシテハ素人ノ私力第二審判決ニ對スル不滿ノ點ヲ申上マシテ裁判官諸公ニ是非共事實審理ヲ御願スル次第アリマス第一審第二審間隨判示第二ノ事實ノ内常世ノ供述ヲ引用シタル部分(前略)當時菅市長ニモ讓渡案ヲ市會ニ上程スル等世話ニナルカラ五千圓金ヲヤラネハナラナイト云フ話アリタルヲ以テ自分ハ之レヲ承認シタリ云々トアリ之レハ第一審第二回公判調書ノ内裁判長ノ訊問ニ答ヘタルモノナルカ(中

刑事判例

▲市長ノ收賄罪ト重大事實ノ誤認並犯情

略)要スルニ電氣會社ヨリ市長ニ贈ルヘキ五千圓カ支出セラレ居ル事實ノ證據トシテハ此ノ常世ノ供述ハ有力ナルモ自分カ受領シタリト證據トシテハ前略ナル推斷ノ資料ナリト信ス次ニ坂本武ノ供述ヲ引用シタル部分(中略)此ノ坂本武ノ供述ハ常世ノ供述ト同シト會社ヨリ市長ニ贈ルヘキ分トシテ五千圓ノ支出セラレタル證據トシテノ自分ニ關係アルモノ字佐美ヨリ自分カ收受シタリトノ證據ニハ何等關係ナキモノト信ス次ニ字佐美ノ供述ヲ引用シタル部分字佐美ノ供述ハ専ラ第一審第二回公判調書第三回豫審訊問調書ヲ引用シ有罪ノ斷案ヲ下サレタルモノナル處第一審第二審ヲ通シテ各辯護人諸士ヨリ幾多ノ證據ヲ舉ゲテ字佐美ノ供述ノ信實ニハカラサル事ヲ極力辯護セラレタルニ拘ラス依然字佐美ノ供述ヲ眞實ナリトシテ竟ニ有罪ノ判決ヲ受ケタルコトハ證據ノ採否ハ固ヨリ裁判所ノ職權ナルモ自分トシテ誠ニ不可解ニ思フ處ニシテ此ノ判決ニ承認シ能ハサル處テアリマス(中略)一時タリトモ君ノ金トシテ預テ置タリト云フテ二千圓預テ置イタコトハ大ナル失策テアリマシテ此ノ點ニ付テハ豫審以來法官諸士ニ謝リ居ル處テアリマシテ若シモ之レカ犯罪ニナルナレハ故シ方カ無イ次第アリマス第二、第二審第六回公判調書字佐美ニ對スル裁判長ノ訊問中(四七二頁以下)(中略)斯様ニ第一審テハ市長ト云ヒ第二審テハ應接間ト云ヒ裁判長ヨリノ詰問ヲ受ケ市長室ト應接間ハ食付テ居リマスカラテカテカテ誤魔化シテ居リマス昭和八年ノ其ノ當時ハ市長室ノ隣ニハ應接間ハナ

ク廊下ヲ界テ助役室カ在ルノミテ他ニハ室ハナイノテアリマス其ノ證據ハ現市長證明ノ圖面カ證據トシテ提出シタル次第アリマス字佐美ノ斯ル供述カ出露目ヲ信用スヘカラス一例トナリマス第三、第二審ニ於ケル第七回公判調書(四七八九頁以下)證人望月秀作ノ供述及同第八回公判調書(四八五八頁以下)須田雄馬ノ供述ニ付テアリマスカ之レハ大切ナル進木健治カ死亡シタルノ私ニ取リ實ニ殘念ニ思フノテアリマスカ事實ハ須田ノ證言ノ通りテアリマシテ私カ上京シテ植木屋旅館ヲ會見シテ際私ノ室ニ入ルヤ非常ニ怒氣ヲ含ミ字佐美ヲ一發テヤツツケテ仕舞フカト思ヒマシタ夫レカラ大體須田ノ證言ノ様ナ次第アリマシタカ二千圓自分カ字佐美カラ預テ居ルコトヲ字佐美カラ聞イテ居タコトハ望月秀作ノ證言ニテ判然シ若シ五千圓預テ置タル兄弟分テアル進木ニ五千圓預ケテイルト言ハサル管ナク進木カ私方ニ強迫シ來タ動機ハ進木カ字佐美金ハ融通ヲ頼ミタルトキ字佐美カ其ノ斷ル手段トシテ市長ニ二千圓預ケテアルカラ夫レヲ借りヨト言ハレテ來リタルモノニシテ私ハ其ノ時ニハ竟ニ預リ金ニハアラス二千五百圓ノ借金ニナリ居リ其ノ旨ヲ進木ニ云フト今度ハ請負師カラ金ヲ借りルノハ不都合ナリ市長ヲ止メテト脅迫シナリシ爲望月秀作署長ニ電話ヲカケ來邸ヲ求メタル次第アリマシテ進木カ死シテ居リマスカラ間接テハアリマスカ此ノ兩人ノ證言ヲ併セ考フレハ其ノ間ノ事情ハ自ら推察セラ

ルモノト思ハレマス從テ字佐美ノ持

【決定理由】仍テ記錄ヲ精査スルニ原判決ノ事實ノ認定ニハ重大ナル誤認アル

刑事判例

市長ノ收賄罪ト重大事實ノ誤認並犯情ニ依ル裁判所ヲ構成セザリシ違法

一審相被告人常世克己、坂本武、宇佐美熊吉ト其ノ一ヲ相被告人笠原源五郎、寺川竹藏、白井喜市郎ト原審證人阿部芳三、鳥井政幸、松岡修一ニ支給シタル分ハ相被告人寺川竹藏、川島一松、村本喜代作ト同審證人松阪徳重、松村郷太郎、尾崎孝一ニ支給シタル分ハ相被告人笠原源五郎、寺川竹藏、白井喜市郎ト同審證人水谷國治ニ支給シタル分ハ之ヲ二分シ其ノ一ヲ相被告人寺川竹藏、川島一松、村本喜代作ト其ノ一ヲ相被告人笠原源五郎、寺川竹藏、白井喜市郎ト被告人貞仁トノ各連帯負擔トス

【理山】辯護人竹内金太郎、赤井幸夫、田中賢郎上告趣意書ノ第一點被被告人上告趣意書ノ執レモ理由アリテ原判決ヲ破毀スヘキモノナルコトハ前決定ニ於テ説明シタル處ノ如シ仍ツテ事實ノ審理ヲ爲スニ第一、被告人貞仁ハ静岡市長トシテ在職中昭和八年十一月十九日静岡電氣株式會社ヨリ静岡清水兩市カ有スル自動車運輸事業經營權讓受ノ請願書ヲ提出シタルヨリ貞仁ハ市長トシテ同月二十日静岡市會ニ對シ静岡市カ有スル右權利ヲ代價トシテ金七萬圓ノ寄附ヲ受ケル條件ノ下ニ右會社ニ讓渡スヘキ議案ヲ提出シ同市會ハ即日之ヲ可決スルニ至リタルカ同年十二月月上旬静岡市南安倍町三番地ナル當時ノ貞仁住宅ニ於テ同會社事務取締役常世克己同社支配人坂本武及同會社ト特別關係ヲ有スル土木建築請負業合資會社勝呂組無責任社員タル宇佐美熊吉ヨリ貞仁カ市長トシテ右議案ヲ上程シ之カ通過ニ盡力シタル報酬トシテ宇佐美ノ手ヲ經

テ金二千圓ヲ提供セラルルヤ其ノ意ヲ諒シテ之ヲ受ケ以テ賄賂ヲ收受シ第二、昭和十年五月三十一日静岡市會議長選舉ニ際シ被告人貞仁ハ笠原源五郎ト共謀ノ上静岡市會議員タル寺川竹藏、白井喜市郎ニ對シ議長候補者中田賢郎ニ投票スヘキコトノ請託ヲ爲シタルニ右兩名ヨリ報酬供與ノ申込アリタルヨリ之ヲ承諾シ投票後同年六月二十五日静岡市役所内ニ於テ笠原ノ手ヲ經テ其ノ報酬トシテ金額一千圓振出人笠原源五郎支拂期日同年八月十日ナル約束手形一通ヲ交付シ以テ賄賂ヲ供與シタルモノトス(證據略)法律ニ照スニ被告人ノ第一ノ所爲ハ刑法第九十七條第一項前段ニ該當シ第二ノ所爲中贈賄ノ點ハ同法第九十八條第一項前段ニ該當シ第二ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第二項前段ニ該當シ第三ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第三項前段ニ該當シ第四ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第四項前段ニ該當シ第五ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第五項前段ニ該當シ第六ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第六項前段ニ該當シ第七ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第七項前段ニ該當シ第八ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第八項前段ニ該當シ第九ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第九項前段ニ該當シ第十ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第十項前段ニ該當シ第十一ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第十一項前段ニ該當シ第十二ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第十二項前段ニ該當シ第十三ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第十三項前段ニ該當シ第十四ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第十四項前段ニ該當シ第十五ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第十五項前段ニ該當シ第十六ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第十六項前段ニ該當シ第十七ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第十七項前段ニ該當シ第十八ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第十八項前段ニ該當シ第十九ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第十九項前段ニ該當シ第二十ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第二十項前段ニ該當シ第二十一ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第二十一項前段ニ該當シ第二十二ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第二十二項前段ニ該當シ第二十三ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第二十三項前段ニ該當シ第二十四ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第二十四項前段ニ該當シ第二十五ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第二十五項前段ニ該當シ第二十六ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第二十六項前段ニ該當シ第二十七ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第二十七項前段ニ該當シ第二十八ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第二十八項前段ニ該當シ第二十九ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第二十九項前段ニ該當シ第三十ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第三十項前段ニ該當シ第三十一ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第三十一項前段ニ該當シ第三十二ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第三十二項前段ニ該當シ第三十三ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第三十三項前段ニ該當シ第三十四ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第三十四項前段ニ該當シ第三十五ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第三十五項前段ニ該當シ第三十六ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第三十六項前段ニ該當シ第三十七ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第三十七項前段ニ該當シ第三十八ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第三十八項前段ニ該當シ第三十九ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第三十九項前段ニ該當シ第四十ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第四十項前段ニ該當シ第四十一ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第四十一項前段ニ該當シ第四十二ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第四十二項前段ニ該當シ第四十三ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第四十三項前段ニ該當シ第四十四ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第四十四項前段ニ該當シ第四十五ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第四十五項前段ニ該當シ第四十六ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第四十六項前段ニ該當シ第四十七ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第四十七項前段ニ該當シ第四十八ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第四十八項前段ニ該當シ第四十九ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第四十九項前段ニ該當シ第五十ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第五十項前段ニ該當シ第五十一ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第五十一項前段ニ該當シ第五十二ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第五十二項前段ニ該當シ第五十三ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第五十三項前段ニ該當シ第五十四ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第五十四項前段ニ該當シ第五十五ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第五十五項前段ニ該當シ第五十六ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第五十六項前段ニ該當シ第五十七ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第五十七項前段ニ該當シ第五十八ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第五十八項前段ニ該當シ第五十九ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第五十九項前段ニ該當シ第六十ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第六十項前段ニ該當シ第六十一ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第六十一項前段ニ該當シ第六十二ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第六十二項前段ニ該當シ第六十三ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第六十三項前段ニ該當シ第六十四ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第六十四項前段ニ該當シ第六十五ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第六十五項前段ニ該當シ第六十六ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第六十六項前段ニ該當シ第六十七ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第六十七項前段ニ該當シ第六十八ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第六十八項前段ニ該當シ第六十九ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第六十九項前段ニ該當シ第七十ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第七十項前段ニ該當シ第七十一ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第七十一項前段ニ該當シ第七十二ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第七十二項前段ニ該當シ第七十三ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第七十三項前段ニ該當シ第七十四ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第七十四項前段ニ該當シ第七十五ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第七十五項前段ニ該當シ第七十六ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第七十六項前段ニ該當シ第七十七ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第七十七項前段ニ該當シ第七十八ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第七十八項前段ニ該當シ第七十九ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第七十九項前段ニ該當シ第八十ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第八十項前段ニ該當シ第八十一ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第八十一項前段ニ該當シ第八十二ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第八十二項前段ニ該當シ第八十三ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第八十三項前段ニ該當シ第八十四ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第八十四項前段ニ該當シ第八十五ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第八十五項前段ニ該當シ第八十六ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第八十六項前段ニ該當シ第八十七ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第八十七項前段ニ該當シ第八十八ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第八十八項前段ニ該當シ第八十九ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第八十九項前段ニ該當シ第九十ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第九十項前段ニ該當シ第九十一ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第九十一項前段ニ該當シ第九十二ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第九十二項前段ニ該當シ第九十三ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第九十三項前段ニ該當シ第九十四ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第九十四項前段ニ該當シ第九十五ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第九十五項前段ニ該當シ第九十六ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第九十六項前段ニ該當シ第九十七ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第九十七項前段ニ該當シ第九十八ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第九十八項前段ニ該當シ第九十九ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第九十九項前段ニ該當シ第一百ノ所爲中賄賂ノ點ハ同法第九十八條第一百項前段ニ該當シ

【理山】被告人一寸木久太郎辯護人杉山賢三上告趣意書第一點原審書記ニ於ケル最終ノ公判調書ヲ昭和十二年六月三十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告人並被被告人三原審辯護人坂田豊喜、須々木平治、小林梅茂ハ上告ヲ爲シタルコト因テ判決スルコト左ノ如シ

七條第二十八條ニ依リ主文ノ如ク負擔セシムヘキモノトス
以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ主文ノ如ク判決ス
檢察官上常太郎副官
昭和十二年十一月十一日
大審院第二刑事部、裁判長判事遠藤 誠
判事 尾佐竹 猛 判事 田中 龜
判事 大西道太郎 判事 佐伯 顯二

【理山】被告人一寸木久太郎辯護人杉山賢三上告趣意書第一點原審書記ニ於ケル最終ノ公判調書ヲ昭和十二年六月三十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告人並被被告人三原審辯護人坂田豊喜、須々木平治、小林梅茂ハ上告ヲ爲シタルコト因テ判決スルコト左ノ如シ

【理山】被告人一寸木久太郎辯護人杉山賢三上告趣意書第一點原審書記ニ於ケル最終ノ公判調書ヲ昭和十二年六月三十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告人並被被告人三原審辯護人坂田豊喜、須々木平治、小林梅茂ハ上告ヲ爲シタルコト因テ判決スルコト左ノ如シ

【理山】被告人一寸木久太郎辯護人杉山賢三上告趣意書第一點原審書記ニ於ケル最終ノ公判調書ヲ昭和十二年六月三十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告人並被被告人三原審辯護人坂田豊喜、須々木平治、小林梅茂ハ上告ヲ爲シタルコト因テ判決スルコト左ノ如シ

刑事判例

法律ニ依ル裁判所ヲ構成セザリシ違法

ノ規定ニ依ル公判廷ヲ構成シタル事實ヲ認ムルニ由ル無キヲ以テ原審ハ結局原判決言渡ニ當リ同法條ニ違背シ判決裁判所ヲ構成セザリシコトニ歸スル判決ハ同法第四十條第一號ニ該當スル不法アリ且之ニ因テ事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスヘキ理由アリトシテ右被告人及共同被告上告人ニ對シ全部破毀ヲ免レス(御院昭和二年(レ)第五一一號同年六月七日決定ノ判例同旨)ト云ヒ

被告人小林武雄辯護人渡邊治澤上告趣意書第一點原判決ニハ判決ヲ適法ニ言渡ササルノ違法アリ蓋シ昭和十二年六月三十日附判決言渡ノ公判調書ニハ不動文字ヲ以テ「檢事立會」ト印刷セラレアルノミニテ現實ニ檢事立會ハ成ラレテハ記載ナケレハ其公判ハ適法ニ構成セラレタルモノト云フコトヲ得又從テ其ノ公判ニ於テ言渡サレタル判決ハ適法ニ言渡サレタルモノト爲スコトヲ得サルモノナリ若シ夫レ右檢事立會ノ不動文字ヲ以テ檢事立會アリタルモノト爲スカキハ牽強附會ノ最モ甚シキモノト云ハサルヘカラスト云ヒ

被告人古家達三辯護人赤井幸夫、坂田豊喜、小林梅茂、須々木平次上告趣意書第一點原審第八回公判廷ニハ不明ナリトスレハ右事由ハ刑事訴訟法第四百十條第一號所定ノ事由ニ該ルモノト云フヘテ原判決ハ破毀セララルノ外ナキモノト云ヒ

被告人古家達三辯護人赤井幸夫、坂田豊喜、小林梅茂、須々木平次上告趣意書第一點原審第八回公判廷ニハ不明ナリトスレハ右事由ハ刑事訴訟法第四百十條第一號所定ノ事由ニ該ルモノト云フヘテ原判決ハ破毀セララルノ外ナキモノト云ヒ

刑事判例

▲法律ニ依ル裁判所ヲ構成セザリシ違法▲選舉違反ニ於ケル金錢供與罪ト量刑ノ不當

(九二)

決ハ破毀スヘキモノト認メ事實ヲ審理シ... 被告一人一寸木久太郎辯護人名川侃市、申...

右ノ理由アルヲ以テ其他ノ諸點ニ付キ... 選舉違反ニ於ケル金錢供與罪ト量刑ノ不當

長崎市五島町五十番地ナル右候補者ノ選... 選舉違反ニ於ケル金錢供與罪ト量刑ノ不當

對スル關係ニテハ全然消費セラレタル... 選舉違反ニ於ケル金錢供與罪ト量刑ノ不當

刑事判例

▲選舉違反ニ於ケル金錢供與罪ト量刑ノ不當

(九三)

連シ得ルモノトモハ原則決メ認定事實ノ... 如キ犯罪アリトシテモ其ノ處罰ハ甚シク...

豫定通り進捗セラレタリト希望シ其ノ費... 用トシテ同人ニ二月七日頃金百圓ヲ交付...

不在ナリシ爲メ鈴木ハ之レニ代ハリテ金百... 圓ヲ交付シタリ右鈴木カ支出セシ...

機會ヲ失ハタルモノニシテハ、後選舉違... 反ニテ勾置セラレ或ハ勾置セラレテ治療...

刑事判例

名譽毀損と公然ノ意

會合ノ趣旨性質ヨリシテ吾人日常ノ實驗法則上將タ常識上何人モ秘密的集會ナリ...

シテ團體ノ利益ヲ維持センカ爲メ或ハ組合總會ノ開催ヲ求メテ議決ニ付シテ或ハ監督官署ニ陳情シテ匡正ヲ求ムル等合法...

事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス 昭和十二年十一月一日 大審院第三刑部...

毀損シタルモノナリト謂フニ在リテ被告人力昭和十一年九月三日頃右場所ニ於テ開催セラレタル近藤嘉士外七名ノ消防...

(九六)

刑事判例

名譽毀損と公然ノ意

ノ保タルヘキコトヲ豫期シ右會合ニ於テ小頭職ノ理由トシテ開示セルトコロカ...

キ決定スルコト左ノ如シ 【主文】 被告人嘉作、喜八郎、勝次及喜智三郎...

喜智三郎ハ何レモ村木カ自ラ經營スル汽船會社ノ問題ニシテ同人等モ村木カ立候補スル以上...

【決定理由】 仍テ記録ヲ精査シ諸般事情ニ照スニ各被告人ニ對スル原告ノ科刑ハ孰レモ甚シク不當ナリト思料ス...

(九七)

金錢供與罪ト犯罪ノ無證明

昭和十一年(九)三四九三號 本籍長崎縣西彼村津村浦郷三百八十八番地...

【主文】 被告人嘉作、喜八郎、勝次及喜智三郎...

【決定理由】 仍テ記録ヲ精査シ諸般事情ニ照スニ各被告人ニ對スル原告ノ科刑ハ孰レモ甚シク不當ナリト思料ス...

【主文】 原判決中各被告人ニ關スル部分ヲ破毀ス...

刑事判例

▲金錢供與罪ト犯罪ノ無證明並情狀

舉人ニ對スル投票勸誘ノ選舉運動ノ依... 右清三郎ニ選返シタル際同人ニ對シ本年... 於テ投票人ナル右右右右門、小坂房... 市、濱中常藏ニ對シ前同村中尾一方ニ... 於テ右房市及是亦選舉人ナル田中寅五郎... 小坂庄造ニ對シ個々面接シ上夫々右清三... 郎カ前記選舉ニ立候補シタル上ハニ投... 票アリ度キ旨依頼シ以テ立候補出前ノ... 選舉運動ヲ爲シ第二、被告人勝次ハ前記... 候補者相被告人清三郎ノ法定選舉運動者... ニアラサリシモノナルカ同候補者ニ當... 選ヲ得シムル目的ヲ以テ前同年九月二十... 三日頃ヨリ同月二十五日頃迄ノ間ニ肩書... 居住ニ於テ選舉人武次善之十、山崎松吉... 高比良増次、高比良若松及高比良拓治ニ... 對シ個々面接シ上夫々右清三郎ニ投票ア... ラシコトヲ依頼シ以テ無資格選舉運動者... 爲シ第三、被告人喜智三郎亦前記候補者... ノ法定選舉運動者ニ非サリシモノナルカ... 前同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ... 前同月十七日頃肩書居住宅ニ於テ工場場... 事務所ニ於テ選舉人犬塚次三、松田將、... 今村猪之吉、時津輝治ニ對シ個々面接シ... 上夫々右清三郎ニ投票アラシコトヲ依頼... シ以テ無資格選舉運動者爲シタルモノニ... シテ(證據略)之ヲ法律ニ照スニ被告人... 喜智三郎ニ對シ候補出前選舉運動ノ點... ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員... 選舉法第九十五條ノ第二項第二十九條ニ供... 與及選舉ノ點ハ各府縣制第四十條衆議院... 議員選舉法第一百二十二條第一項第一號ニ個... ヲ面接シ行爲ハ府縣制第三十九條第四十... 條衆議院議員選舉法第九十八條第二項第... 百二十九條ニ該當シ右供與及選舉ハ連續... 犯ナルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ立... 候補出前ノ選舉運動ト供與及選舉及個々... 面接トハ一行爲數罪名ニ觸ルルモノナル

(九八)

刑事判例

▲金錢供與罪ト犯罪ノ無證明並情狀

酒戸四一、同島濱、同辻辰吉、同酒井萬... 市、同池田龍藏、同田島秀一、同渡邊留... 作、同中角吾五郎、同一瀬二郎、同同馬... 場治三郎、同根岸正男、同高橋禮吉、同... 小園梅造ニ對シ盆籠燈(蠟燭二本附金四... 十七錢相當)一張宛テ同濱本高一、同田... 川吉太郎、同元田長太郎、同田崎增右衛... 門、同村本惠吉、同山口鹿藏、同中島繁... 松、同小川徳次、同濱節太郎、同久保田... 勝次郎、同木下龜市ニ對シ盆籠燈(蠟燭... 二本附金四十二錢相當)一張宛テ夫々供... 與シテ、同月十四日頃長崎市本博多町四... 十七番地自宅ニ於テ西彼村郡大車村選舉... 人タル被告人山下砂藏ニ對シ自己ノ爲メ... 投票並投票券旋方ノ依頼ヲ爲シ其報額ト... シテ金五圓ヲ供與シ以テ選舉運動ヲ爲シ... (二)立候補出後投票ヲ得ル目的ヲ以... テ面接シ付テハ右被告人砂藏ニ對シ三... 日面接ト意思繼續ノ下ニ、同年九月三... 日頃前記自宅ニ於テ同郡野村選舉人タ... ル被告人喜八郎ニ、同月五、六日頃前... 同所ニ於テ同郡蚊地村選舉人タル被告... 勝次ニハ、同月十日頃前同所ニ於テ同郡... 香地村選舉人タル被告人喜智三郎ニ夫々... 個々面接シタル上自己ノ爲メ投票並投票... 券旋方ノ依頼ヲ爲シ其報額トシテ各金五... 圓宛テ供與シタルモノナリトノ公訴事... 實アリ被告人喜八郎ニ對シ被告人ハ右選... 舉ノ選舉人ナリシ處被告人清三郎ニ對ス... ル右公訴事實(二)ノ(イ)ニ記載ノ如... ク同候補者ノ爲投票方並他ノ選舉人ニ投... 票勸誘ノ選舉運動方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ... 承諾シ其ノ際同候補者力供與シタル金五圓... ヲ前記供與ノ趣旨ヲ諱シテ之ヲ供與ヲ受... ケタリトノ公訴事實アリ被告人勝次ニ對... シテハ前掲判例事實ノ外前被告人ハ前同... 選舉ノ選舉人ナリシ處右被告人清三郎ニ... 對スル公訴事實(二)ノ(ロ)ニ記載ノ... 如ク同候補者ノ爲投票方並他ノ選舉人ニ投... 票勸誘ノ選舉運動方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ... 承諾シ其ノ際前同金五圓ヲ供與ヲ受ケ... タリトノ公訴事實被告人喜智三郎ニ對シ... テハ前掲判例事實ノ外前被告人ハ前同選... 舉ノ選舉人ナリシ處右被告人清三郎ニ對... スル公訴事實(二)ノ(ハ)に記載ノ如ク... 前同候補者ノ爲投票方並他ノ選舉人ニ對... シ其ノ際前同金五圓ヲ供與ヲ受ケタリ... トノ公訴事實アリトモ執レモ其ノ證明ナ... キモノトス

(九九)

刑事判例

認定事實ニ法律ヲ適用セザル違法判決理由不備ノ違法

(100)

選舉運動ヲ爲シタル點ハ同法第九十九條第二項第三十一條ニ法定ノ資格ナクシテ選舉運動ヲ爲シタル點ハ同法第九十六條第一項第二十九條ニ各該當スル...

本籍兵庫縣水上郡生野村石生七十七番地 住居大阪府住吉區西田邊町四十番地 休職地方事務官 田村 昌義 (明治二十六年十月十五日)

對スル豫審第二回訊問調書ニ吉木セイニ對スル豫審第四回訊問調書ニ依リ...

關係ヲ生スルノ危險ノ念ヲ有セザリシコトヲ推測スルニ足ルモノアリ...

昭和十二年(九)第一〇四六號 決 定

刑事判例

濫職罪ノ認定ト無證明

(101)

誠意ニ出テタリト見ルノ外ナカルヘシ假令在職中ノ好意ヲ謝スルノ意ニ出テタリト推測シ得ルモ...

六、第五回目ノ榮尊祝ノ贈呈ニシテ賄賂關係ヲ以テ開擬スルノ必要ナシトスレハ...

贈呈セラレタルモノナルコトヲ諒知ノ上昭和七年八月中旬額面二十圓ノ商品券一枚收受シタルモノナリ...

關係ヲ生スルノ危險ノ念ヲ有セザリシコトヲ推測スルニ足ルモノアリ...

昭和十二年(九)第一〇四六號 決 定

刑事判例

▲讀職罪ノ認定ト犯意ノ無證明

本せいハ其ノ所轄内ナル大阪市南區笠屋町ニ居住シ同人ハ我國ニ於ケル寄居興業ヲ略一手ニ經營セル觀アル吉本興業合名會社ノ無限責任社員ニシテ同會社ノ經營セル興業ハ全國各地ニ於テ行ハレツツアルノ狀況ナリ從テ被告人田村昌義ノ勤務セル大阪府島之内警察署管内ニ於テモ花月三友俱樂部南陽三興行場ヲ經營シ居レ...

マシタ上大九ノ額面二十圓ノ商品券一枚ヲ箱入ノ儘差上ケマシタノテアリマス亦同調書第七問答ニ於テ然シ私ハ昭和九年三月頃ヨリ病氣カ悪クナリ御影ノ別荘ニ移リ其ノ後入院ヲ爲シ昭和十年八月十三日初メ大阪ノ宅ニ歸ツタノテアリマス...

ナルニ此ノ事ナキハ被告人吉本せいノ挨拶訪問ニ關聯シテ取ルナル儀禮トシテ本件商品券ノ授受アリタルモノナルコト明々白々ナル處ナリト信ス然モ原審判決ニ於テ理由トシテ說明セラルル處ハ前記各寄席ニ於ケル演藝興行及ヒ前記飲食店營業トノ取締監督ニ付從來妥當適切ナル取扱ヲ爲セルコトニ對シテ謝禮ノ趣旨ニテ中元又ハ歳暮ノ贈物名義ヲ以テ贈呈セラルルモノナルコトヲ諒知ノ上昭和七年...

爲ニ對スル謝禮乃至報酬トシテ公務員ニ對シ授受セラルフ指稱ス然ルニ本件事案ニ於テハ何等公務員ニ對スル報酬乃至謝禮ノ關係存スルコトナク單ニ友誼上ノ手土産トシテ儀禮的ニ授受セラレタルニ止マルコト恰カモ彼ノ冠婚葬祭ニ公務員ヲ招キ物品ノ贈與シ又ハ田圃ノ農夫カ其ノ駐在警察官ニ自作ノ蔬菜ヲ贈ルト何等異ルナキ心意ニ出ツルモノニシテ其ノ間何等職務ニ關スル謝禮ハ本件贈禮ニ關スル處ニアラス純乎トシテ被告人吉本せいハ被告人田村昌義ニ敬意ヲ拂ヒ挨拶ニ赴キタル手土産ノ範圍ヲ一歩モ出テザルモノナリ...

刑事判例

▲讀職罪ノ認定ト犯意ノ無證明

利益ノ授受ナリト爲スコト能ハサル處ナリ彼ノ官公吏ノ永年勤績ニ對シ一般ノ感謝ノ意ヲ表スル紀念品ノ贈呈行爲官公吏ノ新任ニ際シテノ歡迎會ノ設備等何等皆ムヘキ理由ナキハ此ノ理ニ外ナラザルナリ...

ハ悉ク返却シタルナリ翌日島之内警察署ト高等係巡查部長中窪與助ニ相談シタル同人ハアノ人ナラ差支ヘナシ返却シタラ却テ笑ハレルト云ツテ居タノテ其ノ復却モセズ其ノ受ケタノテアリマス...

同署ニ勤務スル中窪巡查部長ニ對シ參考前ノ意見ヲ聽取シタルモノニシテ此ノ間被告人ハ疑心アリシコトナリ後者ハ疑心ナカリシコトナリ重大ナル相違ヲ招來スルモノナリ然リテ被告人ノ供述及本心ハ第一審公判調書記載通りニ外ナラサルナリ...

盾アル論旨ノ記載ヲ漫然證據ニ引用シ斷罪ノ資料ニ供スルコトハ事實ノ誤認ヲ招來スル所以ナリトス(三)吉本せいニ對スル豫審訊問調書本ニ依レハ田村昌義署長長ノ島之内警察署ノ受持區内ニシテ花月三友俱樂部南陽ノ三ヶ所ノ寄席ノ演藝興業カアリ同會社ハ姉妹二人ノ會社ナリ...

刑事判例

▲濫職罪ノ認定ト犯意ノ無證明

中元ノ贈物トシテ持参シテ居リマシタ大丸ノ額面二十四ノ商品券一枚箱入りノ...

ノナルヲ以テ之ニ對シテ無罪ノ言渡シナカリシモノナリ即チ以上第三次ニ互リ...

休職地方事務官 田村昌義

(明治二十六年十月十五日)

右濫職被告事件ニ付昭和十二年四月九日大阪控訴院ノ言渡シタル判決ニ對シ被告...

【理由】 辯護人足立進三郎上告趣意書第一...

五月頃以降同年十二月頃迄ノ間ニ大阪市南區清水町ナル當時ノ被告人居室外一...

休職地方事務官 田村昌義

(明治二十六年十月十五日)

右濫職被告事件ニ付昭和十二年四月九日大阪控訴院ノ言渡シタル判決ニ對シ被告...

【理由】 辯護人足立進三郎上告趣意書第一...

五月頃以降同年十二月頃迄ノ間ニ大阪市南區清水町ナル當時ノ被告人居室外一...

休職地方事務官 田村昌義

(明治二十六年十月十五日)

右濫職被告事件ニ付昭和十二年四月九日大阪控訴院ノ言渡シタル判決ニ對シ被告...

【理由】 辯護人足立進三郎上告趣意書第一...

五月頃以降同年十二月頃迄ノ間ニ大阪市南區清水町ナル當時ノ被告人居室外一...

休職地方事務官 田村昌義

(明治二十六年十月十五日)

右濫職被告事件ニ付昭和十二年四月九日大阪控訴院ノ言渡シタル判決ニ對シ被告...

【理由】 辯護人足立進三郎上告趣意書第一...

五月頃以降同年十二月頃迄ノ間ニ大阪市南區清水町ナル當時ノ被告人居室外一...

刑事判例

▲濫職罪ノ認定ト犯意ノ無證明

刑事判例

▲虛無證據ニ依リ斷罪並理由不備▲強盜及證據湮滅ノ目的ニ出ツル殺人罪ト犯情

(106)

訴訟法第三百六十七條ニ則リ被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ審理判決ヲ爲シタルモノナルコトハ原審公判調書並被告人ニ對スル郵便送達報告書ノ各記載ニ徴シ洵ニ明瞭ニシテ同被告人ノ原審公判ニ供述ナルモノハ全然存セザルコトヲ示シ原審公判前示ノ如ク證據ノ説示ヲ爲シタルハ虛無ハ證據ヲ罪證ニ供シタルモノニ外ナラス而モ右證據ヲ除外スルコトハ原審公判ニ違法反罪ノ構成要件タル事實ヲ認ムルニ由ナキヲ以テ原則決ハ理由不備ノ違法ナルニ歸シ到底證據ヲ免レズ本論旨ハ其ノ理由アリテ右ノ事實ヲ確定ニ影響ヲ及ボスヘキ法令ノ違反ナルコト明カナルノミナラス本院ハ自ラ本案事實ヲ審理ヲ爲スニ適當ナラスト思料スルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ノ二ニ則リ主文ノ如ク判決ス

【主文】 本件ニ付事實ヲ審理ヲ爲ス【理由】 宮城控訴院檢察長岩松玄十上告趣意書ハ本件第二審當院ノ判決ハ刑ノ量定甚シク輕キニ失シ不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノナリ右判決ノ要旨ハ被告人伊藤由太郎ハ被害者相馬コト昭和三年中知合トナリ昭和十年五月頃右コトニ於テ青森縣五所川原町蟬ノ羽二百七番地ニ飲食店ヲ經營スルヤ同年十一月頃ヨリ時折宿泊シテ雜用ノ手傳ヲ爲ス等罷戀ノ關係ニ在リタリ昭和十一年七月二十日同縣中津輕郡舘野村ノ羽黒神社ノ祭典ニ當リコト方ニ於テ同神社境内ニ掛茶屋ヲ出シタルカ其ノ時被告人及同家シテ手傳ニ同日午後一時頃被告人同家ノ女中等ト共ニ立歸リ同夜八時同家ニ宿泊シコト及其ノ子賢一、女中花田千代、小野サトコ相前後シテ就寝シタリ其ノ際被告人ハ豫テ情ヲ通シ居リタル岩瀨ミサヲヨリ同家ニ被告人カ感染セシメタル淋病ノ治療費ヲ求メラレツツアルコト及コトカ同日茶屋掛ニヨリ得タル賣上金ヲ所持シ居ルコトニ想到シ前記ミサヲ要求ヲ充タス爲該金員ヲ窃取セント企テ若シコトニ發見セラルルニ於テハ其ノ罪跡ヲ湮滅スル爲即時同人ヲ殺害スヘキコトヲモ決意シ同夜同月二十一日午前二時頃マキリト稱スル七首葎ノ双物一挺ヲ携ヘテコトノ寢室ヲ窺ヒ同人カ熟睡シ居ルニ乘シ其ノ枕代用ノ二ツ折坐蒲團中ニ在リタルコト所有ノ財布ヲ引キ出サントシタル際同人ニ發見誰何セラレタル爲直チニ右ノ兇器ヲ以テ同人ノ左腕左胸部等ヲ突刺

シ因テ間モナク該創傷ニ基キ出血ノ結果同人ヲ死ニ致シタルモノナリ被告人ノ所爲ハ刑法第二百三十八條第二百四十條後段ニ該當スルヲ以テ所定刑中無期懲役刑ヲ選擇シ尙犯罪ノ情狀酌量スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第二號ヲ適用シ減輕シタル刑期間內ニ於テ被告人ヲ懲役十三年ニ處シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ全部被告人ノ負擔トスト云フニ在リ今此レヲ第一審青森地方裁判所ノ言渡シタル判決ト比較スルニ其ノ認定シタル犯罪事實ハ行文ノ章句ニ多少ノ相異アルモ結局同一ナリ唯二審當院ノ判決ハ右事實ニ付犯罪ノ情狀酌量スヘキモノアリトシ其ノ刑ヲ減輕シテ懲役十三年ニ處シタル關係ヲ觀ルニ本件被告人ハ被害者相馬コト昭和三年以來八ヶ年以上ノ相知ナル處昭和十年以降特ニ昵懇ノ關係ヲ有シ被害者方ニ來テ宿泊シ且時々手傳等ヲ爲シタル關係ニ在リ犯罪當夜モ被告人ハ終日コト掛茶屋ニ手傳ニ歸ツテ同人方ニ宿泊シタルモノナリ仍チ被告人ハ本年月相識シテ深キ信頼ヲ受ケ意ヲ安シテ宿泊セシメラレタル事情ナレバ不測其ノ久シキニ互ル信頼ト好意トヲ裏切りテ被害者ヲ殺害シタル點ハ其ノ情狀シ難キモノナリ第二、被告人殺意決定ノ徑路ヲ按ズルニ被告人ハ金員ヲ窃取ニ着手シタル後ニ罪跡ヲ湮滅スル意思ヲ生シテ本件殺害ノ兇行ヲ爲シタルハ非ス犯罪ノ夜自己ノ寢室ニ在リタル際既ニ金員ヲ窃取セントコトヲ企テ若シコトニ發見セラ

ルルニ於テハ其ノ罪跡ヲ湮滅スル爲即時

三十一日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ同院檢察長岩松玄十並被告人ハ上告ヲ爲シ同年九月二十七日日本院ニ於テ刑事訴訟法第四百四十三條ニ依リ決定ヲ爲シタル同上法第四百四十四條ニ從ヒ審理ヲ遂ケタルコト同上告ノ理由アルコト右決定ニ説示スル如クナルヲ以テ同法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原告決ヲ破滅ス【理由】 被告人ハ無期懲役ニ處ス【主文】 原告決ヲ破滅ス【理由】 被告人ハ無期懲役ニ處ス

●強盜及證據湮滅ノ目的ニ出ツル殺人罪ノ犯情

昭和十二年(九)第一二一四號

本籍並住居青森縣西津輕郡水元村大字妙堂崎米元二十三番地 農 伊藤 由太郎 (明治四十四年六月六日生)

右強盜殺人被告事件ニ付昭和十二年五月三十一日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ宮城控訴院檢察長岩松玄十並被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ當院ハ檢事

九丁以下及記録一一七九丁以下)ノ供述記載ニ依リテ知ラルルカ如ク五所川原町佐々木豊太郎ノ内縁ノ妻ナルカ昭和十年夏中ヨリ被告人ト内交シタル處被告人ヨリ淋疾ヲ感染シタル爲治療金ヲ貰フ考トナリ被告人ニ要求シタルモノナリトス既ニ配偶ヲ得タル婦女ト通スル一ノ罪惡ナリ之ニ性病ヲ感染セシムル一ノ罪惡ナリ而シテ更ニ犯行ヲ敢テシテ他ヨリ之レカ治療ノ資ヲ得ムト企ツルニ至ツテハ漸次積惡ヲ甚タシタルモノト謂フヘク其ノ緣由動機ニ於テモ事情寬恕スル能ハス第五、本件事後ノ被告人ノ行動ヲ檢スルニ被告人ハ犯行後直チニ兇器ヲ始末ニ腐心シ之ヲ岩木川ノ中流ニ投棄シタリ即チ被告人ニ對シ第二回強制處分訊問調書(記録六四五丁以下)ノ供述記載ニ徴スレバ「マキリヲ持テ居リテハ自分カ殺シタルコトカ直チ判ルト思ヒ土間ノ境ノ障子ノ一尺五寸位開キタル所ヨリ左手ノマキリヲ血ノ附着シタル儘ヒヨイト土間ニ置キ(中略)私モ外ニ出テ見タルカ其ノ邊ニハ他人影モ無カリシ故私ハ早速店ノ中ニ入り土間カラ血ノ附イタマキリヲ拾上ケタリ其ノ時マキリハ八疊ノ東隅ノ障子ノ一尺五寸程開キタル底ヨリ踏段ヲ越ヘテ一尺餘レテ土間ノ板敷ニ落チ居タリ私ハ其レヲ拾上ケタルト再ヒ外ニ出テ乾橋ヲ西ニ走ツテ行キ橋ノ中程ノ右脇ニ在ル水量検査小屋ノ五、六間手前ノ欄干ノ傍ニ寄り其ノ小屋ノ方ニ向ケ水面ヲ目寛ケテ投棄テタルニボチヤント音シテマキリハ水ノ深ミニ入ツタ様ナリシカ眞暗カツタノテ何ノ邊ノ水面ニ落チタルヤ判ラス私ハスタ引返シテ店ノ前ニ居リタ

リ其處ハ夜廻リハ私カ乾橋ノ方ヘ行キタルヲ見タノテハナカト思ヒ疑ハレテナラスト思ヒ胡魔化ス爲ニ夜廻リニ向ヒ「誰カソツチノ方ヘ行カナカツタカ」ト尋ネタリ「トアリテ犯行後周密ノ注意ヲ以テ迅速ニ兇器ヲ棄棄シ犯證ヲ隠蔽シ罪跡ヲ模索タラシムルニ専念シタリ此レ本件ノ徑路被告人ノ心情ト相應シ首尾貫徹有心故意ノ發露ニシテ看過シ難キ事案ナリトス(叙上)ノ見地ヨリ本件ヲ觀察スルトキハ第一審カ被告人ヲ無期懲役ニ處シタルハ相當ニシテ第二審カ酌量減輕シテ懲役十三年ニ處シタルハ適當ナラサルニヨリ之ヲ是正シ相當刑ニ處セラルヘキモノト思料スル次第ナリト云フニ在リテ

刑罰ノ判決

昭和十二年(九)第一四一六號

本籍島根縣津和野郡今市町千六百四十四番地 住居東京市牛込區赤坂下町五十二番地 東京毎日新聞社社員 高橋 圓三郎 (明治二十七年九月二十六日生)

右衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付昭和十二年六月二十九日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ヲ審理ヲ爲ス【理由】 被告人高橋圓三郎辯護人島田俊雄上告趣意書第二點原告決ハ第一事實ト

持シテコトノ寢室ヲ窺ヒ同人カ熟睡セル

刑事判例

▲強盜及證據湮滅ノ目的ニ出ツル殺人罪ト犯情▲刑事訴訟法第三百四十五條違背ノ判決

(107)

三十一日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ同院檢察長岩松玄十並被告人ハ上告ヲ爲シ同年九月二十七日日本院ニ於テ刑事訴訟法第四百四十三條ニ依リ決定ヲ爲シタル同上法第四百四十四條ニ從ヒ審理ヲ遂ケタルコト同上告ノ理由アルコト右決定ニ説示スル如クナルヲ以テ同法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原告決ヲ破滅ス【理由】 被告人ハ無期懲役ニ處ス【主文】 原告決ヲ破滅ス【理由】 被告人ハ無期懲役ニ處ス

【主文】 本件ニ付事實ヲ審理ヲ爲ス【理由】 被告人高橋圓三郎辯護人島田俊雄上告趣意書第二點原告決ハ第一事實ト

持シテコトノ寢室ヲ窺ヒ同人カ熟睡セル

シテ、被告人高橋圓三郎ハ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ……
同種人赤井幸夫上告趣意書第一點刑事訴訟法第三百四十五條ハ、裁判長ハ被告ノ對シテ……
同種人赤井幸夫上告趣意書第一點刑事訴訟法第三百四十五條ハ、裁判長ハ被告ノ對シテ……
同種人赤井幸夫上告趣意書第一點刑事訴訟法第三百四十五條ハ、裁判長ハ被告ノ對シテ……

判決

昭和十二年(九)第一四一六號
本籍島根縣松江市町千六百四十番地
一審地
住居東京市牛込區赤坂下町五十二番地
東京毎日新聞社主筆 高橋圓三郎
(明治二十七年九月二十六日生)

右衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付昭和十二年六月二十九日廣島控訴院ノ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ適法ナル上告申立アリ本院ハ昭和十二年十一月六日事實審理開始ノ決定ヲ爲シタリ仍テ審理ヲ遂ケテ判決スルコトトシ如シ
【主文】 原判決ヲ破毀ス
被告人ヲ罰金二千圓ニ處ス
右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ二百日間勞務處置ニ留置ス
被告人ニ對シ衆議院議員選舉法第三百三十七條第一項ノ規定ヲ適用セズ
【理由】 辯護人島田俊雄上告趣意書第二點及辯護人赤井幸夫上告趣意書第一點ノ執レモ理由アルコトハ事實審理開始決定ニ於テ説明シタル所ナルヲ以テ更ニ本案事實ニ付審理ヲ遂ケタル被告人ハ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉法ニ際シ同年一月二十八日島根縣第一區ヨリ立候補シタルモノナル自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ第一、自己ノ選舉運動者ナル高橋吉之助ニ對シ他ノ選舉運動者ニ供與スヘキ選舉資金及選舉事務長鎌田堅市ニ手交スヘキ選舉運動費用ヲ包括シテ(一)同年一月二十八日島根縣松江市末次本町赤木旅館ニ於テ金一千四百圓(同年二月五日頃島根縣松江町市町ノ自己ノ選舉事務所ニ於テ金二千六百圓)同月十三日頃前記赤木旅館ニ於テ金五百圓各交付シ暗ニ該金員中ヨリ適宜他ノ選舉運動者ニ報酬金ヲ供與スヘキコトヲ一任シ以テ吉之助ト通謀ノ上同人ノ手ヲ經テ第三(一)ノ(1)乃至(8)ノ各事實ニ付訊問審理セラルヘカヲモナリトシ然レニ原告公判詞書ヲ閱スルニ被告高橋圓三郎ニ對シ第三(一)ノ(2)事實ニ付訊問シタルニ止マリ其他ノ事實ニ付訊問シタルニ止マリ至(8)ノ事實ニ付訊問審理ヲ爲シタル事述ラシ然ラハ原院ニ於テハ此ノ部分ニ付事實ノ審理ヲ爲サスシテ判決シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト思料ス(昭和六年(九)第一〇一號)被告人赤谷貞藏ニ對スル同年十二月二十二日第一刑事部決定參照(被告以外ハ上告棄却)ト謂ヒ

刑事判例

判決

昭和十二年(九)第一二五八號
本籍並住居茨城縣西茨城郡東那珂村大字木植三百七十六番地
農 古谷田 勝 巨
(明治十七年二月十七日生) 外一名

右窃盜被告事件ニ付昭和十二年六月二十二日水戸地方裁判所ニ於テ言渡シタル第一審判決ニ對シ各被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ當院ハ檢事武松久吉ノ意見ヲ聽キ決定スルコトトシ如シ
【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス
【理由】 各被告人辯護人師岡康治上告趣意書第一點故意犯罪ノ主觀的要素トシテ犯人カ其ノ行爲ニ付罪ヲ犯スノ意アルヲ要スルハ今更論議スルヲ須ヒサル所ナリ而シテ

刑事判例

▲窃盗罪ノ認定ト重大事實ノ誤認

足ラサルヤ明カナリ(ハ)原告ハ其理由ノ末尾ニ於テ「而カモ居村民ノ間ニ於テ右立木カ方ノ木ト稱セラレ鈴木吉松ノ所有ニ屬スルモノナルコト村民一般ニ認識セラレ居リ被告等モ亦之ヲ認識シ居リ...

六枚第一審ノ公判ニ於ケル同人ノ陳述モ亦右ト同趣旨ナリ被告人佐谷小太郎ハ同第二審公判ニ於テ「本年一月頃ト思ヒマ...

右立木カ方東那河村有ナルコトニ付十分ノ認識アリ又此ノ認識ハ地圖ヲ基本トシ更ニ其ノ眞相ヲ確メシカガ爲メニ實地ヲ檢分シテ以テ其ノ信念ヲ強ムルニ至リタルモ...

ハ、右立木ハ同村後備附圖面上村道内ニ存在スルカ如キ外觀ヲ呈シタルコトニ此ノ圖面上ノ記載ヲ以テ右立木カ方...

(110)

刑事判例

▲窃盗罪ノ認定ト重大事實ノ誤認

窃盗ナリトハ被告人等ハ共ニ地方知名ノ有力者ニシテ何レモ名門ノ出ナリ一朝ニシテ盜罪ノ名ノ下ニ家門ノ榮譽ヲ墮ラン...

照)宅地ト道路トカ接續セントシテ連カニ該宅地ノ高サヲ増スカカキハ普通在リ得サルトコロニ屬ス前記高低ノ一事却テ...

ラサレナリ然レハ被告人等ハ部落局二十餘名ニ對シ「村道上ノ立木ナリ」ト傳へ鈴木吉松カ方家人ノ問ニ答ヘテ堂々同趣旨...

レサレモノト思料スト云ヒ各被告人辯護人増田弘上告趣意書第一點原判決理由ニ依レハ「偶々昭和十一年三...

(111)

刑事判例

▲自然ノ流水ト水利權ノ主體顯知事ノ工事認可ト水利權

理開始決定ニ説示スル如クナルヲ以テ刑
事訴訟法第四百十七條第四十八條
ニ則リ更ニ被告事件ヲ審理スルニ本件公
訴事實ハ被告橋本勝好ハ宇和島市榎原
部落ノ區長被告若山定市ハ同部落副區
長ナル處同市方面ニ於テ昭和十一年十
一月以來六十餘日間給付降雨ナク同市
民ノ飲料其ノ他ノ用水ニ供給スル同市設
計水道ノ水不足ヲ來シ同年十二月十一日
ノ斷水ヲ行ヒ且一般ニ節水ヲ布告スルノ
止ムナキニ至リタルヲ以テ同市ニ於テハ
之カ應急對策トシテ同月下旬同市榎原部
落ヲ貫流スル須賀川本流ニ番瀬橋ニ點
返リ一ト稱スル瀧壺ニ臨時水道取入口ト
シテコンクリート堰ヲ設ケ之ニ口徑十時
ノ水道鐵管ヲ敷設シ更ニトタン樋及木樋
ヲ連絡シテ設ケ約七百二十間距離同部
落須賀川支流附近ニ在ル市設淨水貯水池
池迄引水工事ヲ行ヒ同年十二月末頃ヨリ
該引水ヲ爲シ居リタルモノナルカ先是
該工事ヲ實施スルニ付被告橋本勝好ハ
地元ナル榎原部落民ヲ代表シテ市ノ代表
タル吏員松浦健一トノ間ニ水利ニ關スル
協定ヲ爲シ榎原部落側ハ市カ該水利工事
ヲ行フコトヲ承諾シテ其ノ引水期間ヲ昭
和十二年三月末日迄トシ市ニ於テハ該工
事ニヨリ山林田畑等ニ損害ヲ加ヘタルト
キハ工事完成後速ニ相當ナル損害補償金
ヲ支拂スヘク井水等ニ不便ヲ來ストキハ
水道檢ノ増水等ニ依リ相當ナル設備對策
ヲ講スルコト本件水利工事ニ關スル市ト
榎原區間ノ契約書ハ該工事完成後直ニ取
交スヘキコト等ヲ口頭契約ヲ爲シタルモ
ノナリ然レニ同市ニ於テハ該工事完成後
契約書ノ作成其ノ他口約ノ實行ヲ爲スニ

年月日ノ記載ヲ闕如スル

公判調書

公判調書ニ其ノ年月日ハ表示ヲ全然闕如
スルトキハ公判手續カ適法ニ行ハレタル
コトヲ公判調書ニヨリテ證明スルヲ得サ
ルヲ以テ如斯ハ重ナル訴訟手續ハ違背タ
ルヲ免レシ
●探證法違背ノ判決
昭和十二年(九)第一九六二號
判 決
本籍大分縣西國郡中真玉村千七百
三十八番地
住居下關市壘ノ浦町八十六番地ノ七
鮮魚問屋 吉 永利 藏
(明治二十年九月五日生)

年月日ノ記載ヲ闕如スル

公判調書

開廷云々(記録四六〇丁)ト記載シ
アリテ右公判ハ何年何月何日開廷セラレ
タルモノナリヤ公判ヲ爲シタル年月日ノ
記載ナク同公判調書ハ無効ニシテ同公判
ハ適法ニ行ハレタルモノト認ムルニ由
キモノトス原判決ハ斯ル公判ニ於テ下サ
レタルモノナルヲ以テ破毀ヲ免レサルモ
ノト思科ス
第二點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被
告人ハ昭和十二年四月十八日施行ノ下關
市々會議員選舉ニ際シ立候補シタルカ自
己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ吉永アキト共
謀ノ上犯意ヲ繼續シテ屑居宅等ニ於テ
選舉人木島金作ニ對シ自己ノ投票並選
舉運動ヲ依頼シタル上其ノ報酬並他ノ選
舉運動費收資金トシテ同年三月十四、五日
ヨリ同年四月十七日迄ノ間三四頁リ合
計金四十四圓ヲ供與交付シタルモノナ
リト認定シ其ノ證據トシテ「吉永アキ
一丁以下」中判示同旨ノ供述記載(記録一六
一以下)然レニ同公判調書ヲ閱スルニ
(一)原判決認定ノ如ク木島金作ハ判示
選舉ノ選舉人ニシテ同人ニ對シ被告ハ
投票ヲ依頼シタルトノ供述記載存セザ
ルノミナラス(二)同調書ニハ「問、木
島ハ其ノ許カラ賈ツタ金ヲ選舉人ニ其ノ
許ノ主人利權ニ投票ヲ頼ンテ其ノ御禮ト
シテ渡シタカ知ウカ知ツテ居ルカ答、其
ノ事ハヨク知リマセンケレトモ木島モ選
舉ノ事ニ關シテ主人利權ヤ私ヲ騙シテ金
ヲ取ツタモノト思ヒマセカヲ多分同人
ハ主人ノ爲ニ有權者ニ投票ヲ頼ミ其ノ御
禮トシテ與ヘル金ニ費ツタモノト思ヒ
マス尙此ノ金ハ木島ニ對スル選舉運動ノ
ケ通水ヲ約十分ノ一強ニ減少セシメタル
事實ハ被告等ノ當公廷ニ於ケル夫々其
ノ旨ノ供述ニ依リテ之ヲ認ムルニ足ル
コト右取入口ハ單ニ須賀川ノ水ヲ流入セ
シメテ市設淨水貯水池ニ導キ同所ニ
於テ之ヲ淨化スルモノナルコトハ第一
審檢證調書ニ鑑ミ明ナルヲ以テ右引水路
ハ公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ナリト
謂フヘカラスシテ被告等ノ行爲ヲ刑法
第四百十七條ニ開擬セントスルハ當ラス
然レトモ若シ宇和島市ニ本件引水ニ付水
利權アリトセンカ被告等ノ行爲ヲ刑法
第四百二十三條ニ所謂水利ノ妨害ト爲ル
キ行爲ヲ爲シタルモノニ該當スヘク右ハ
本件公訴事實トシテ同一性ヲ失ハサル
モノト認ムヘキカ故ニ果シテ宇和島市ニ
水利權アリヤ案スルニ本件須賀川ハ河
川法ノ適用ナキ河川ニシテ其ノ水流ニ付
テハ其ノ沿岸ノ土地所有者及住民カ田地
ニ灌溉シ水車ニ利用シ飲料水ニ利用スル
等ノ慣行アルコトハ證人赤松桂ニ對スル
豫審訊問調書ノ供述記載ニ徴シ之ヲ推認
スルニ難カラスト雖自然ノ水路ヲ流下ス
ル天然ノ水ノ使用ニ關スル水利權ハ格段
事情ナキ限リ直接ニ水ノ需要ヲ感スル各
個人ニ屬シ團體タル部落ニ屬セサルモノ
ト解スヘキカ故ニ前記水利權カ榎原部落
ニ屬セリト認ムヘキ特段ナル事情ナキ本
件ニ於テハ右水利權ハ之ヲ利用スル個人
ニ屬スルモノト認メサルヲ得ス果シテ然
ラハ區長タル被告橋本勝好カ宇和島市
トノ間ニ右水利權ニ付口頭契約ヲ爲シタ
リトスルモ其ノ契約ハ無効ニシテ之ニ因

刑事判例

▲年月日ノ記載ヲ闕如スル公判調書ニ探證法違背ノ判決

日附トシテ昭和十二年十二月二十一日ト
記載シタルモノ之レアルノ故ヲ以テ公判ヲ
爲シタル年月日ノ記載アルモノト認ムル
ヲ得ス蓋シ刑事訴訟法第六十二條ノ規定
ニ依リ明カナル如ク公判調書ハ必スシモ
公判開廷ノ日ノ作成スルヲ要セス五日
内ニ之ヲ整理スルハ是ルモノハナルヲ以テ
ナリ又原審第一回公判調書ノ末尾ニハ辯
論ヲ終結シ昭和十二年九月二十一日午前
十時判決ノ宣告ヲ爲スコトヲ告ケタル旨
ノ記載アリテ其ノ年月日ハ原審第二回公
判調書ノ日附ト一致スレトモ之カ爲同公
判調書ハ公判ヲ爲シタル年月日ヲ昭和
十二年九月二十一日ト記載シタルト同視
スルヲ得ス然ラハ原判決ハ公判ノ重要ナ
ル訴訟手續ニ於テ法令ニ違反スルモノト
云フヘク上告論旨ハ理由アリ
第二點原判決ハ其ノ判示事實ノ證據トシ
テ吉永アキニ對スル強制處分訊問調書中
ノ供述記載アリト證明スレトモ同調書ヲ
仔細ニ査閲シ其ノ記載ヲ原判決ノ判示事
實ニ對照スルニ原判示同旨ノ供述記載ア
リトハ認メ難シ即チ木島金作カ判示選舉
ノ選舉人ニシテ同人ニ對シ被告ハ投票
票ヲ依頼スル旨ノ供述記載存セザルノ
ミナラス判示金員カ木島金作ニ對スル選
舉運動報酬ノ爲ニ供與シタル旨ノ供述記
載モ亦存在セス若シ夫レ原判決ハ吉永ア
キニ對スル強制處分訊問調書中ノ他ノ部

分ヲ除外シ唯第二問答部分ト同人ニ對スル強制處分請求書ノ記載ト相俟ツテ同人ノ供述カ判示同旨ニ出テタルモノト解シ之ヲ罪證ニ供シタルモノナリトセンカスル場合ニハ證據調ニ際シ右訊問調書ノ外ニ前示請求書ヲモ讀メテハ其ノ要旨ヲ告ケルコトヲ要スルニ拘ラス原審第一回公判調書ヲ見ルニ斯ル事跡存セス結局原判決カ右訊問調書ニ判示同旨ハ供述記載アリトシテ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ニシテ該不法ハ原判決ニ影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ上告論旨ハ理由アリ原判決ハ此ノ點ニ於テモ破毀ヲ免レス

而シテ右ハ本院自ラ本件事實ノ審理ヲ爲スヲ適當ナラスト思料スルヲ以テ他ノ上告論旨ニ對スル説明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ノ二ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事村上常太郎關與

昭和十二年十二月二十四日

大審院第三刑事部、裁判長列事三宅正太郎

列事 草野豹一郎 列事 岸 達也

列事 北本富三郎 列事 稻田 馨

大審院裁判例索引(十二)(言附順)

●民事ノ部

標	題	事件	名	事件番號	年月日	頁數	要旨	昭和十一年	昭和十二年
主張ニ對スル判斷遺脱	貸金請求事件	昭和一十一年	昭和一十二年	(オ)一三〇五	一・一三	一	貸借人タル地位ヲ承繼セル限定相続人ト相續開始後ノ請求事件	(オ)一九七一	昭和一十二年
證據ノ排斥ト理由不備	讓受債權金	(オ)一五二三	同	同	一・一五	一	抗辯ニ對スル判斷遺脱ト審理不盡	(オ)一九五八	同
寄託ノ認定ト審理不盡又ハ理由不備	不動産所有權確認及名義變更	(オ)一七六三	同	同	一・一五	一	實ニト異ル建物ノ登記簿上ノ效力ト其ノ認定	(オ)五二三	同
實験則違背ノ事實認定又ハ審理不盡	第三債務者ノ義務履行	(オ)一四六五	同	同	一・一六	一	特殊事情ニ因ル契約ト其ノ解釋	(オ)一八二八	同
強制執行期日ニ於ケル唯一人ノ競賣申出ト其ノ效果	土地所有權移轉登記	(オ)九〇九	同	同	一・二〇	一	虛偽證據ニ依ル重要事實認定	(オ)一〇六六	同
當事者訴訟委任費用ト訴訟費用	建向取除土地明渡並賃料及損害金	(オ)一七九	同	同	一・二三	一	請求異議ノ訴ノ管轄ト職權	(オ)一〇八六	同
實験則違背ノ事實認定	寄託金返還	(オ)一三〇九	同	同	一・二三	一	證據ニ依ラサル事實認定	(オ)一七四〇	同
主張ニ對スル判斷遺脱又ハ擬律錯誤	消費貸借契約無効確認	(オ)二四〇九	同	同	一・二三	一	實用新案ノ認定ト審理不盡	(オ)一八五五	同
民事訴訟法第五百四十九條ノ法意	不動産強制競賣	(オ)一九七	同	同	一・二六	一	主張ニ對スル判斷遺脱及競賣ノ不記載	(オ)一四九九	同
當事者ノ主張セサル事項ニ對スル判決	損害賠償	(オ)一七七三	同	同	一・二九	一	審理不盡理由不備又ハ舉證責任ヲ課レル違法	(オ)二六六	同
口頭辯論開始後覺知セル控訴狀ノ相當印紙不貼用ト其處置	控訴狀却下命令ニ對スル抗告	(オ)一五三	同	同	一・三〇	一	參加申立ノ却下ト法令違背	(オ)一八七〇	同
競落許可決定ニ對スル抗告ト代理人	不動産競賣	(オ)二八	同	同	一・三〇	一	民法第七百二條ニ所謂法律上ノ原因ノ意義ト審理不盡	(オ)一四三八	同
證據判斷遺脱ト審理不盡	所有權確認請求本訴並反訴	(オ)一八二	同	同	一・一	一	株金拂込無効ノ認定ト審理不盡	(オ)二〇八	同
證據ニ基カサル事實認定	收用補償金	(オ)二二二	同	同	一・二	一	株金拂込無効ノ認定ト審理不盡	(オ)二〇八	同
株式名義書換ト會社ノ義務	株金拂込	(オ)二〇九六	同	同	一・二	一	法則ノ誤解ト審理不盡	(オ)一三九四	同
虛偽ノ意思表示ト善意ノ第三者	假差押執行異議	(オ)二〇九一	同	同	一・九	一	銀行ノ借入申込證ニ保證人トシテ爲シタル署名捺印ノ效力	(オ)一六三九	同
							連帶保證債務無効確認	(オ)一六五〇	同

(二)

遲延損害金請求ノ排斥ト審 理不盡若ハ理由不備 特許無効ト審理不盡證據 由不備	貸金並ニ約定手形金請求事 件	昭和十一年 (オ)二一九六	昭和十二年 三・二	四八	股交アル株式申込證ニヨル 引受ト其ノ效力	株金拂込請求事件	昭和十一年 (オ)二二二七	昭和十二年 三・二	七七
無權代理ノ認定ト擬律錯誤 現物賣買ノ不履行ト損害額 ノ算定	特許無効 利得償還金	同 (オ)一八六〇	同 三・三	五〇	商標ニ冠シタル「富士」ノ名 稱ト特別顯著性	商標登録願拒絶査定不服	同 (オ)三三〇五	同 三・二	七八
審理不盡理由不備並釋明權 不行使	損害賠償 家賃金	同 (オ)一三六六	同 三・五	五二	訴訟提起前ノ裁判外ノ和解ト 辯護士報酬契約	報酬金	同 (オ)三三〇五	同 三・二	八九
實地則違背ノ證據判斷 抵當不動産ノ第三取得者ノ 提供スヘキ特ニ指定シタル 金額	慰籍料並損害賠償 損害賠償	同 (オ)一〇五八	同 三・五	五四	改築セル舊建物ト獨立セル 新築家屋ヲ取引上ノ物トナ セル變更登記ノ效力	建物登記更正手續	同 (オ)三三〇五	同 三・二	八九
債權者カ破産申立人一人ナ ル場合ト破産原因タル支拂 不能 債務者ノ母ノ支拂能力ノ有 無ト破産原因タル支拂不能 過少ナル債務者ノ財産ト破 産宣告	抵當權登記抹消登記手續 棄却決定	同 (オ)一八〇	同 三・六	五七	當事者ノ主張ナキ事實ノ認 定及審理不盡	轉付債權	同 (オ)三三〇五	同 三・二	九三
株式會社ノ發起人ノ責任ト 理由不備又ハ審理不盡 特別事情アル假處分取消ノ 申立ト裁判	破産宣告決定取消破産申立 棄却決定	同 (オ)一八九五	同 三・八	五九	隱居者ノ提起スル隱居無効 ノ訴ト相手方	隱居無効確認	同 (オ)一六五九	同 三・三	九四
複利契約ノ認定ト理由不備 文字ト圖形トヨリ成ル商標 ト其區別	損害賠償 桐立木假處分取消申立	同 (オ)一七四八	同 三・二	六一	宛名ナキ金圓借用證書ト理 由不備又ハ審理不盡	誤拂金返還	同 (オ)一六五九	同 三・三	九四
株式名義書換後ノ株金拂込 義務	貸金	同 (オ)一七二九	同 三・三	六四	差押中ノ物件ノ賣買ト引渡 賠償額ノ認定ト抗辯ニ對ス ル判斷	損害賠償	同 (オ)一六五九	同 三・三	九四
實用新案登録願拒絶ト審理 不盡理由不備	株式賣買不足金	同 (オ)一七〇五	同 三・三	六六	病氣ニ因ル金錢債務調停委 員會期日不出頭ト正當事由 ノ誤認	損害賠償	同 (オ)一六五九	同 三・三	九四
民法第三百七十四條ノ制限 範圍外ノ遅延利息	實用新案登録願拒絶査定不 服	同 (オ)一三三九	同 三・七	七一	請求趣旨ニ副ハサル判決	損害賠償	同 (オ)一四七九	同 四・一	〇一
耕地整理組合長ノ多額ノ立 替金ト實地則違背	不當利得金返還	同 (オ)一三〇九	同 三・七	七二	錯誤ノ認定ト審理不盡	不當利得金	同 (オ)一五七四	同 四・一	〇三
審理ノ排斥ト理由不備	不當利得金返還	同 (オ)一三〇九	同 三・七	七四	連帶保證ノ認定ト審理不盡 理由不備	損害賠償	同 (オ)一三三九	同 三・二	〇四
公法人ノ不法行為ト其ノ裁 判管轄	貸金債務履行	同 (オ)一〇一五	同 三・二	七五	賠償義務ノ否認ト釋明權不 行使	損害賠償	同 (オ)一三三九	同 三・二	〇五
民法第四百十八條ニ違背セ ル損害賠償額ノ認定	損害賠償	同 (オ)一九一四	同 三・二	七六	探證法ノ違背並審理不盡 釋明權不行使ト審理不盡	商品代金	同 (オ)一五五九	同 四・二	〇八

(三)

解散後ノ産業組合監事ト代 表權	貸金請求事件	昭和十一年 (オ)一三三四	昭和十二年 四・四	一〇九	偽造委任狀ニ基ク公正證書 ト債務名義	請求ニ關スル異議事件	昭和十一年 (オ)二七二四	昭和十二年 五・二	一三八
新案ノ類似認定ト審理不盡 理由不備	實用新案登録無効	同 (オ)二六三三	同 四・四	一一	考察ノ新規性ト審理不盡	意匠登録願拒絶査定不服	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一三九
商人ノ保證ヲ爲シタル非商 人ノ求償債權ト時効	求償金	同 (オ)二四七七	同 四・六	一一〇	確證訴訟ノ目的	債權不存在確認	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一三九
留置權ト法律ノ誤解	家屋明渡	同 (オ)一五五九	同 四・八	一一二	既判力ニ關スル法則ノ誤解 理由不備	轉付命令金	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一三九
代物擔保ノ抗辯排斥ト審理 不盡	貸金	同 (オ)二二五九	同 四・八	一一二	實地則違背ノ證據判斷又ハ 理由不備	土地賃料	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四一
訴取下ノ效力阻止ノ爲メ口 頭辯論期日指定申請ト裁判 中斷セル訴訟手續ニ對スル 裁判	期日指定申立却下決定	同 (オ)二二〇二	同 四・八	一一三	自由ノ取消許容ト審理不盡 又ハ理由不備	詐害行為取消	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四二
消費貸借成立ノ認定ト審理 不盡理由不備	貸金	同 (オ)一九〇一	同 四・三〇	一一六	消滅時効ト舉證責任	不動産賣買	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四二
商事債務不履行ニ因ル損害 賠償	貸金	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	火災保險契約不存在ノ認定 ト審理不盡又ハ理由不備	保險金	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四三
虛無證據ニ依ル事實認定	貸金	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	法律ノ誤解	地代償下等	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
法律ノ不當解釋又ハ理由不 備	貸金	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	貸借契約無効ノ認定ト審 理不盡理由不備	地代償下等	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
探證法違背ノ事實認定	契約金	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	公正證書ニ依ル數金契約ノ 否定ト審理不盡理由不備	地料増額確認	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
實地則違背ノ審理不盡若ハ 理由不備	抵當權設定登記抹消手續	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	親族會議決議ノ無効ト取消 法則誤解證據法違背及實驗 不備	數金一部不存在確認	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
訴訟提起後第三者ノ作成セル 文書ノ證據力	債權不存在確認	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	則違背ノ事實認定若ハ理由 不備	親族會議決議無効	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
請求原因ノ變更ト審理不盡	不當利得金返還	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	民法第四百十條ニ所謂代理權 由アリト信スヘキ正當理 由	請求異議及保證債務不存在 確認	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
擔保取消決定ト法律ノ誤解	不動産假差押	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	消滅時効ト抗辯排斥ト審理 不盡理由不備	記手續等	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
發明ノ新規性排斥ト審理不 盡又ハ理由不備	特許無効	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	實驗則違背ノ商標類似ノ認 定	賣掛代金	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
擬律錯誤及審理不盡ノ違法	貸金	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	重要證據ヲ認メサル審理不 盡	商標登録願拒絶査定不服	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
民法第八百八十條ニ違背ス ル額母子講加入權讓渡行為	債權並抵當權無効確認並讓 渡取下	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	同時履行ヲ爲スヘキ双務契 約ノ解除原因タル履行遅滯 ノ要件	轉付金	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
和解條項ノ解釋ト審理不盡	排水溝地役權設定登記手續 不動產所有權移轉登記手續 履行	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	精神異常ノ妻ノ廢養ノ爲メ 一時的家出ト離婚原因 當事者ノ主張セサル事實認 定及虛無證據ニ依ル事實確 定	離婚並損害賠償	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
所中間登記省略ノ合意ト 移轉登記ノ口頭辯論期日 指定申立	期日指定申立	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七	特別事情ヲ審理セサル抗辯 排斥及理由不備	國庫債返還等	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四
虛無ノ證據ニ據ル重要事實 ノ認定	貸金	同 (オ)二二八八	同 四・三〇	一一七		損害賠償	同 (オ)二八四〇	同 五・二	一四四

(四)

Table with 4 columns: Case Description, Year, Amount, and Outcome. Includes entries like '停止者ノ側面通過ト自動車' and '損害賠償請求事件'.

Table with 4 columns: Case Description, Year, Amount, and Outcome. Includes entries like '損害賠償請求事件' and '債權讓渡代金'.

Table with 4 columns: Case Description, Year, Amount, and Outcome. Includes entries like '債權讓渡代金' and '損害賠償請求事件'.

(五)

Table with 4 columns: Case Description, Year, Amount, and Outcome. Includes entries like '發明ノ顯著性ト審理不盡' and '損害賠償請求事件'.

Table with 4 columns: Case Description, Year, Amount, and Outcome. Includes entries like '損害賠償請求事件' and '債權讓渡代金'.

Table with 4 columns: Case Description, Year, Amount, and Outcome. Includes entries like '債權讓渡代金' and '損害賠償請求事件'.

無資格運動者共謀セル候 補者ノ選舉違反ト共ノ擬律 判決理由不備並重大ナル事 實ノ誤認	衆議院議員選舉法違反被告 事件	昭和十二年 九月二十八	七三	自然ノ流水ト水利權ノ主體 縣知事工事認可ト水利權 年月日ノ記載ヲ關如スル公 探證法違背ノ判決	水利妨害被告事件 市會議員選舉罰則違反	昭和十二年 昭和十二年 昭和十二年 昭和十二年	昭和十二年 昭和十二年 昭和十二年 昭和十二年
無資格運動者ト共謀セル選 舉違反	衆議院議員選舉法違反	(九)一〇五七	四二			(九)一〇六二	昭和十二年
無資格運動者ト共謀セル選 舉違反	市會議員選舉罰則違反	(九)九四九	〇・八			(九)一九六二	昭和十二年
無資格運動者ト共謀セル選 舉違反ト科アル者ノ選舉 違反ト刑罰不當	縣會議員選舉罰則違反	(九)七二〇	〇・二六				
無資格運動者ト共謀セル選 舉違反	收賄	(九)一四三五	〇・二〇				
前理由由顯露ノ違法	公私文書偽造行使詐欺	(九)一三五六	〇・二一				
前理由由顯露ノ違法	詐欺業務上横領	(九)二二八七	〇・一				
前理由由顯露ノ違法	毀棄竊取火藥類取締法施行 規則違反	(九)七九七	一・六				
前理由由顯露ノ違法	收賄、贈賄、公選投票賄賂	(九)九二七	一・一				
前理由由顯露ノ違法	收賄、贈賄	(九)一五七二	一・八				
前理由由顯露ノ違法	衆議院議員選舉法違反	(九)三一六一	一・〇				
前理由由顯露ノ違法	衆議院議員選舉法違反	(九)一五三三	一・二九				
前理由由顯露ノ違法	衆議院議員選舉法違反	(九)一七五九	一・二五				
前理由由顯露ノ違法	衆議院議員選舉法違反	(九)一〇四六	一・二七				
前理由由顯露ノ違法	強盜殺人	(九)一八九九	一・〇				
前理由由顯露ノ違法	縣會議員選舉罰則違反	(九)二二二四	二・三				
前理由由顯露ノ違法	縣會議員選舉罰則違反	(九)一四一六	一・二五				
前理由由顯露ノ違法	縣會議員選舉罰則違反	(九)三九九三	二・二三				
前理由由顯露ノ違法	縣會議員選舉罰則違反	(九)二二五八	二・二四				

既刊

大審院裁判例

菊倍版

上告論旨の教科書

第一卷	昭和二年六月發行	定價金壹圓參拾錢	(總二百頁)	一〇錢	一〇錢	四二錢
第二卷	昭和三年十月發行	定價金壹圓五拾錢	(二百六十頁)	一四錢	一五錢	四九錢
第三卷	昭和五年六月發行	定價金壹圓五拾錢	(二百餘頁)	一〇錢	一二錢	四二錢
第四卷	昭和六年十二月發行	定價金壹圓五拾錢	(百八十頁)	一〇錢	九錢	四二錢
第五卷	昭和七年十二月發行	定價金壹圓五拾錢	(三百五十頁)	一四錢	一八錢	四九錢
第六卷	昭和八年八月發行	定價金壹圓八拾錢	(四百五十頁)	一四錢	二二錢	四九錢
第七卷	昭和九年十一月發行	定價金壹圓五拾錢	(四百頁)	一四錢	一八錢	四九錢
第八卷	昭和十年十一月發行	定價金壹圓五拾錢	(四百頁)	一四錢	二二錢	四九錢
第九卷	昭和十一年十一月發行	定價金壹圓八拾錢	(五百頁)	一四錢	二四錢	四九錢
第十卷	昭和十二年十一月發行	定價金壹圓八拾錢	(四百二十頁)	一四錢	二四錢	四九錢

昭和十三年十二月五日印
昭和十三年十二月十五日發行



大審院裁判例(十二)附録
定價金貳圓

編輯者 岡崎源一
發行所 東京市王子區上十條町十九番地五
印刷者 鈴木榮太郎
印刷所 協文社

大賣捌所 東京市日本橋區本町四丁目五番地五
法律新聞社
振替口座東京五二五五番
電話日本橋(一)九三二七

東大政書房
東法政書房
東海書房
東京堂
東松堂
有慶堂
北隆館
同同同同同
同同同同同
同同同同同

昭和三十三年版

最新刊

第二十八卷

本卷は

法律新聞社編纂

▲最も新しい判例!! 判例を検索するには、第一番に本書を手にとること。絶対に時世に遅れる心配なし。折角新しい有利な判例が出たのに、これを知らずして古い判例を引用するのは、隅田川を泳いで渡るが如し。其の愚や笑ふべし。

▲判例の趣旨が真く判る!! 判決の要旨には、其の要旨の依つて來たる理由がある。其の理由の前提としての事實がある。これを知らずして要旨集にのみ頼つて判例を覽るは、航空地圖なくして飛行するが如し、危険極まりなし。

▲判例年鑑として見るならば!! 刑事では非辯護士取締法の解釋、共犯學說の判例、埼玉縣の百萬圓騙取事件の一審判決、民事では所謂前田判決の前田大審院部長在職最終の名判決等光彩陸離たるものである。

判決要録

四六版總革製爪掛附
紙數一千七百頁
定價 金六圓

送料 内地(普通)二二錢
臺灣・樺太・四七錢(書留)六二錢
朝鮮・滿洲・南洋(書留)六二錢

發行發賣所

東京市日本橋區本町四丁目五番地五
電話 日本橋(24) 五九三二番
振替 東京 五二五五番

法律新聞社

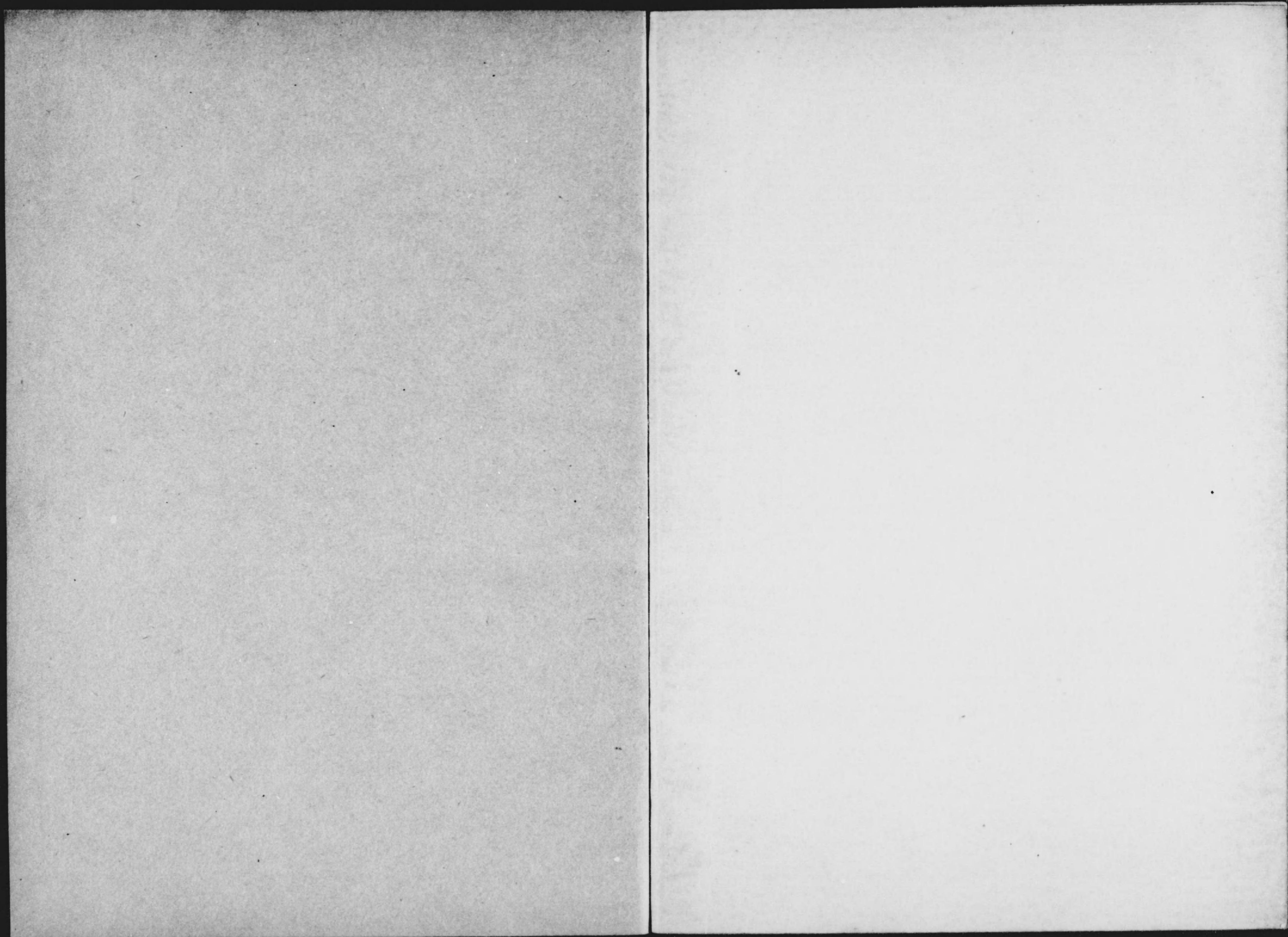
判決要録(十六卷) 特定價 金五圓五拾錢
判決要録(十七卷) 定價 金六圓
判決要録(十八卷) 定價 金六圓
判決要録(十九卷) 定價 金六圓
判決要録(二十卷) 定價 金六圓
判決要録(廿一卷) 定價 金六圓

判決要録(廿二卷) 定價 金六圓
判決要録(廿三卷) 定價 金六圓
判決要録(廿四卷) 定價 金六圓
判決要録(廿五卷) 定價 金六圓
判決要録(廿六卷) 定價 金六圓
判決要録(廿七卷) 定價 金六圓

大賣場

大阪 法政書房
東京 酒井書店
東京 東隆堂
東京 東海堂
東京 有斐閣

14.7
550



147
550

